

八丈島

台風13号災害の記録

東京都八丈町



発刊のことば

八丈町長 峯元清次

昭和50年10月5日午後4時、八丈島を襲った「台風13号」は、最大瞬間風速67.8メートル、家屋の損壊2,403棟、農業施設、商工被害など、被害の総額は55億円を超える有史以来の大災害となりましたが、人命には被害がなく不幸中の幸と存じております。この災害によって住民の受けた被害は大きく、残された負債は22億円余となり借入金の返済など住民の苦痛は図り知れないものがありこの対策に日夜苦慮しておりますが、あらゆる可能性を求め経済の復興策に全力をあげてまいりたいと考えます。

大賀郷小学校をはじめ公共施設も被害を受けましたが、国、都並びに自衛隊、その他の関係機関及び国会や都議会の議員各位をはじめ全国の多くの方々の善意とご支援により復旧工事も大方完了し深く感謝申し上げます。この災害を教訓として再びこのような災害を受けることがないように防災対策等に万全を期して全国からの善意に報いる決意でございます。

ここに台風13号災害の全ぼうを明らかにし、今後の対策等の参考とするため「台風13号災害の記録」を刊行することになりました。町民及び八丈島を愛される多くの方々にこの小冊子をご利用頂き、今後の災害対策の一助ともなれば幸いと存じます。

八丈島の限りない発展のため一層のご指導、ご助言を賜りますようお願い申し上げます。

目 次

1	災害発生の概要	1
2	災害対策本部の設置	3
3	災害救助法の適用	4
4	救援（援護）等の状況	4
5	被害の状況	7
6	応急対策および措置の状況	10
	(1) 東京都八丈支庁	12
	(2) 八丈町役場	15
	(3) 八丈島警察署	22
	(4) 八丈島電報電話局	25
	(5) 八丈島無線中継所	27
	(6) 東京電力(株)銀座支社八丈島事務所	28
7	協力隊の救援活動	30
8	義援金品	33
9	災害復興事業の推進	33
10	今後の災害に備えよう	34
11	住民が語る台風13号	35
12	全国からの善意に報いよう	60
	八丈町台風及び地震等の災害予防に関する 条例並びに建築物その他工作物等の災害及び 災害拡大の予防計画指導基準（案）	92
	あ と が き	104

1 災害発生 の 概要

(1) 気 象 概 況

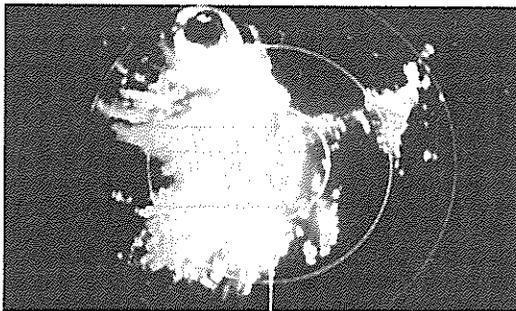
昭和50年9月29日、カロリン群島近海で発生した弱い熱帯性低気圧は、10月2日午前9時に沖の鳥島の南西海上で台風13号となった。

台風は北上を続けながら次第に発達して、進路を北東から東北東に変えて、5日午前6時には室戸岬の南方およそ250kmの海上に達した。このため、八丈島測候所では午前8時10分に大雨強風波浪注意報を発表した。

その後、午前9時には潮岬の南方200km、八丈島の西南西およそ400kmの海上を速度を速めながら八丈島に向かっているため、午前11時に暴風雨波浪警報を発表した。

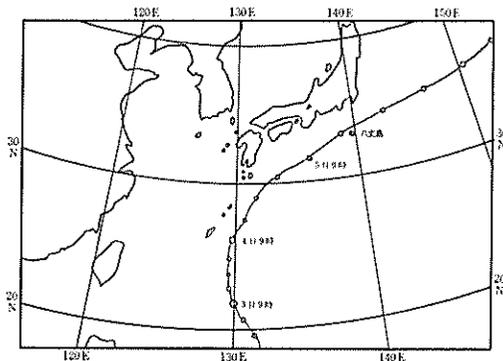
八丈島では、午後3時頃から急に毎秒15m以上の強風となり、午後4時30分には最大瞬間風速で毎秒67.8mの南風を観測した。これは八丈島測候所で観測を開始した明治40年以来の最大値である。

気象庁富士山レーダーによれば、台風は5日午後4時40分頃、八丈島の北方20km付近を時速60kmで通過し、この時の台風の勢力は気象庁発表によると中心気圧945ミリバール、中心付近の最大風速毎秒45m、毎秒25m以上の暴風域は南東側230km、北西側140kmとなっている。



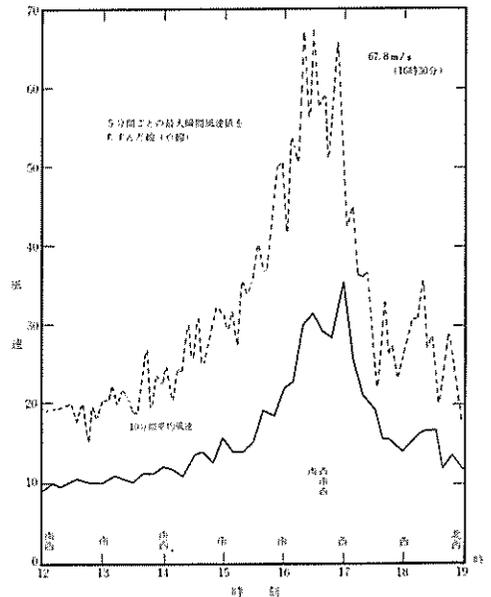
富士山レーダー観測による降水エコー写真

(1) 台風13号経路図 (昭和50年10月)



(2) 風速と風向の変化

(10月5日 八丈島測候所観測)



(2) 災害の概要

測候所における平均風速が毎秒20m（瞬間風速で毎秒30m～40m）に達した午後3時50分頃から、窓ガラスの破損や屋根の飛散が目立ってきた。これらの飛散物が風下の家屋に被害をおよぼす二次災害が重なり、大きな被害が生じた。また、樹木や電柱の倒壊もこの頃から急速におこっている。末吉灯台における最大風速は南風で毎秒60mぐらいになっており、全島にわたり大きな被害をもたらしたが、防風林の完備している家は、被害を最少限にとどめることができた。

今回の台風による雨量は25.5mmと少なかったが、反面塩風害が生じ八丈富士の山頂付近までの樹葉が枯死した。

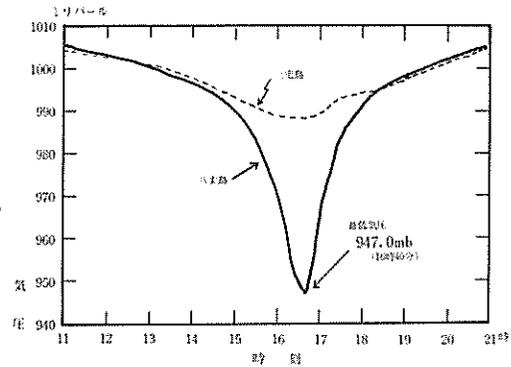
また、台風による高潮や波浪も大きく、台風接近時の潮位は八丈島測候所八重根検潮所の記録によれば、平常より最高2.2mも高くなっており、波浪の高さは8mぐらいと推定される。このため防潮堤などが破壊されたり道路に石が打上げられたり被害が生じた。

(3) 警報等の基準

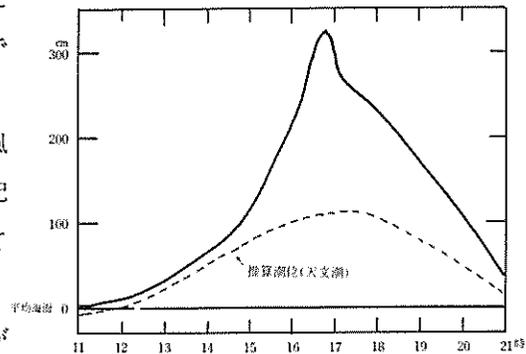
(イ) 台風が接近していることをテレビ、ラジオなどで知ったときは、注意報や警報が八丈島に発令されているかどうか留意することが大切である。警報が発表されるときは、重大な災害が生じると予想される場合で、八丈島において警報が発表される基準は、現在次のとおりである。

暴風雨警報 平均風速が毎秒30m以上になると予想される場合。

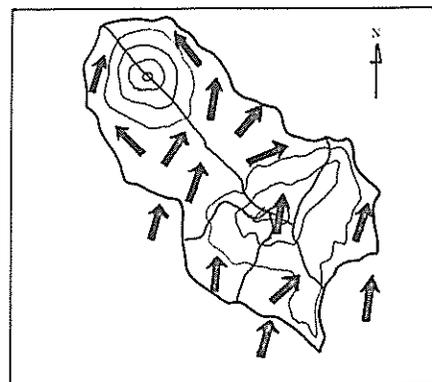
(3) 気圧の変化



(4) 潮位変化 (八重根検潮所)



(5) 台風13号(南風のとき)の島内推定風向



(倒壊方向および風洞実験から)

波浪警報 有義波高が6 m以上になると予想される場合。

大雨警報 1時間の雨量が50mm以上。(ただし、総雨量が150 mm以上になる。)

3時間の雨量が100 mm以上。24時間の雨量が300mm以上になると予想される場合。

(ロ) 最大風速とは、10分間の平均風速をいうもので、瞬間風速はこれの1.5倍～2倍ぐらいあることを承知しておく必要がある。

(ハ) 気象庁から発表される台風の大きさと強さは、次のとおりである。

台風の大きさの分類

程 度	1,000ミリバール等圧線の半径	風速毎秒25m以上の範囲(参考)
ごく小さい	100km以下	
小 型	100km～200km	100km前後
中 型	200km～300km	200km前後
大 型	300km～600km	300km前後
非常に大きい	600km以上	400kmまたはそれ以上

台風の強さの分類

階 級	中 心 気 圧	最 大 風 速毎秒(参考)
弱 い	990ミリバール以上	25m未満
な み	960ミリバール～989ミリバール	25m～34m
強 い	930ミリバール～959ミリバール	35m～44m
非常に強い	900ミリバール～929ミリバール	45m～54m
猛 烈 な	900ミリバール以下	55m以上

(八丈島測候所)

災害対策本部の設置

通信網の切断と、道路通行不能のため、被害の情報収集には苦心したが、断片的に入手する情報から、災害は町の全域に亘り被害も大きいと判断し関係職員を緊急招集して情報の収集、当面の対策など協議するとともに、10月5日午後6時町長を本部長とする「台風13号八丈町災害対策本部」を設置、被災住民の救援活動を強力に推進することになった。当日対策本部会議で協議決定、実施された事項は、避難所の開設(三根公民館、八丈高校収容33名)応急給食(乾パン)の配布、医薬品、ミルクの要請、資材(トタン板)の町での一括購入、被害調査要領など決定したが、通行不能箇所もあり夜間停電のため、翌日実施した。特に対策本部での資材(トタン板)の一括購入配布は、住民の利便はもとより、災害復旧資材の高騰を抑制する意味からも

有意義であったと考えられる。

なお、東京都及び八丈支庁においても、災害対策本部に準じた態勢で災害救助に対処することになり、都、支庁、町三者一体となつての救助活動が開始されて、11月15日災害対策本部が廃止されるまで、救援活動は円滑に実施され、関係機関及び、関係職員に感謝申し上げたい。



直ちに設置された災害対策本部

3 災害救助法の適用

災害の通報を受けた東京都は、被害対策のため緊急に関係職員を招集、協議した結果、志賀副知事を団長とする東京都災害調査団の派遣を決定、10月6日午前10時5分八丈空港到着、ただちに支庁および町関係者と打合せ、災害現場の視察等精力的に行い、予想をはるかに超えた災害に対処して、り災者の救助に万全を期するため、同日午前10時50分災害救助法の適用を発動した。(副知事決定)



美濃部都知事から
天皇皇后両陛下の御下賜金を受領

このことにより、次の事項について積極的な救援活動が実施された。

- (1) 生活必需品の給与
- (2) 教科書等学用品の給与
- (3) 応急仮設住宅の建設供与
- (4) 半壊住宅に対し、応急修理費の給与

4 救援(援護)等の状況

(1) 災害救助法による措置状況

(イ) 物資給与の状況

区分	品名		肌着	上ゴ	敷巾	敷フトン	敷布	ナベ	バケツ	日用品セット	ローソク	支出金額
	世帯数	枚										
全壊	294	799	681	799	799	799	420	420	672	2,029	6,178,556	
半壊	533	1,450	1,409	1,449	0	0	881	767	1,366	3,957	4,458,207	
一部破損	34	91	104	91	0	0	53	53	94	250	294,242	
計	861	2,340	2,194	2,339	799	799	1,354	1,240	2,132	6,236	10,931,005	

(ロ) 住宅応急修理費支給状況

地区名	世帯数	支給金額	摘要
三 根	187	23,345,845 ^円	
大賀郷	191	24,313,250	
檜 立	28	3,670,800	
中之郷	34	4,176,591	
末 吉	21	2,753,100	
計	461	58,259,586	

注 対象世帯（公営住宅は除く）は494世帯であるが、申請は461世帯であった。

(ハ) 学用品の給与状況

区 分	教 科 書			その他の学用品			支出合計
	児童生徒数	点数	支出額	児童生徒数	点数	支出額	
小学校	35 ^人	159 ^点	23,216 ^円	550 ^人	13,750 ^点	1,188,000 ^円	1,211,216 ^円
中学校	30	289	60,315	337	7,862	785,210	845,525
計	65	448	83,531	887	21,612	1,973,210	2,056,741

(ニ) 応急仮設住宅建設の状況

地区別 敷地所有区分	三 根	大賀郷	檜 立	中之郷	末 吉	計
私有地	1 ^戸	14 ^戸	2 ^戸	3 ^戸	0 ^戸	20 ^戸
公有地	12	4	0	0	2	18
計	13	18	2	3	2	38

注 着工昭和50年10月13日 竣工昭和50年10月21日 入居昭和50年10月22日 建設工事費36,989,998円である。

(2) その他の援護並びに措置状況

(イ) 災害見舞金の支給状況

(単位 千円)

地区別 区 分	三 根	大賀郷	檜 立	中之郷	末 吉	計	摘要
件 数	122	115	20	13	30	300	
金 額	16,640	14,790	3,000	1,810	4,600	40,840	

注 災害見舞金は全壊家屋の世帯に支給した。

(ロ) 災害援護資金の貸付状況

(単位千円)

区分	地区別	三根	大賀郷	檜立	中之郷	末吉	計	摘要
件数		129	139	26	34	37	365	
金額		69,400	76,500	14,400	18,600	23,200	202,100	

注 援護資金貸付の最高額は100万円、最低額は30万円である。

(ハ) 災害復旧資金(一部破損)の貸付状況

(単位千円)

区分	地区別	三根	大賀郷	檜立	中之郷	末吉	計	摘要
件数		101	90	24	74	22	311	
金額		17,130	15,280	3,760	12,580	3,720	52,470	

注 一部破損住宅対象に最高17万円、最低10万円を基準に貸付けた。

(二) 災害復旧資金融資申込みの状況

(単位千円)

区分	資金の区分	利率	件数	金額	摘要
住宅関係	住宅金融公庫	5.5	58	251,300	新築
			99	143,600	補修
	東京都	4.0	8	23,100	新築
			2	3,500	補修
農業関係	農業近代化資金				
	施設資金	3.0	190	287,990	
	経営資金	3.0	96	70,480	
	組合資金	3.0	1	30,000	
商工業関係	都施設改善資金	5.0	39	171,460	
	環境整備等経営安定資金	7.0	41	210,210	
	小規模企業融資 ^(注)	7.0	13	21,750	
	〃 ^(金)	8.0	4	8,000	
	国民金融公庫	8.9 ~3.0	139	426,800	
	中小企業金融公庫 商工中	8.9	6	113,000	
その他	信用組合	9.4	338	166,400	
	その他		20	85,650	
計			1,054	2,013,240	

注 町から貸付の災害援護資金並びに災害復旧資金は前表のとおりであり、この融資申込額が100%借入できたとすると、この災害による借入金総額は2,267,810千円となり、1世帯あたり約594千円、住民1人あたり約214千円となる。

(ホ) 町税等の減免状況

(単位円)

税目 区分 地区別	町 民 税		都 民 税		固 定 資 産 税		国民健康保険税		計	
	件数	税 額	税 額	件数	税 額	件数	税 額	件数	税 額	
三 根	33	163,490	104,610	120	1,419,640	53	513,470	206	2,201,210	
大賀郷	37	147,100	103,630	98	763,140	59	466,350	194	1,480,220	
檜 立	4	10,440	8,360	24	67,040	16	115,000	44	200,840	
中之郷	8	47,790	30,610	25	41,440	18	115,700	51	235,540	
末 吉	3	16,540	12,160	27	59,340	20	184,200	50	272,240	
島 外	79	1,319,830	760,120	13	9,680	0	0	92	2,089,630	
計	164	1,705,190	1,019,490	307	2,360,280	166	1,394,720	637	6,479,680	

注 被災住民に対し、町税の減免の特例に関する条例を制定して、町税等の減免措置を行った。

5 被害の状況

10月6日早朝より町役場全職員を動員、調査を実施するとともに、関係機関からの被害報告を求め、集計された被害状況は、次表のとおりで、被害総額は、5,543,082千円となった。台風の規模、その強烈さから、人命に被害がなかったことは、幸いであった。これは台風の通過が夜間でなく、飛散物が確認出来たことと、休日で学童の登校がなかったことだと思う。

なお、台風銀座といわれる八丈島で永年培われた、生活の知恵を住民が実践し、暴風中他への避難を行わず風呂場等に布団、毛布で身を守り通過を待ったことも、人身被害を最少限にとどめたものと考えられる。



朝日新聞社提供

被害状況一覧

(単位千円)

区 分		被 害	被害の金額	摘 要
人的被害	負傷者	重傷 人	3	—
		軽傷 人	82	—

区		分	被 害	被害の金額	摘 要
住 宅 被 害	全 壊	棟	285	1,140,000	
		世帯	304		
		人員	822		
	半 壊	棟	524	524,000	
		世帯	539		
		人員	1,724		
	一 部 破 損	棟	1,268	190,200	
		世帯	1,331		
		人員	4,217		
計		棟	2,077	1,854,200	
		世帯	2,174		
		人員	6,763		
非 住 宅	公 共 建 物	棟	12	15,860	保育園・公会堂など(学校除く)
	そ の 他	〃	361	949,830	ホテル・商店・倉庫など
小 計				2,819,890	
公 共 施 設 被 害	畑 埋 没	ha	0.3	27,308	
	空 港 施 設	箇所	1	15,000	照明施設他
	文 教 施 設	〃	15	233,353	小・中学校11ヶ所 230,308 八丈高校4ヶ所 3,045
	医 療 施 設	〃	8	13,897	町立病院 12,537 診療所(個人) 1,360
	道 路	〃	2	1,920	
	漁 港	〃	1	44,000	
	河 川	〃	1	500	
	港 湾	〃	1	4,000	
	砂 防	〃	1	120,000	横間ヶ上砂防
	道路交通安全施設	〃	722	19,000	町道 1,000 都道 18,000
	道路障害物除去	〃	115	13,060	
	消 防 施 設	〃	1	1,050	消防無線
	船 舶	隻	4	10,000	舳
	通 信 施 設	回線	2,200	—	算出困難
防 潮 林	箇所	1	15,000		

区 分		被 害	被害の金額	摘 要	
公 共 施 設 被 害	樹 木 倒 壊	本	50,000	50,000	
	公 園 施 設	箇 所	15	31,000	公園樹木(町) 都立公園・国立公園施設
	水 産 施 設	〃	1	9,050	製氷施設
	林 産 施 設	〃	1	800	しいたけ乾燥施設
	公 共 牧 野	〃	1	1,690	富士牧野
	農業構造改善施設	〃	6	19,592	果樹棚・集荷所他
	小 計			630,220	
農 水 産 施 設 被 害	農 協 施 設			12,800	
	ビニールハウス			640,506	ビニールハウス・温室など
	農 機 具			3,274	
	牛 舎			16,463	
	豚 舎			4,835	
	鶏 舎			3,802	
	小 計			681,680	
農 作 物 被 害	野 菜			35,251	
	樹 木			225,576	樹木(花木)
	球 根			19,866	
	切 花			275,576	ストレッチャ・ロベなど
	植 木			589,057	観葉植物
	飼 料 作 物			4,500	
	そ の 他			519	
	小 計			1,150,345	
	漁 船			2,400	漁船一部破損
	林 産			18,232	植林地倒木被害
商 工				240,315	商品被害
合 計				5,543,082	

○り 災 世 帯 2,174 世帯

○り 災 者 数 6,771 名

(り 災者数は、全・半・一部破損住宅人員6,763名と人的被害のみの2世帯8名の計である。)



破壊された大賀郷小学校々舎の一部

6 応急対策および措置の状況

10月5日 台風13号八丈島を直撃。

午後4時30分、八丈島測候所において最大瞬間風速67.8mを観測。全島停電、電話不通（60%）一部断水となる。

午後6時、八丈町災害対策本部設置。

午後10時40分、東京電力は島内中枢機関を対象に送電開始（支庁、町役場、病院、警察）

6日 志賀副知事を団長とする東京都災害調査団来島。

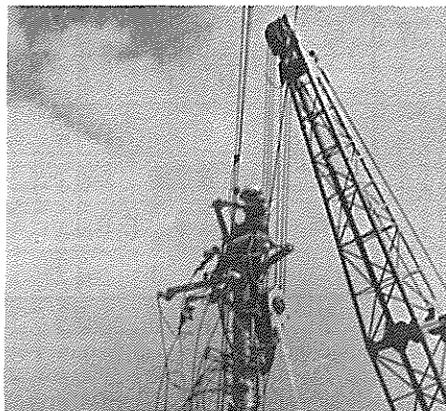
午前10時50分、災害救助法を適用。

午前11時30分、八丈島電報電話局では、局前に災害地特設電話3台設置、被災者への無料サービス実施。

警視庁第一機動隊20名来島。ただちに復旧作業開始。

八丈島無線中継所では復旧作業応援のため8名来島。

東京電力では現地工事店の応援18名を含め、84名で復旧作業開始。



電線の復旧工事

7日 東京電力から工事関係者32名来島、復旧作業人員116名となる。

8日 八丈町では、振興委員の協力を得て家屋の被害状況調査を実施。

陸上自衛隊第1普通科連隊106名復旧作業応援のため来島。都住宅局、応急仮設住宅用地現場調査。

八丈町で広報災害特集号No.1を発行。
り災電話298回線復旧(復旧率72.9%)

9日 八丈町臨時町議会開催。災害関係予算の議決並びに災害復興特別委員会の設置。

都地方課、災害調査のため来島。陸上自衛隊第1普通科連隊第二陣100名来島。

り災電話完全復旧(ただし、家屋倒壊等による復旧不能のものは除く)

10日 国会議員団、災害状況調査のため来島。

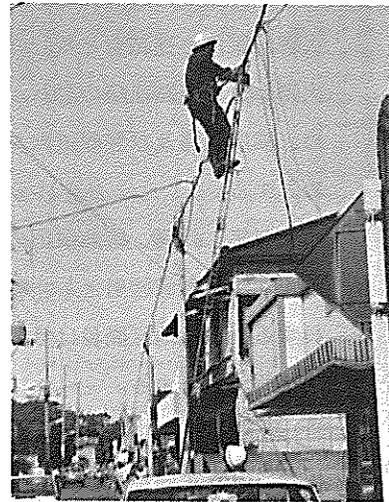
11日 美濃部都知事、災害状況視察のため来島。

東京電力では、全壊家屋を除き応急工事完了。全戸点灯。

12日 八丈町災害復興特別委員会開催。
八丈町広報災害特集号No.2発行。



復旧作業応援のため来島した自衛隊員



電話線の復旧工事



災害状況視察のため来島した美濃部都知事



災害援護資金貸付の受付のようす

- 13日 全校授業開始。
各種災害融資の受付始まる。
- 14日 応急仮設住宅建設開始。
- 22日 応急仮設住宅入居開始。
- 26日 産業開発青年隊82名、復旧作業応援のため来島。

11月15日 午後5時 災害対策本部廃止。

(1) 東京都八丈支庁

10月5日 第1次非常配備態勢、情報を収集し課長会を開催することに決定。

総務、福祉、産業、土木課長会を開催、第2次非常配備態勢をとることに決定し、職員の召集に当る。

第2次非常配備態勢完了。

災害対策部と連絡をとる。

大雨による道路崩壊の恐れがあるため、横間道路及び登龍道路を通行止めとする。

情報収集、救護、応急復旧のため、第4次非常配備態勢とし、職員を動員する。坂上地区職員はそれぞれ各出張所詰めとする。



横間道路に横倒しになった自動車

都庁において、各局長による災害対策会議が開かれる。

停電、道路不通による被害状況、調査不能のため調査を断念待機する。

6日早朝被害調査をすることとし、第2次非常配備態勢に縮小。

東電応援職員派遣についてへりを要請。

災害救助法適用について検討中の旨連絡あり。

被害地調査団副知事一行メンバー決定。

6日 被害地調査に出動。

電電職員派遣についてへり要請。

八丈町において災害対策会議。

副知事一行被災地調査団来島。

食中毒発生予防のため、食品衛生監視員、環境衛生監視員派遣要請。

各党都議代表団調査のため来島。

- 7日 救援物資、医薬品輸送。
雨天時の対策として、ビニールシート462枚要請、午後3時39分入荷。
自衛隊派遣要請。
東海汽船等による物資の入荷状況調査。
自衛隊受入れ体制について八丈町と協議。
支庁長、地方課長、土木課長、青ヶ島地区被災調査のため渡島。
都議調査団一行坂上地区調査。
- 8日 自衛隊受入れについて八丈町と再度協議。
東電応援職員派遣のためへり要請。
道路、農道、商工被害等再調査。
復旧、措置状況及び応援対策について課長会。
広報活動。
- 9日 建設資材等配布応援。
広報活動。
商工関係融資対策について協議。
現地調査集計の結果を農業団体、漁業団体と打合せ。
失対就労者被害状況調査を開始。
応急仮設住宅建設計画打合せ。20日完了を予定。
住宅資金融資連絡会を開催する。
小、中学校取こわし立合い。
救援物資、毛布、ゴザ他を出荷決定、10日入荷予定。
- 10日 救援物資入荷、運搬を応援する。
自衛隊員の目的作業完了のため撤収方手配要請。
食料品販売店の監視指導、宿泊施設被害状況及び宿泊者数、食事提供の内容、保存食品の調査指導。
- 11日 知事一行来島、御下賜、見舞金を伝達する。
学用品の支給を一部破損世帯も含めて支給できるよう要請。
予防衛生重点の監視業務及び旅館組合に対する防疫講習会の実施。
物価動向及び流通関係調査
共済、互助組合員の被害状況調査。
救援物資、義援品の受領及び配布応援。
自衛隊員の撤収を完了する。

- 12日 八丈町災害復興特別委員会へ支庁長、総務課長出席、災害復興計画について打合せする。
- 復旧資材の入荷状況を調査。
- 燃料、生鮮食品等の物価動向、流通関係を調査。
- 予防衛生重点の監視業務を実施する。
- 応急仮設住宅の建設を決定着工する。
- 13日 中・小企業関係資金融資受付を開始。
- 山林、林産物関係の被害調査。
- 旅館、民宿等島内旅行者の受入れ状態を調査。
- 都政記録映画に八丈の被害、復興状況を収録することに決定（広報室）
- 住宅関係融資のため担当者の来島を要請、決定する。
- 被災世帯調査まとまる。
- 14日 応急仮設住宅被保護者分散地整備並びに入居指導。
- 住宅関係融資説明会打合せ。
- 小、中学校児童生徒の被災状況調査集計。
- 老人ホーム入所指導。
- 義援品の基本的な取扱いについて本庁、町と協議する。
- プロパンガス災害防止計画指導。
- 応急仮設住宅の建設について住宅局長あて要望書を送付する。
- 八丈町の国、都、他関係団体への陳情先について協議。
- 生活必需品の配分について、至急配分するよう要望する。
- 建設資材、義援品の入荷状況を調査。
- 15日 生活必需品を追加要請する。
- 医療機関の被災状況を調査。
- と殺場衛生検査、予防衛生重点の監視業務。
- 空港施設被害調査。
- 16日 物価安定供給用玉ねぎ無償放出決定。
- 小、中学校児童生徒に支給する学用品目を決定する。
- 中之郷漁港復旧計画打合せ。
- 中、小企業向け融資対象者の現地調査を実施する。
- 交通安全施設復興計画会議開催。
- 都税納期限の延長及び減免措置に伴う現地調査。

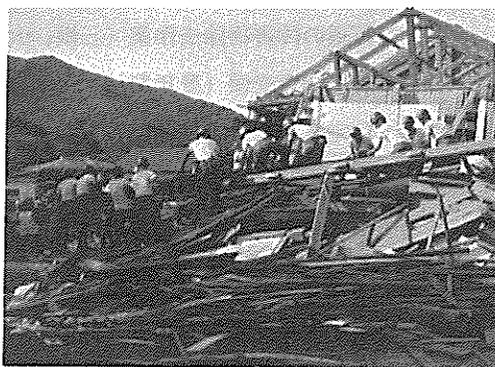
- 16日 横間道路災害危険箇所の実点監視。
被災職員に対する住宅資金貸付相談及び物資のあっせん業務開始。
- 17日 学用品の支給期限延期について要望。
老人憩の家復旧作業。
冷凍機関係災害防止指導。
森林関係被害調査。
- 18日 学用品の支給期限延期について了解をとる。
支庁の配備態勢を検討。
建設資材及び学用品の入荷状況調査。
被保護者住宅補修相談。
- 19日 八丈町災害復興特別委員会に出席。
応急仮設住宅入居について打合せ。
- 20日 救援物資の入荷状況調査。
教科書配布終る。
応急仮設住宅一部電気設備を除き建設を完了する。
農作物対策及び農業金融事務説明会。
- 21日 農業関係融資受付相談。
商工業関係融資受付相談。
住宅資金受付相談。
- 22日 応急仮設住宅入居完了。
物価動向調査。
建築確認事務現地処理の実施。
- 27日 激甚災害指定調査。
- 11月15日 第一次非常配備態勢解除。

(2) 八 丈 町 役 場

- 10月5日 八丈町災害対策本部設置（午後6時）
避難所設置、三根公民館3世帯11名収容、全員宿泊。八丈高等学校3世帯11名収容
宿泊なし。
災害関係広報（末吉地区の通行不能）
入院重症患者、安全病棟へ移動。負傷者の治療（町立病院）
- 6日 各官公署との情報交換、対策打合せ会議。

- 6日 都災害調査団（団長志賀副知事）来島。
災害調査実施（全職員）
災害救助法適用（午前10時50分）
義援物資、応急医薬品受領（都、日赤）
被災家庭にローソク配布。
飲料水の給水（三根、大賀郷地区の一部、檜立、末吉地区）
報道関係来島（読売、朝日、毎日、中日、共同通信、東京各新聞社、NHK、NET、フジTV、TBS、日本TV）
災害関係広報（電気の復旧状況、生水注意）
農業、観光、商工関係被害調査実施。
水源被害状況調査及び水源補修。
そごみ収集作業（大賀郷地区）
道路の倒木及び障害物除去（三根、大賀郷地区）
建築業者及び木材販売業者と打合せ（復旧に協力を求める）
- 7日 災害救助事務（合同）開始。災害救助法実務指導（都災害対策部）
都住宅局、応急仮設住宅、住宅資金貸付説明会実施。
災害救助予算案調整。
義援物資受領（都、日本専売公社他）、物資（ローソク）配布。
都水道局よりポリ容器（給水用）200ヶ到着。
飲料水の給水（三根、大賀郷の一部、檜立、末吉地区）
自衛隊派遣要請（午前11時10分）
航空自衛隊C1ジェット機にて防水シート到着（1.8m×2,000m×10ヶ）
防水シート配布（1戸当り1.8m×10m）
災害関係広報（低気圧接近に伴う大雨情報）
都教育長、災害調査に来島。
そごみ収集作業（三根、大賀郷地区）
道路の倒木及び障害物除去（三根、大賀郷地区）
- 8日 義援物資受領（都、松下電気、ヤンマー他）
都住宅局応急仮設住宅用地現場調査。
飲料水の給水及び給水器具回収（全地区）
陸上自衛隊第1普通科連隊来島（C1ジェット機106名資材5t、午後4時41分）
八丈町広報発行（災害特集号No.1）

- 8日 災害関係広報（気象状況、電力復旧状況、トタンの入荷状況）
り災証明書発行開始。
二次災害防止のため危険家屋取りこわし（檜立青年館、消防檜立分団）
そごみ収集（大賀郷、坂上地区）
町道倒木除去（中道伊郷名線）
- 9日 陸上自衛隊第1普通科連隊来島（C1ジェット機100名午前8時0分）
町営路線バス運行開始。
臨時町議会（災害関係予算議決。特別委員会設置）
- 9日 校舎整理作業（大賀郷小学校、大賀郷中学校、三原中学校）自衛隊。
文部省災害調査のため来島。
災害関係広報（電気、電話の復旧状況）
そごみ収集（三根、大賀郷地区）
災害復旧用トタン配布（町あっせん有料）
都地方課災害調査のため来島。
被災者用生活必需品、東京都に要請。
- 10日 全、半壊被災世帯に義援物資配布（毛布、ラーメン他）
義援物資受領（日赤、東洋水産その他）
応急仮設住宅用地調査及び整地作業。
自民党、社会党国会議員団災害調査に来島。
校舎整理作業（大賀郷小学校、大賀郷中学校）自衛隊。
町道路面整備作業（中道伊郷名線）自衛隊。
そごみ収集（三根地区）
- 11日 美濃部都知事被害状況視察のため来島（御下賜金、見舞金伝達）
救援物資受領（毛布、肌着、パケツ、その他）
義援物資受領（マルマ運輸他）
義援物資配布（ボンカレー、その他）
校舎整理作業（大賀郷小学校）自衛隊正午まで。
電話復旧応援（登龍線）自衛隊。
自衛隊離島（C1ジェット機他 午後3時15分）

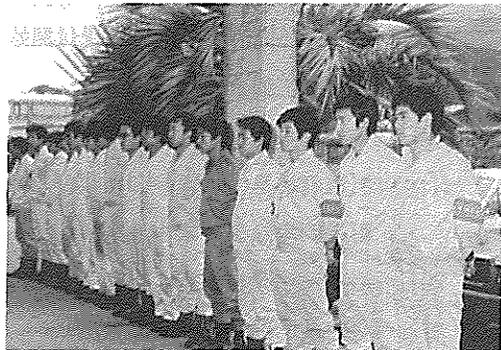


自衛隊員による跡かたづけ作業
— 大賀郷小学校 —

- 11日 町道路面整備（中道伊郷名線）
- 12日 救援物資配布（毛布、肌着、その他）対象は全、半壊世帯。
義援物資受領（日赤、日本専売公社、エースコック）
小松ハウス(株)応急仮設住宅建設現場調査。
災害復興特別委員会（見舞金決定、陳情御礼上京打合せ）
災害広報（電気引込線修理関係及び坂上停電）
広報発行（災害特集号No.2）
浄水場配電盤点検（八戸浄水場）三栄電興KK。
そごみ収集作業（大賀郷、三根地区）
町道の障害物除去作業（三根、大賀郷地区）
- 13日 義援物資受領（豊年製油、宝酒造他）
住宅応急修理費扶助関係通知書作成
建築資材価格動向調査（都物価局）
災害広報（ケーブル故障により停電、全地区）
全校（小・中）授業開始。
ポンプ場配電盤点検（洞輪沢）三栄電興KK。
商工関係金融相談。
そごみ収集作業（三根、大賀郷地区）
災害見舞金支給（全地区）
道路不通箇所調査（末吉地区）
- 14日 調査もれを除き、被害程度の変更は認めない旨、都から指示を受ける（午前11時）
応急仮設住宅資材底土港到着。
応急仮設住宅建設開始（都住宅局）
住宅応急修理費扶助関係書類発送。
義援物資受領（東京新聞、その他）
災害広報（坂上地区停電）
災害援護資金貸付申込受付開始（大賀郷地区）
農業委員会（農業災害対策審議）
友島三宅島より大工来島（3名）
浄水場計器点検（八戸浄水場）横河電機。
商工関係金融相談。
災害見舞金支給（三根地区）

- 14日 道路側溝じん芥処理作業（三根、大賀郷地区）
- 15日 東京都より救援物資受領（ふとん 753 枚）
義援物資受領（資生堂、その他）
給水用ポリ容器返送（都水道局）
商工関係金融相談。
災害見舞金支給（三根地区）
災害援護資金貸付申込受付（三根地区）
- 16日 救援物資、義援物資配布（全地区）
商工関係金融相談。
災害見舞金支給（三根地区）
災害援護資金貸付申込受付（檜立、中之郷）
側溝じん芥処理作業（三根、大賀郷、末吉）
- 17日 義援物資受領（日赤）
側溝じん芥処理作業（中之郷地区）
商工関係金融相談。
- 18日 東京都より救援物資受領（塩害追加分）
義援物資受領（榎本氏）
住宅応急修理費扶助関係受付開始。
農業被害調査集計。
- 19日 各小・中学校児童、生徒へ教科書配布。
町道の崩土、倒木除去作業（三根山間部）
町道倒木除去（末吉地区）
- 20日 各小・中学校児童、生徒へ教科書配布。
災害救助関係予算案調整。
漁業関係災害調査。
若草保育園、保育開始。
- 21日 救援物資（塩害世帯）及び義援物資配布。
応急仮設住宅完了検査（都住宅局）
農業近代化資金貸付申込受付。
排水路災害調査（檜立地区）
町道倒木及び障害物除去（大賀郷地区山間部）
- 22日 応急仮設住宅入居者説明会及び現場案内。

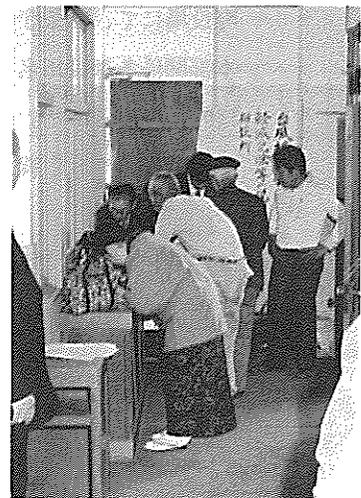
- 22日 応急仮設住宅入居開始。
 農業近代化資金貸付申込受付。
 水源管路倒木除去作業（末吉地区、桑谷ヶ洞）
 側溝じん芥処理作業（末吉地区）
- 23日 各小・中学校児童、生徒へ学用品配布。
 農業近代化資金貸付申込受付。
 水源補修作業（鴨川水源）
 義援物資受領（田島ルーフィング㈱）
- 24日 義援物資の整理。
 漁船被害調査（各地区）
 水源補修作業（鴨川水源）
- 25日 義援物資受領（東京都）
 産業開発青年隊受入準備。
 水源補修作業（鴨川水源）
 町道倒木除去作業（大賀郷、檜立地区山間部）
- 26日 産業開発青年隊来島（八重根上陸82名）
 町道倒木及び障害物除去（中之郷地区）
- 27日 義援物資受領（松田博子氏）
 産業開発青年隊、作業開始。
 末吉保育園、保育開始。
- 28日 激甚災害指定関係被害調査
 災害援護資金貸付審査委員会（決定件数 288 件）
 各小・中学校、学用品配布（寄贈分）
- 29日 義援物資受領（カネボウ食品、日本建築板金㈱他）
 果樹棚被害調査。
 激甚災害指定関係被害調査。
- 30日 義援物資受領（教宣文化社）
 激甚災害指定関係被害調査。
- 31日 義援物資受領（外岡憲治氏他）



災害復旧の応援にかけつけた産業開発青年隊

- 31日 災害関係広報（本部設置の延長、被害調査苦情受付、住宅応急修理費扶助受付期間延長）
災害広報（幹線道路通行止め、末吉地区）
- 11月1日 被害調査苦情受付開始
災害救助費精算事務開始。
住宅応急修理費扶助受付期間延長通知。
災害復旧用トタン配布（町あっせん、有料）
- 4日 義援物資受領（甲野善勇氏）
災害救助事務指導のため、都災害対策部戸田係長一行来島。
- 5日 住宅応急修理扶助費支払開始。
- 6日 義援物資配布
住宅応急修理扶助費支払。
産業開発青年隊へ生活用品給与。
漁業災害融資関係打合せ。
学用品配布（町単独分）
- 7日 住宅応急修理扶助費支払。
被害調査苦情受付終了。
漁業災害融資関係打合せ。
- 10日 災害救助精算事務打合せ。
苦情申し出住宅被害状況再調査。
- 11日 住宅応急修理扶助費未請求者に対し、手続等の通知。
苦情申し出住宅被害状況再調査。
義援物資受領（岡本芳子氏）
- 12日 災害状況、最終報告完了。
- 13日 災害見舞金支給。
災害援護資金貸付審査委員会。
（54件～28,500千円）
- 14日 産業開発青年隊一部離島（12名）
- 15日 災害対策本部廃止（午後5時0分）

◎災害対策本部廃止後はそれぞれの所管課において、災害復旧対策に対処することにし、資金のあっせん、税の減税措



町税減免の申請に来庁した被災者

置等実施した。

(3) 八丈島警察署

10月5日 全署員に台風情報を伝達し、災害発生に備え資材の整備を図った。

パトロールカー、広報車による広報および避難船の調査を実施するとともに、全署員を招集、本署において待機。

「八丈島警察署災害現場警備本部」を署長室に設置する。(署長以下32名)

三根駐在所、旧署長公舎に被害発生。

大賀郷において、負傷者1名が発生した旨「110番」通報を受理しパトロールカー出動。しかし強風のため

徒歩にて救助活動に従事する。

支庁、東電、報話局と対策打合せ、被害調査および被害者救助のため広報活動を開始。

町長、署長災害対策打合せ。

6日 全署員に訓示、指示及び対策会議開催。

被害調査を再開する。

町役場にて、官公庁情報交換および対策会議。

本部関係各課員15名、ヘリにて来島。

信号機の修理開始。

本署において、志賀副知事、峯元町長と対策会議。

無線基地の修理開始。

道路環境の整理開始。

町役場裏手の交差点信号機復旧。

警視庁第一機動隊杉本警部以下20名来島。ただちに復旧作業開始。

支庁において災害対策会議。

本署において災害対策打合せ。



破壊された旧署長公舎



役場裏手交差点の信号機

7日 末吉地区および永郷の道路整備に従事。
全島をヘリコプターで視察。

町役場からバス路線環境整備の要請
を受け、機動隊出動。

大賀郷河口交差点の信号機一部復旧。
携帯用発電機により、三根護神交差
点の信号機点灯。



機動隊員による道路復旧作業

8日 坂上地区の道路整備および家屋の復
旧作業に従事。

大賀郷中学校上交差点信号機復旧。

三根小学校前交差点信号機復旧。

支庁から「横間崖崩れの危険あり」
との通報を受け、署長指揮の下で機
動隊出動。

大賀郷地区の独居老人家屋の復旧作
業に従事。

檜立青年館の整理要請を受け出動す
る。

本署において災害対策会議。



独居老人家屋の整理

9日 坂下地区の独居老人家屋の復旧作業。
保育園周辺の整理。

八重根の倒壊家屋整理。

岡田邦雄巡査、道路復旧作業中負傷。

河口交差点下倒木の撤去。

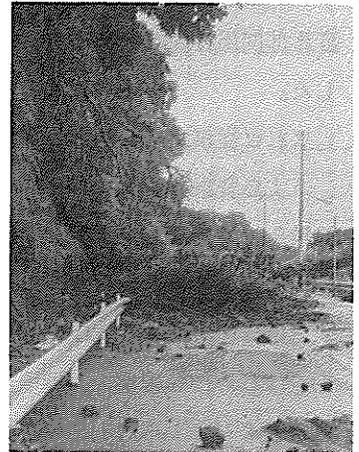
末吉地区の送電線復旧作業の協力要請を受け、機
動隊出動。

本署において災害対策会議。

10日 大賀郷地区の独居老人家屋の復旧作業および倒木
の撤去。

末吉地区の路上倒木の撤去。八重根地区の倒壊家
屋整理。

全信号機復旧完了。



河口交差点下の土砂崩れ

11日 信号機再点検。

大賀郷小学校近辺の倒木撤去。ブロック塀の整理。

ヘリコプターによる島内視察。美濃部都知事災害状況視察のため来島。警護にあたる。

大賀郷中学校近辺の倒木の撤去およびブロック塀の整理。



独居老人家屋の倒木撤去

12日 官舎等の環境整備。道路標識の補修。無線局の点検。

島内一周道路環境整備。

樫立、中之郷地区の送電線工事の応援。

13日 道路環境整備。道路標識の点検および補修。

駐在所補修および庁舎周辺の環境整備。

14日 大賀郷地区独居老人家屋の整理。

中之郷、末吉地区の高圧線周辺の整理。

15日 庁舎内外の環境整備。

機動隊20名、災対課主任1名離島する。

午後5時15分「八丈島警察署災害現場警備本部」を閉鎖する。

(イ) 警察の災害対策

八丈島警察署では、台風の来襲に備え5日正午「災害現場警備本部」を設置、全署員を招集して、台風に伴う災害の警備にあたるとともに、翌10月6日以降10月15日までの10日間、警視庁本部関係各課から24名および機動隊20名の応援を得て、災害復旧活動に寧日なき努力を傾注した。

これに従事した人員は

八丈島警察署 署長以下11日 延 381名

機動隊 中隊長以下10日 延 200名

警視庁本部員 災対課長以下10日 延 55名

警察は、町役場、支庁等関係機関と密接な連絡のもと、公共施設（主として道路）の緊急復旧をはじめ、独居老人、母子家庭など自力復旧の困難な被災者に対し、倒壊家屋、倒木等の除去整理などによる復旧活動を全面的に支援した。

台風の接近に伴い、人命の安生を図るため磯釣り客をはじめ全島にわたり台風の「接近時刻、

大きさおよび注意すべき事項」等を広報し、災害の防止を喚起した。

また、台風通過時、全署員が分担して110番等による訴出に対して、住民の安寧を図るため巡回して激励を行うとともに、被害の実態把握に努め、その結果を東電、町、支庁等へ通報して復旧活動の早期実現を図った。

災害発生後においては、全島内の治安維持に一寸の間げきも生じないように、駐在所を拠点に民心の安定に尽力した。

(ロ) 災害の教訓

風速60mを超える暴風の際は、不用意に屋外に出ないこと。

今回の台風13号は、瞬間最大風速67.8mで屋根のトタン板が飛来して電線、電話線をズタズタに切断したばかりでなく、三根では直径30cmの樹木に半分程鋸で切ったようにトタンが喰込む有様であった。

古老の話によると「以前、飛んで来たトタンで首を切落された者があった」ということであり、暴風の際の外出は危険である。

避難する際は、風呂場、トイレ、地下室など二重構造の場所を選定すべきである。

国際観光ホテルでは、材木が風上から飛んできて10mmを越す厚ガラスが破壊され、部屋に突刺さった。このことから、避難場所の選定には十分に留意すべきである。

風上に壊れやすい家屋あるいは材木等が積んである場合は、二次災害を招き被害が大きくなるので、事前に始末をしておく必要がある。

復旧作業をすすめるにあたっては、自力復旧が困難な独居老人や母子家庭の救援に配慮すべきである。

今回の台風13号の災害は全島におよんだため、お互いに自家の復旧に従事し、消防団や青年団等の招集が不可能であった。

このため、自力復旧の困難な家庭が取残される結果となったので、警察部隊はこれらの救援活動を優先させた。

サッシのみで暴風に耐えることができず、鉄のシャッターも必ずしも安全ではなかった。庁舎内車庫に取付けてあった巻上式の鉄のシャッターが破壊され自動車が損壊した。

また、サッシを素手で押えていてガラスが割れ、負傷した者が70%もあった。この場合畳等を利用した方が安全性が高く効果的である。

なお、雨戸は被害を最少限に防止する役目を十分に果たしていた。

(4) 八丈島電報電話局

10月6日 午前11時30分局前に災害地特設電話3台設置、被災者への無料通話の便をはかる。

- 6日 東京地方電気通信部等の応援を得、午後2時主要回線11の復旧完了。り災電話2,200回線のうち846回線復旧（復旧率38.5%）
- 7日 り災電話460回線復旧（復旧率59.4%）
- 8日 り災電話298回線復旧（復旧率72.9%）
- 9日 り災電話完全復旧（家屋倒壊等により復旧不可能のものを除く。）



電話線の復旧工事

(イ) 電話回線のり災状況

		局番2	局番7	局番8	計
加入者数		2,800	600	200	3,600
り災	一般電話	1,631	393	105	2,129
	公衆電話	59	7	5	71
計		1,690	400	110	2,200

(ロ) 通信設備の被害状況

		単位	数量	摘要
電柱損傷		本	76	
電柱倒壊		本	139	傾斜を含む
ケーブル損傷		箇所	283	
SDW損傷		箇所	120	
配端子不良		個	153	

災害復旧活動の状況

10月6日の台風あけと同時に、東京地方電気通信部等より応援職員の第1陣40名及び資材搬入が開始され、八丈島報話局職員とともに全力をあげて復旧作業を開始した。

以後10月19日の応急復旧工事終了まで、延1,765名の応援職員の協力を得、それ以後は延8,000人におよぶ応援を受け重要ケーブル線の地下埋設及び取替工事を重点的に実施し完了した。この結果、島の中樞神経とも言べき電話は、今後の災害時にも最少限の被害に止めることが可能となった。今回の災害復旧活動に当って、応援職員は、1日最高205名にも達し、当初は停電、断水等のため食事、入浴、洗濯にも不自由し、又民宿も被害を受けたため、宿泊所探し等苦勞の連続であった。



復旧作業への出動を前に整列する職員

なお、昼食も多人数のため炊出も不可能であったが、幸い一食堂が供給を引受け、食事場所

には勤労福祉会館の体育館を貸して頂くなど、復旧作業に非常に役立ち、大いに助かった。

(5) 八丈島無線中継所

10月5日午後4時、災害対策本部設置、直ちに災害調査を実施するとともに、全島商用電気停電のためエンジン運転により、市外電話回線の確保に全力をあげた。以後10月15日までの災害復旧状況は、次のとおりである。

(1) 空中線関係



無線施設の復旧工事

(イ) 青ヶ島無線局の受信空中線系は予備に切替え使用、障害空中線系の絶縁は良好なるも不良箇所について、調査を続行。

(ロ) 山上無線中継所フィーダー支持脚修正、フィーダーの補正、並びに引込口の補修を実施(250メガヘルツ、三宅受2ギガヘルツSD用)

(ハ) 青ヶ島向け送信空中線柱の接続部折損箇所補修及び空中線柱4本の支線たるみ調整

(2) 無線装置関係

山上無線中継所の被災施設の復旧作業中、定時点検を実施。

(3) 電源関係

商用停電期間中(10月5日午後3時17分～11日午後4時35分)エンジン運転により電力を確保した。停電時間145時間

18分、エンジン運転時間126時間58分に及び、この間6回エンジンを停止して、精密点検整備を実施し、その間は蓄電池放電によって供給した。なお、送電線の復旧作業は要員資材の輸送おくれと、道路通行不能のためおくれ、道路応急復旧直後の10日5本、11日2本の建柱を行い、架線工事を実施した。

(4) 応援職員の協力

台風あけの10月6日から15日まで、東京無線通信部、蔵前統制無線中継所より8名の応援職員が来島、応急修理および保守応援を行った。

被災の状況

台風13号による被害の状況は次のとおりである。

(1) 10月5日午後5時40分～50分の間八丈島発青ヶ島受け、全断障害となる。

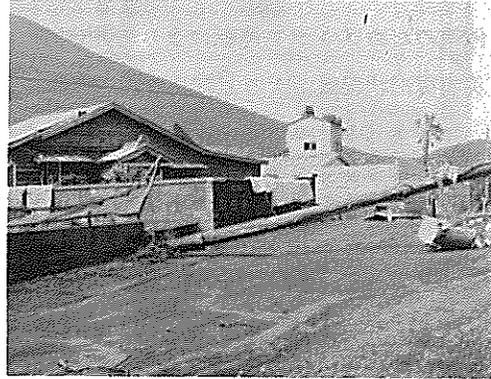
(2) 60メガヘルツ青ヶ島向け送信用空中線柱の接続部折損及び全空中線柱支線のたるみ、並びにフィーダー支持脚、鉄塔基部コンクリートの亀裂、底部の移動2ヶ所などあった。そのほか局舎、倉庫など、トタン屋根、ガラス戸等の破損があった。

(6) 東京電力(株)銀座支社八丈島事務所

10月5日 午後6時銀座支社災害対策本部を設置(工事課長以下8名)同時に八丈事務所においても非常体制として、現場調査実施。午後10時40分八丈島中枢機関対象に送電開始。(支庁、町役場、病院、警察など)

◎停電件数、3,365 ◎送電軒数、200
◎送電率 5.6%

6日 全日空機及び自衛隊、新日本ヘリのヘリコプター、東海汽船で請負業者、社内応援職員来島、現地工事店の応援18名を含め、84名が復旧作業開始。



倒された電柱 - 三根宮の平 -

東海汽船にて電線2,000 m、レッカー車などの機資材到着。

◎停電軒数2,065 ◎送電軒数1,500 ◎送電率43%

7日 全日空機で工事関係者32名来島。作業人員114名、島内10ブロックに分割、投入した。午後4時、末吉洞輪沢給水所送電開始。

◎停電軒数1,245 ◎送電軒数2,320 ◎送電率65%

8日 復旧作業人員112名、折損柱47基のうち17基の建替、58基の傾斜直し完了。事故捜査器積載の作業車1台到着。

◎停電件数715 ◎送電軒数2,850 ◎送電率80%

9日 作業人員147名、コン柱3基建替、木柱24基、コン柱12基の傾斜直し、変圧器4台の取替え実施、高圧線大半の送電完了。三根地区一部別荘地を除き全島復旧完了。

◎停電軒数465 ◎送電軒数3,100 ◎送電率87%

10日 作業人員149名、坂下地区の残り工事の完全復旧と、三原山頂ロラン局への供給ルート7基のうち5基の建替完了。動力負荷300軒のうち約90%の送電完了。

◎停電軒数65 ◎送電軒数3,500 ◎送電率98%

11日 作業人員149名、ロラン局三原山ルート of 工事完了。全壊家屋以外の未点灯家屋の調査を実施し、未点灯家屋の解消に努力した。なお本日、銀座支社長も来島復旧状況の視察を行った。

◎停電軒数0 ◎送電軒数3,565 送電率100%

以上で応急工事は完了したが、その後10月18日まで、未計器需要家の解消、倒壊電柱の抜柱

処理、開閉器類の補修等実施した。この災害に際し、工事力最大動員数は1日153名、資機材の対応は本店、支社、製造業者等関係機関がフルに活動し、輸送は、航空機4便、船舶7便で行なわれ耐塩材料が注文製造のため、一部不足はしたが一応円滑に復旧作業は行なわれたものと思う。なお連絡員には、八丈島勤務経験者を充てたことにより、復旧作業が効果的で迅速に進められたものと考えられる。

被害の状況

(1) 配電設備の被害状況

設 備 名		被 害 数	施 設 数	被 害 率	
支持物	折 損	木 柱	21 (基)	1.0%	
		コン柱	26 ♪	4.9%	
	倒 壊	木 柱	1 ♪	2,100 (基)	—
		コン柱	0 ♪	0	—
	傾 斜	木 柱	297 ♪	コンクリート柱	14.1%
		コン柱	122 ♪	533 (基)	22.9%
	コンクリート柱の横亀裂		37 ♪		6.9%
	木 柱 の 縦 亀 裂		116 ♪		5.5%
高 圧 電 線	断 線	196 (径間)	2,763 (径間)	9.5%	
	混 線	44 ♪		2.1%	
低 圧 電 線	断 線	138 ♪	2,763 (径間)	5.0%	
	混 線	113 ♪		4.1%	
変 圧 器	取 替	37 (個)	527 (個)	7.0%	
	改 修 (傾斜直し)	87 ♪		16.5%	
開 閉 器		2 ♪	52 ♪	3.8%	
支 線 改 修		68 (個所)	658 (個所)	10.3%	
腕 金 改 修		168 ♪	—	—	
引 込 改 修		2,546 (口)	5,317 (口)	47.9%	
計 器 故 障 替		540 (個)	4,414 (個)	12.2%	

(注) 亀裂と傾斜は複合発生

(2) 発電設備の被害状況

発電所建物および煙突に若干の被害があったが電力供給(発電)には支障はなかった。

今後の対策等について

島嶼における配電設備については、「島嶼設計方針(昭和49年9月制定)」を基本とするが、今回の被害の考察をもとに、島嶼は常時20m/毎秒程度の強風にさらされており土質が溶岩性で脆弱であるなどの特殊条件をふまえ、下記事項に留意する。

(1) 支持物関係

風圧以外の横荷重はすべて支線もしくは支柱に負担させ、2方向線路の引留用支線は、設計荷重の限度内にあっても可能な限り線路各方向ごとに支線を施設する。

分岐線路の張力受支線の設置不可能な場合は直線線路柱に張力が加わらないよう至近距離で分岐線路を引留める。なお電柱の新設、建替に当たっては、スパン調整、支線による補充等、強度検討を十分行ない、赤砂地帯の石垣個所への建柱は極力避け、やむをえず建柱する場合は、石垣底部以下まで根を下げ、かつ根はじきを取付ける。

(2) 電線関係

バインド線については、工事者の技能によって差の生じないプレホームドバインドの使用拡大を検討する。

(3) 引込線関係

柱側面への直接取付け、造営材老朽個所の腕金、杉角等による補強など工法面に配慮するとともに、巡視、引込線計画改修時等において、取付け点の老朽状況、弛度の不適正など実態を十分チェックし、事故の未然防止に配慮する。

(4) 計器関係

取付け位置は、極力上方に庇などの保護造営材がある雨線内を選定するとともに、計器板は柱など堅固な個所に取付けるよう電気工事店等の指導を行なう。

その他今回の災害を反省し、今後の非常災害復旧に当たって特に準備しなければならないと思うものは、折損コンクリート柱の鉄筋切断用熔接器、建柱車、携帯発電機等でありさらに折損コンクリート柱は、重量物で道路に倒壊した場合、長時間の交通障害となる恐れもあるので、折損コンクリート柱の応急復旧処理方法等も開発検討しなければならないと考える。

7 協力隊の救援活動

(1) 自衛隊

災害の調査が進むに従い、被災の規模は、予想以上に拡大し、民心安定上も応急対策は急を要したが、労力の確保も困難な現状から、救助物資の緊急輸送、公共施設の応急復旧並びに主



自衛隊員による跡かたづけ作業
—大賀郷中学校—

要道路障害物除去のため、10月7日午前11時10分都知事に対し、自衛隊災害派遣の要請を行い、要請を受けた自衛隊は、パートル機C1ジェット輸送機等で医薬品、ローソク、防水ビニールシートなどの応急物資、隊員の輸送に活躍するとともに、陸上自衛隊第1師団第1普通科連隊第1施設大隊140名の隊員は10月8日から11日まで学校等公共施設の応急復旧、主要道路の障害物除去に積極的な協力を頂いた。

なお、10月9日には赤森第1師団長も空路来島し、被災住民を激励するとともに、隊員の作業状況を視察し、島民から感謝された。

(2) 産業開発青年隊

建設省、建設大学中央訓練所の産業開発青年隊11名は、日本青年奉仕協会員6名とともに、10月10日来島、10月17日までの1週間、キャンプ場で自炊し乍ら、台風で飛び散ったトタン、ガラスなど、そ大ゴミの収集、危険建築物のとりこわしに協力、大被害を受け、ともすると無気力になりがちな島民を勇気づけた。今回の台風で被害を受けた農業施設（フレーム、温室）

地区名	要請農家数	従事延人員	備 考
三 根	7 戸	237 人	農家負担は1人1日2,500円であった。
大賀郷	17	911.5	
檜 立	14	551	
中之郷	16	1,015.5	
末 吉	—	—	
計	54	2,715	

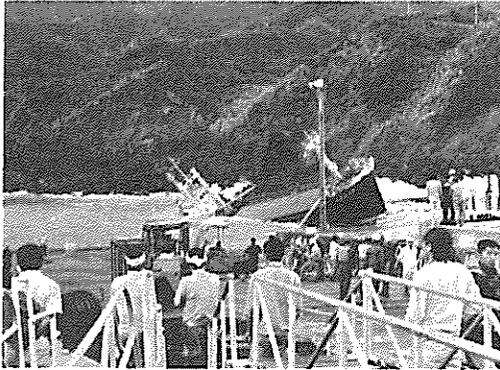
は数多く冬期を間近に農家の心配は大変なものでこの対策に苦慮していたが、産業開発青年隊の第2回派遣を要請、八丈島農業協同組合を窓口に関口に10月26日から12月13日までの48日間、延人員2,715人が大里会館、坂上老人福祉館に分宿して、施設園芸の復旧に活躍し、

人手不足になやんでいた農家を喜ばせた。地区別稼働状況は、上記のとおりである。

(3) 輸 送 機 関

離島のため、この災害では救援物資、諸資材等の輸送対策が最も重要な課題であったが、本島に航路をもつ、東海汽船KK、全日本空輸KKの積極的協力のもと、救援物資、生活必需品などの輸送は円滑に行われ、救助活動と被災住民の民生安定に大いに寄与した。

(イ) 東海汽船株式会社



救援物資を輸送したあと、出港の際遭難した第7金力丸(東海汽船)

の陸揚げを終り、東京向出帆直後折からの荒天と思わぬ強風により、港内で座礁沈没する大事故が発生した。幸い死傷者等人命事故はなかったが、船体、積荷は全損となり、積荷は東京向切葉、切花等で、498 梱、約80トン、関係荷主 272 名であった。

(ロ) 全日本空輸株式会社

全日空KKでは、離島救済の緊急性の見地から、誘導施設の被害等、数々の障害にもかかわらず航行の安全を確認の上各関係官公署の強力な支援の下に、定期便のほか被災直後計16便にわたる臨時便を就航させ、復旧応援等災害関係者、報道機関並びに一般旅客の利便に全力を傾注した。

ちなみに、被災後10日間(10月6日~15日)の貨客の動向は次のとおり。

	東京 → 八丈	八丈 → 東京
旅客	2,768人	3,143人
貨物	19,296kg	18,216kg

これを本年(51年)同期と対比すると

	東京 → 八丈	八丈 → 東京
旅客	37%の減	13%の減
貨物	189%の増	104%の増

となっており、旅客(特に観光客)の激減に対して貨物量は大幅な増加を示し特に、野菜類

東海汽船KKでは、災害と同時に八丈島貨物船の配船計画を急換変更して、10月中は毎日配船とし、それ以降は出荷の状況に合わせて増便するなど輸送に万全を期して頂いた。特に、都民生局からの救援物資は最優先扱とし、318 トンに達する、トタン、布団、日用品等は10月中に輸送を完了した。

このように物資輸送に全力を投入したため、荒天をおかしての就航もあり、東海汽船所属第7金力丸は、10月15日底土港に於いて救援物資

災害直後における貨物船の配船と輸送実績

年 月	当初配船計画	実施配船	八丈島陸揚貨物量	摘 要
50・10 (5日以降)	10 ^{航海}	18 ^{航海}	5,358 t	
50・11	13	14	4,061	
50・12	13	20	5,765	
計	36	52	15,184	

など生鮮食品の輸送が目立った。

(4) そ の 他

そのほか、天理教教会本部災害救援ひのきしん隊、同東京教区ひのきしん隊一行20名も来島し、そ大ゴミ収集等、ご協力を頂いた。今回の災害は、ガラス、トタン、古材などを飛散させ、この処理に一苦労したが、このような応援を得、更に警視庁機動隊、八丈島建設業協会のご協力により多大の成果をあげることができた。災害によるそ大ゴミの処理量は、1,370トンであった。

なを、東京電気通信局、関東電気通信局、東京電力本社でも応援職員を派遣するなど、電話電気施設の早期復旧に努力していただいた。



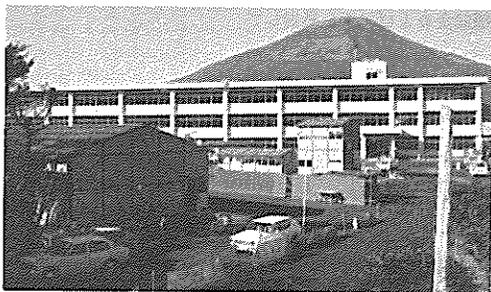
各地から集められたゴミの山

8 義 援 金 品

都民をはじめ、全国から多くの義援金品が寄せられ、厚くお礼申し上げます。義援金品の取扱いについては、都民生局、日赤東京都支部が窓口となって取まとめ、送付された金品は、八丈町（対策本部）が受領し八丈町が中心となり、各地区振興委員の献身的な協力を得て被災住民に配布した。

なお、金銭については、予算に計上し、住宅全壊世帯を対象に見舞金を支給するとともに、被災教育施設等の整備費に充当した。

9 災害復興事業の推進



完成まじかな大賀郷小学校校舎

有史以来の大災害と、経済不況のダブルパンチを受けた八丈島経済および災害の復興対策について、議会においては13号台風災害復興対策特別委員会を設置するなど、執行部と一体となって「八丈島災害（経済）復興計画」を策定、早期実現に全力をあげることになりました。

復興計画は、地場産業の振興を前提としなが

らも、当面の対策として積極的に公共投資を拡大し需要を喚起して、八丈島経済の起死回生策を図ることを基本方針に、国、都関係者との協議が連日続けられました。国の総需要抑制策あるいは都の財政難など、財源の確保は困難を極めて本計画の実現が危ぶまれましたが、その財源を23区競馬組合からの競馬益金に求めることとしお願いした結果、23区競馬組合議員各位の深いご理解とご協力により、総事業費1,561,930千円を昭和51年度から2ヶ年計画で災害(防災)復旧事業を実施することになりました。

災害復旧事業計画

(単位千円)

事業名	昭和51年度		昭和52年度			
	事業費	財源内訳		事業費	財源内訳	
		収益金	一般財源		収益金	一般財源
防風林災害復旧事業	185,010	155,000	30,010	189,990	160,000	29,990
中道伊郷名線災害復旧事業	172,000	100,000	72,000	170,300	98,000	72,300
底土海水浴場災害復旧事業	9,500	0	9,500	0	0	0
やけんヶ浜海水浴場災害復旧事業	7,500	0	7,500	7,500	0	7,500
乙千代ヶ浜海水浴場災害復旧事業	7,890	0	7,890	7,110	0	7,110
護神山公園災害復旧事業	6,000	0	6,000	6,000	0	6,000
町道小規模災害復旧事業	15,000	10,000	5,000	15,000	10,000	5,000
用排水路災害復旧事業	16,700	10,000	6,700	33,300	20,000	13,300
横間ヶ浦海岸災害復旧事業	121,000	0	36,300	136,000	0	40,800
大賀郷小学校災害復旧事業	379,230	12,000	749	0	0	0
大賀郷中学校災害復旧事業	76,900	1,000	799	0	0	0
計	996,730	288,000	182,448	565,200	288,000	182,000

(注) 事業費に対し、収益金、一般財源で不足する額は、国都補助金および起債を充当して事業を実施するものである。

10 今後の災害に備えよう

このたびの台風災害では、八丈町の建築物が、観光開発に伴う建築様式の近代化で、多層化または開放的な構造となって、祖先の教訓を軽視する傾向を生じ、台風、地震などの災害に対

する防備が十分でなかったことが各方面から指摘されております。町では、このような災害を再び繰返すことがないように、防風林災害復旧造成事業をはじめ、全国でもあまり例がない、「八丈町台風及び地震等の災害予防に関する条例」を制定公布しております。内容は、防災計画の策定、調査研究及び技術開発のための専門委員会の設置、町民、施工者、設計者に対する建築物防災上の責務なども義務づけられております。この条例に基づく専門委員会では、「建築物その他工作物等の災害及び災害拡大の予防計画指導基準」作成のため、日本大学亀井教授の来島をお願いするなど、検討を重ね、近く決定される予定となっております。この指導基準の内容は、敷地内の建物配置、基礎工事、木工事、軸組工事、屋根野地板のあり方等細部にわたっておりますが、要は、この基準を町民1人1人が実行しその英知と努力によって、災害を未然に防止する心構が必要であると思われまます。

なお、今回の災害対策に当り情報伝達、処理体制（町）の相互連絡等、反省する点も多く、このため、八丈町防災計画、八丈町災害対策本部条例に基づく、各部所掌事項等、防災会議を通じて、再検討を行いました。

今後は、これに基づく防災訓練等を実施し、災害を未然に防止するとともに、被害を最少限にくいとめるよう町民各位のご協力を切にお願いいたします。

11 住民が語る台風13号

この記録は、各地区の住民が直接体験した台風13号をありのままに書いたもので、小、中、高校生（当時の学年）や一般の方々など多方面にわたっており、八丈島における有史未曾有の超台風の恐怖が、赤裸々に語られている貴重な記録となっております。

台 風

中之郷小学校5年 沖山 邦美

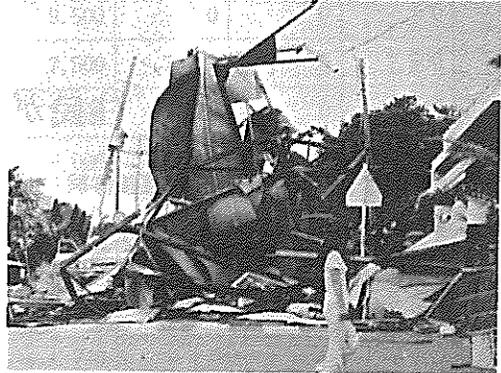
10月5日の日曜日、教会の1日キャンプで底土のキャンプ場へ行った。でも、台風が近づいているといったので午後2時に帰って来た。風が強くふきはじめた。おじさんたちと弟と私と5人でしょうぎをした。少ししてから停電になり、ガラスがガタガタなりだした。お母さんが、「はやいところ、お風呂にはいりなさい。」といったので、きがえを持ってきてお風呂にはいろうとした。そのとき「バタン」という音がした。お風呂ばを見たら、お風呂ばのまどがとれそうになっていた。私はおおいそぎでまどをおさえ、お父さんをよんだ。お父さんがふろばの戸をなおしている間、ローソクに火をつけていた。

お父さんがやっと戸をなおし終わった。とどうじに2階でものすごい音がした。行ってみると、ガラスがわれてそこにいたおじさんがけがをってしまった。それをお母さんがみつけて、私に、「邦美はけがの手当てがうまいから、おじさんの手当てをしてちょうだい。」と言った。私はすぐくすり箱を持って行き、おじさんのけがの手当てをしてあげた。

こんどは前のガラスがゆれだしたのでおさえに行った。でもお母さんが、「邦美と一秀は自分のベッドにはいっていなさい。」と言った。私はベッドの中にはいったが、この家がとんでいきそうでこわかった。さいごは泣いてしまった。

少し風がおさまってから、とよださんが、「邦美、ちょっと来てごらん。」とよんだ。私はとよださんのへやに行ってみた。そしたら、とよださんがまどの外を見ていた。私ものぞいて見た。なんと、たいようかんの家の中がからっぽになっていた。私はおどろいて声も出なかった。

しばらくして、お父さんが、「タンクを見に行くぞ。」と、ほえた。私は外が見たくてたまらなかったので「待ってました。」と思った。車で、つつみの所まで行くとちゅう、お母さんと台風のことをいろいろと話し合っ行って。あとから三根にも行った。三根は電柱や木などがたくさんたおれていた。屋根のとんだ家、半分こわれかけた家、ぐらぐらになっている家、土地だけでふきとばされている家もあった。よこまのくねくね道には大きな石がたくさんころがっていた。帰りがけ、車で通るのがやっとなった。家について、みんないっしょにねた。ねるとき、「もう台風なんかこないでほしい。」と思いながらねた。



朝日新聞社提供

台風 1 3 号

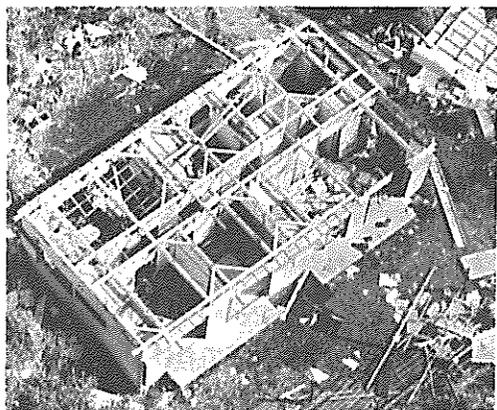
三根小学校6年 橘 田 秀 子

朝、起きて「今日もいい天気かな」と思った。昼を食べ終ると、雨雲が動き出した。「お昼から雨になるかなあ」と考えていたら、ニュースで台風13号が八丈に接近していることを、言っていた。だが、ほんとうに来るとは思っていなかった。時間がたつにつれて風が強くなってくる。母は「もしかして台風が来るかも知れんなかよう」と言った。母はいつの間にか、けがをしないよう、あつ着をしていた。私にも「早く、着がえろ」と言った。私は何が何だかわからなくなってしまった。母は「トレパンと上着をけがをしないように着ておけ」と、こわそうに言った。私はトレパンと上着とレインコートを着た。

風は強まる一方だった。父は雨戸をしめていた。私と母は、かい中電燈を持ちまごまごしていた。母が「どこげえー、にげろどう」と、むがむちゅうで私に聞いた。「まず、わいらが室げえ、いごごん。」と言って私の室へ行った。そうしたら「ここじゃあ、だめかも知れんなか。」と母が言った。私は家がふつとぶか、ふつとばないか気がかりでならなかった。母が「ひとまず、ふろばげいひなんすろごん。」と言った。手さげかごに食料品、タオルなどを入れて、ふろばで、じっとしていた。ふろ場の戸はギーギーなってすごくこわい。父が私たちを呼んでみるみたいだったので私が行ってみたら、店の戸がやられていた。「かあちゃん。店の戸がはずれてしまったぞー。」と、大きい声で言った。母は、すつとんで店の方へ行った。父が母に「くぎで、ちょっと、うつといとうんて、うて。」と言った。母は、がんばってくぎを打っていた。すき間から風が吹きこんで店の中はきたなくなってしまった。私は母や父に「けがをしないでよう」とむちゅうで言った。やっとで戸をふうじる事ができた。

母は、ため息をついて玄関の方へ行った。風で玄関はゆれている。母はえんの下にある板を取り出して玄関の戸につかえ棒をした。それでも風がふいてくるたびに、戸がゆれるので、私と母とで板をおさえながら「つかれたあの一。」と言った。心ぞうをさわってみた。すごくドキドキしていた。母が2階へ行ったので私も行って見た。窓のむこうを見ようとしても、木の葉がついていて見にくかったが、近所の人うちのふろ場がやられて水がふき出していた。父も外から入って来て、「あい、すごけじゃ」と言った。「ばあ一。きみらげいのサッシが、はずれそうどうじゃ。電話で知らせてやれ」母と私は電話のある方へいそいだ。きみさんの番号がわからないので、「104」へかけて聞いた。ようやくわかってダイヤルを回してみたらすのようで、何べんかけても、かからなかった。母と私は「しょうがなっきゃのう」と言って2階へ行った。父に「何べんかけても、かかりんなかよう」と言ったら「はらだめだら。サッシごとぶったおれてしまつとうもの。きみは、あによしてあるだろう」と言っていた。横のサッ

シも次々に取れていった。こんどは、ローヤルの見える方のまどで見たら、となりのおじさん



朝日新聞社提供

の古いうちがぶったおれていた。それを父と母に知らせた。父は「そごんどうじゃ」母は「ほんとう、すごきゃのー。」と言った。富士山の方のまどで見ると、まえのうちの屋根が全部はがされていた。私が「屋根がふっとんどうじゃ」と言ったら、母も「みんな、すごけひがいだあのー。わいらが家は、まだ、よけほうだんねえ。」父が外へ出ようとしていたので、母が「おめえけがをしんのうごんよう。」と言った。私も「けがをしんのうごんよう。」と父に言った。父は

「下げえ行つたあれ。どこがふつとぶか、わかりんねえぞ」と言っておりて行つた。私たちもおりていって玄関の板をおさえていた。母が「地しんもこわけが台風もこわきゃのう。秀子はどっちが、こわけ。」と言ったので「台風の方が、こわきゃ」と言った。母が「あんでだ。」と言ったので「あだん地しんは、せいぜい2分か3分で終るけど、台風は何時間もかかろんでやどうじゃ。」と言った。母は「わいは、どっちもこわいと思うがのう」と言っていた。

だんだん風も弱まって来た。父もうちへ土足で入ってきた。「ちいと風が弱まったあのー。この分じゃ、へい気だろう。」と言った。私は「ゆだん大敵だぞ。いつ強い風がふいてくるかわかりんなつけじゃ。」と言った。その時少し強い風がふいてきた。「ほらのー。」

ちょっと、ひと休み。でも、すごくこわかった。店の戸がはずされたところを私は何回も、かい中電気でみてまわった。「いじょうなし。」でも、またどこかはずれるのではないかと、気が気ではなかった。

だんだん暗くなり、風も弱まってきたので私は「よかった」と思った。私が「ろうそくは、ちゃんと、あろかよ」と言ったら、母が「あろんで心配するなよう」と言った。私は、何だか今日の夜をすごすのがこわかった。母が「電気のありがたさが、わかつたろう」と言ったので「昔の人は、みんな、ろうそくぐらしていたのか。よく生活できたあのー。」「わいらが小さい時にゃ、こんなあかりで、おやりも、ひねっとうもんどうがのー。今、思い出すとつかしきゃ」と、母は手まねをしていた。父は「戦争とうじを考えろわ」と言っていた。その日は、どうにか、すごすことができた。

あくる日、ひ害にあった家を、私と姉と母とみてまわった。うちがこわれていたりガラスがわかれていたり、1軒1軒どこか1部分はこわれていた。私たちは、おじいさんの家を心配していたので行ってみたら、ちょっと、こわれたところがあった。私が「じいちゃん、けがはなかつ

とうか。」と聞いたら「へいきだら」「うちのほうは」「へいきだよ」ずっとまわってみたらすごくこわれているうちがあった。何だか、かわいそうになってきた。私のうちは、ひがいが少なくてよかったなあ、と思った。

台風13号は、八丈島をぶっこわしていった悪いやつ。どうにか考えて台風をふせぐ手はないものだろうか。

台 風 の こ と

大賀郷小学校6年 菊池 泰子

10月5日、日曜日、お父さんが畑から昼ごはんを食べに帰ってきて「暴風けい報が出たから台風がやってくるかもしれない。食事がすんだら、戸じまりをしよう。」と言いました。みんなでごはんを食べているうちに、急に風が強くなってきました。おかあさんはおどろいて、ごはんの途中で戸じまりに行きました。

風はどんどん強くなってきました。おとうさんは「大丈夫だ、大丈夫だ。」と言いながら、テレビを見ていました。そのうち、電気がきれました。いつもの風と、様子がちがうなあと感じました。

根もとの直径が30センチもある、くろぶちの木がバリッといったと思ったら、どおとたおれました。その木の下に、うさぎの小屋があるので、私はあわてました。うさぎを助けなければと思いましたが風が強くて外に出られません。表の方でも、バリバリ、メリメリと木がたおれます。おかあさんが「表のガラス戸が、われそうだよ。」とおとうさん呼びました。でも、おとうさんは、おばさんの家があぶないので、トントンと裏の方で何やらしています。それでおかあさんは、「たたみをあげて、窓におしつけよう。」と言いました。おかあさんとおにいさんと私とで、力を合わせて窓にたたみをたてかけました。ガラスは、いまにもわれそうです。おかあさんは、「ガラスがわれるとあぶないから、窓のそばからはなれるように。」と言いました。おかあさんは、家の中をうろうろ歩きまわり口の中でブツブツ何やら言っています。よくきくと「なみあむだぶつ、なみあむだぶつ助けて。」と言っているのです。私はおもしろくて、笑ってしまいました。

風がだんだん静かになると、空の色が黄色の、今まで見たことのない色になりました。どうなるのかと、おそろしくてたまりません。その空の中に、青空が見えている所がありました。おとうさんが、「台風が目が、通ったのだね。」と言いました。

雨戸をあけてみると、庭の様子がすっかり変って、私が楽しみにしていた実をつけたバナナの木が、一本残らず倒れていてがっかりしました。

とたんや板が飛んでくる

檜立小学校6年 天野 るみ

10月5日、ものすごい台風が八丈島に来た。初め雨がふりだしてきて、3時半ごろ電気が消えた。風が強くなって、ヒューヒューと、風の音になった。おとうさんが雨戸をしめたり、くぎを打っていたので、私も少し手伝った。

私は自分の部屋に行って、ろうそくをつけて、本を読んでいた。そしたら、風がだんだん強くなってきたので、戸をおさえた。

おとうさんが「玄関のかぎをかけて、おさえてろー。」と、言ったので、私は玄関に行って戸をおさえていた。ガラスがわれて、頭にぶっこちてきそうで、おっかなかった。玄関の戸をおさえていたら、おねえさんが来て、「だいじょうぶだ?。」と聞いた。私は「ガラスがわれそうで、おっかない。」と、言った。玄関の戸を私とおねえさんと2人でおさえていたら、私と弟の部屋の雨戸がはずれた。雨戸がはずれて、少しして、サッシのガラスがわれた。ガッシャーんと、ものすごい音をたてた。また、ガラスがわれた。私はだんだんこわくなって、なきそうになった。とたんに私たちがおさえていた玄関のガラスがわれはじめたので、おばあちゃんの部屋にひっしで走っていった。

おばあちゃんの部屋にいたら、とたんとか板とかがどンドン飛んできた。私は家がどうなるかと思って、心配になってきた。おとうさんが、「おちつけよ、おちつけよ。」と言ったけど私はおちつけなかった。おばあちゃんの部屋にいたら、ちょっと危険なので、畑の口の中に行った。服がびしょびしょで、きったなかった。風がヒューヒューとなって、寒かった。みんな、しょぼんとして元気がなかった。私は家がどうなつたろう私の部屋はどうなつたろうと、心配になってきた。家のとたんが畑まで飛んできた。友だちは今どうしているだろうと思って心配だった。畑の下に行くと家が1けんあるので、そこの家にひなんした。そこの家はガラスもわれないうでぶじだった。

だんだん風が静かになってきたので、安心した。ラジオを聞いていたら、八丈島の台風のことを話していた。おとうさんが来て、「屋根が飛ばされて、メタメタだよ。」と、あわてて言った。私はあーあと思って、がっかりした。

もう、風もだいぶ静かになって、雨もやんだので、私の家に行ってみた。そしたら、暗くて



朝日新聞社提供

よくわからなかったけど、屋根がふっとんで、家の中がゴタゴタだった。こんなにひどくなるとは思ってもみなかった。私は台風がしゃくんさわった。寝る所がないので、親せきの家に行った。窓から空を見たら、赤っぽくなっていた。もう二度とこんな台風は八丈島にこなければいいのにな、と思った。

台 風

末吉小学校6年 浅 沼 和 枝

お母さんが、外から家に帰って来たのが、2時半すぎでした。「大きな風が吹きそうだから」と、いって、米を洗って、ヤカンとバケツとなべに一ぱい水を入れて、かい中電気やローソクとマッチと薬箱をそろえて用意している時、家のうしろの古い台所が、バリバリと音をたて落ちました。お母さんが「すごい」と、笑いながらいいましたが、すぐにこわい顔にかわりました。そして、すぐにはだしで電話のところのガラス戸をおさえに行つて、風とけんかをしているようなガラス戸をつかまえていましたが、ガラス戸はお母さんの手から吹きとばされて、にわのつばきの木の根もとでばらばらにこわれました。ひろみ姉ちゃんと私は、れいぞうこのそばにつたっていました。お母さんの「すわれ、すわれ」と、いうこわい大きな声が聞こえたので、む中であっちこっち走りまわっていた時、れいぞうこの横のガラス戸が2枚ともはずれてお母さんの頭の近くでばらばらになりました。頭を手ねぐいでかくしながら、ガラスの中からゲタ、サンダルをもってきて、「かまわないから、これをはいて静かに奥へ行きなさい」ガラスのかけらが家の中に、ちらかっている中を、奥に行つてびっくりしました。天井が1つもなく、表の方の雨戸も、ガラス戸、しょうじも何もありません。そして電気がついたみたいに、空が明るくなっていました。おじいちゃんをいじめるお母さんの声が、きこえたと思ったら、おじいちゃんの首の所をつかまえて、ぶつだんの下にひきずりこんでから、私とひろみ姉ちゃんもぶつだんの下に入り、お母さんと4人でじっとしていました。だれも何もしゃべりません。とつぜん、お母さんが「お父さんは、どうしたのだろう」と、いいました。だれも、こたえませんでした。私は仕事からかえらないので、風にふきとばされて、死んだらうと思いましたが、いいませんでした。また、家がゆれて船の中のような感じでした。用意してあったローソク、マッチ、みかん、おかしなどをもってきて、お母さんがローソクに火をつけてから「おちつかなくてはだめだから、みかんでもたべなさい」1メートルぐらいしかない所に、4人もはいつているので、ローソクがあたたかく感じました。こわいけど、ちょっと、おもしろかったので「こういうのもたまにはいいね」といったら、お母さんに「ばか」と、いってどなられました。お母さんが「どうしよう、どうしよう」と、いいながら、こわれたタンスや引きだしにふとんをかけてまわりました。ひろみねえちゃんが、「おかあさん、おかあさん」と、泣きそ

うになりながら、さわいでいるので、お母さんとけんかでした。他にかくれる場所がないのでぶつだんの下で1時間位じっといました。その間、お父さんの事ばかり考えていました。「もしお父さんが死んでしまったらどうするだろう」と、おじいちゃんも、そのことばかり、何かいも何かいも、しゃべっていました。お父さんは、おじいちゃんの子どもだから、心配だったのかもわかりません。少し風が静かになって、雨がザーザー、天じょうのない家の中一ぱいに水たまりができて、のこっている物はびしょぬれなので、お母さんは、ハアハアいいながらも何もしませんでした。きっと、仕事をする気になれなかったのかもしれない。しばらくして、お父さんがかえってきましたが、いつかえってきたのかははっきりわかりませんでした。



菊池順久氏提供

ガラスの戸もないので、あける音がなかったから、お父さんを見て、お母さんが水びたしでガラスのかけらがいっぱいちらかっている所にべたっとすわりこみました。また何もいけません。しばらくしてから、「みんなぶじか、まっくらだから、みんな死んだと思ったが、元気な姿を見、あんしんしたよ」と、いいました。そこで、はじめてお母さんが「かえりがおそいからしんぱいしたあに、でもみんなぶじだったから」と、それだけいいました。けいたいラジ

オが、6時のニュースで八丈の台風のニュースをしらせていました。お父さんとお母さんが、ぬれたたたみをおこして、その上にふとんとか、ぼろをかけてすわりました。お母さんは、ぬれた体でうごいていましたが、お父さんがかえって来てから、なんだか病気の人のようでした。おじいちゃんは、したのおしきれに、お父さんは、ぶつだんの下に、私とひろみ姉ちゃんとお母さんは、上のおしきれにねることにしましたが、なかなかねむれませんでした。ねむれない夜があげて、庭に出てみましたが、たっている物はなにもありません。お母さんは何もしないで、じっと家の中を見ていました。最初は、おもしろかったけど、だんだんおそろしくて、もう台風はいやになりました。

台 風

富士中学校 1年竹組 高橋 秀修

10月5日、日曜日、ぼくの家では、のんびりとテレビを見て楽しんでた。台風が来ることは、わかってはいたけれども、大したことはないと思っていた。家族そろって歌合戦が終ってしばらくしたら急に停電になった。雨戸をしめて、うらの方の明るい部屋へ行きみんなでお茶を

飲んでいた。

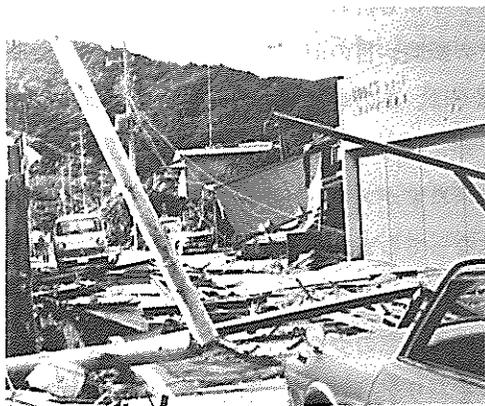
風が少しずつ強くなってきた。ガラスごしに庭木や、まわりの防風林のアスナロウも大きくゆれ動いているのが見えた。そのとき、細いねこやなどの枝が下の方から折れた。大変だと母がうらがわの雨戸をしめた。そして大事な物を入れてある包みを出して来た。

風はますます強くなり、ものすごいうなりが聞こえる、屋根の上でドスンと大きな音がしたと思ったら、メリメリと天井の板が2枚はがれて風がどっと入ってきた。トイレの窓ガラスが、ガチャンと割れた。屋根うらのホコリが一面に落ちてきた、風呂場のガラスの割れる音がした。台所のドアのガラスも割れて、パタンパタンと開いたり閉じたりしていた。母は大事な包みをかかえて、わめきながら家の中を行ったりきたりしていた。ぼくは重いテーブルで台所のドアが動かないように中からおさえた。一番広い部屋に3人集まって座っていたら、えんの下から風が吹き上げて、たたみがふわっとうき上がった。母は耳をおさえて、一生懸命お経文をととなえ始めた。押入れからフンを引き出してかぶっていた。父も母もこわさにふるえていたようだった。ぼくはその様子がおかしかった。父は落ちつくためカタバコを吸っていた。

その時、雨が降り出し、あちこち雨もりがし始めた。さあ大変だと、今までふるえていた父も母も夢中になって押入れのフンを運び出した。上を見ると空が見えた。

少しづつ風が弱まってきた。たたみをはがし、タンスをどかし、3人で無我夢中で動きまわった。表の4部屋は雨がもり、うらの3部屋が無事だった。ぼくの部屋はなんともなかった。風が強くなり始めた時ガスを消したので、生にえになったブツブツのごはんを食べることになった。

夕食のあと近所の家々を見て歩いた。わずか2時間の間に、こんなにも変わるのかと、おどろいた。屋根のトタンや、電線などが、あたりかまわず、ころがっていた。大木が根こそぎたおれていた。屋根がふっとんでいた家もあった。むざんな姿に、何とも言えない台風のおそろしさをじっとかみしめた。



台風の恐ろしさ

三原中学校2年 山田 泰志

10月5日、僕は家の人に、「今日は台風が来るぞ。」と言ったけれど、気にもとめていないようだった。その証拠に、家の補強を全然しないで、買物などへ行ったりして普通と変わら

なかった。その日僕は、中之郷から宏次と千加士が遊びに来たので、朝から自転車で乗って遊んでいた。昼頃から風が強くなって雨が降り始めた。それでも僕たちは、のん気に僕の部屋で、いっしょにインスタントラーメンやお菓子などを食べていた。それから、次第に風が一段と強くなった。そして、僕の部屋が、2階のせいもあって、風が強く吹くたびに揺れ始めた。千加士たちは、「こわそー。」などと言ってこわがったが、僕はいつも強い風が吹くたびに、2階が揺れるのを体験していたので、それほどこわくはなかった。ちょうど1時半頃だったと思う。下の方では、風が強くなって来たので雨戸を閉めておいた。ところが、雨戸が1枚なかったために窓ガラスが1枚割れてしまった。その時僕は、下で「ガチャン。」と音がたったので行って見るとガラスが割れていたのだ。それから、風は台風の接近につれて、ますます強くなった。下では、その風で玄関のサッシがぶん曲った。家の人、必死にそれを押えていた。なんせ、今までの台風でさえ、こんな事はなかったのだから、僕は風の強さに驚いた。それから、僕は家の人必死に守っているのに、僕も手伝わなければと思い、ビールビンの箱をそこへ積み上げて支えたりして手伝った。そして、2階の千加士たちの所へ行ったり、下へ降りたりして落ちつかなくなっていると、2階にいと危険だと家の人に言われて、下へ降りた。

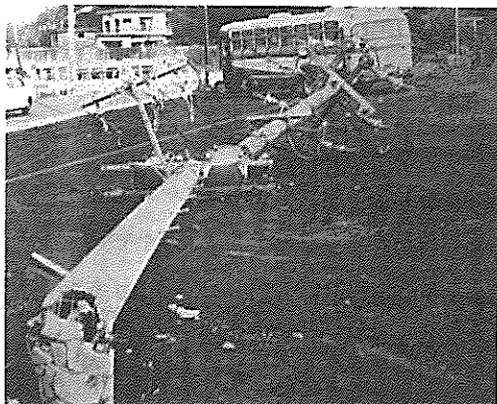
それから風は強くなる一方だった。外を見ると、その恐ろしさがわかった。たくさんの木が、今にも折れてしまいそうにゆきぶられていた。その頃は、もう3時を過ぎていたと思う。その瞬間、目の前で、玄関の横の窓ガラスがメチャメチャに割れて、畳の部屋に飛び散った。ぼくは、あの時ほど心が激しく揺れ動いた事がなかった。そして、あの時の事が一番、印象強く頭に残っている。ほんとうにすごかった。あのすさまじさ、そして、僕の家が、今まで住んで来た家がメチャメチャにこわされそうで。それと同時に、しあわせだった家庭がメチャメチャになってしまいそうで。ほんとうに、これで、何もかもおしまいになるんじゃないかとも思った。僕は、ガラスが割れ始めてから、危険だと思い、おばあさんや弟、千加士たちといっしょにガラス窓の少なく、じょうぶな所へ避難した。そこは狭い廊下だったので、唐紙とテーブルをバリケードにして何とか一つの部屋ができた。

そこで、僕たちは急に襲われた恐怖に信じられない気持ちでごまっていた。弟は布団の敷布を頭からかぶり、黙りこくっていた。おばあさんは、ため息をつきながらガックリしていた。そんなおばあさんを見ていると、今にも気絶するんじゃないかと心配だった。千加士と宏次が唐紙を押さえてくれたおかげでどんなにか助かったかしれない。しばらくすると僕は、おとうさんたちの様子が気になったのでそこを出て、行って見た。そこではおとうさんとおねえさんが、こわれた雨戸を支えて頑張っていた。僕は、おかあさんのいるたんごの部屋へ行って、窓を押さえるのを手伝った。

おかあさんは、たんごを守ろうと、「泰志しっかり押えとけよ。そこをやられればだめどい

て。」と叫んだ。ぼくは、必死に頑張った。すると、今度は台所の窓がやられて、テレビは倒れる。冷蔵庫は倒れる。ほんとうにすさまじかった。ぼくは、けがだけはしないように、頭に敷布をかぶっていたからよかったけれども、おかあさんは、ガラスが飛び散って来るのに何もそんな事は心配していない。

僕は、いつけがでもするかと心配でたまらなかった。よっぽど、たんごの事ばかりしか頭にはなかったのだろう。僕は、窓を押さえるのを、おねえさんに代ってもらって、千加士たちの所へ行った。もう、あたりも暗くなって、そこはまっ暗だった。僕たちは、ほかの友だちの事など話したりしながら、時のたつのを待った。ときどき、おとうさんたちの声が聞こえなくなると、僕はあせった。ひょっとしたら、ガラスが突き刺って、血まみれになって倒れているんじゃないかと。もし、死んでしまったら、それこそ僕の将来はまっ暗やみだ。そう思うと、この目で確かめて来なくてはと思い、行ってみた。みんな元気だうれしかった。落ち着かずに、



そんな事をしているうちに、台風は通り過ぎた。風もなぎた。もう夜だった。僕は家の中を見回って歩いた。見事に、台風の残した足跡に、家の中はメチャクチャだった。2階を見て、僕は驚いた。屋根がなかった。そこには夜空が見えていた。僕は、ほんとうに風の力が恐ろしい事を、つくづく身にしみてわかった。しかし、被害をうけたにもかかわらず、みんなの顔が意外に明るかったので安心した。ぼくはかえって今度の台風は、よい体験だったと思う。ぼくはこの日

の事は、一生忘れないだろう。

台 風

末吉中学校2年 玉 置 さつき

午前中は、母のつとめている保育園の運動会で、私も手伝いをした。その頃から風が吹いていた。お昼を食べて、テレビを見ていた。「風が強くなったこと」と思っているうちに停電になり、3時頃にお母さんが坂下から帰って来た。すごい風になってきたので、お母さんがあわてて雨戸をしめ、うちの中は暗くなりました。私はひまだから、本でも読もうと思い、雨戸がなく、明るい私の部屋のまどのそばで本を読みました。

風はますます強くなり、うなりも聞こえてくるようになりました。本を読みはじめて10分ぐらいしてからのことだけど、強い風がくるたびに、そばのサッシのガラスが、ぐにゃっと曲が

るようになるのに気がつきました。びっくりして、そこを離れ、遠くからもう一度よく見ました。やっぱりしなるのが見え、だんだん恐ろしくなってきた、その部屋を、とびだしました。3時半頃、お父さんが帰って来て、玄関に風が真正面に吹いてガラスが割れそうになったのでお父さんとお母さんが2人でおさえていました。お父さんが外がわから板をうとうと外に出たので、私とお母さんで10センチぐらいの幅の板で、戸をおさえていました。力いっぱいおさえていたけど、風の方が強く、とうとうガチャン!!という音がしてガラスが割れて私たちの足に落ちてきました。その瞬間、「あー、やられた!」と思いました。少ししてから足のことを思い出してけがしたと思い、玄関から上がってガラスを落とすつもりで、足ぶみをしてよく見たら、なんともなかった。お母さんが少しけがをした。玄関の割れたガラスが2畳の部屋まで入ってきて、それをほうきではいて始末した。

廊下の戸のかぎを、しめてなかったので、お母さんがしめようとしていた。それを私も見ていたけど雨戸がしまっているのに、その戸がしなって私たちの方へ戸ごとはずれてとんできそうだった。お母さんも「おそろしい。おそろしい。」と言いながら、やっとしめた。雨戸がしまっているのに、しなっているのにはびっくりした。

それからおばあちゃんや、みんなで、いちばん奥の八畳のへやにすわっていた。私はおそろしくて、おっかなくて、ふとんの上に寝ていました。強い風が吹くたびに、家がユサユサとゆれて、家ごと吹き飛ばされるのではないかと思った。心臓はドキドキして、こわくてこわくて早くやんでほしいとばかり思っていた。私は気がつかなかったけど、お母さんとおばあちゃんの話では、風で2回ほど畳がふわっと上がったそうです。20分ぐらい風が吹いて、やっとおさまった頃、ラジオをつけてみたら、「今、八丈は、台風の目の中です。」と言っていました。「あの、おそろしい風が、また吹くのか」と思いゲッソリした。

しかし、もう風は吹かず、安心したけど、新築したうちは平気かと、お父さんが見に行きました。だんだん暗くなって雨もポツポツ降ってきました。停電だったので、ろうそくをつけて、ラジオを聞きました。八丈の台風のニュースをさかんにしていました。

6時頃、お母さんが自分のつとめている保育園を見に行きました。私と弟と2人のときに、近所の金田さんが少しの荷物を持って、ひなんしてきました。屋根がはがされ、雨もりがすごく、赤ちゃんもいるので、「また風が吹くと大変だから。」と言っていました。お母さんが帰って来て、「家がおわれたところがたくさんある。」と聞いてびっくりしました。新築した家は、「無事だ。」と言ったのでほっとしました。金田さんは10時頃、中之郷の親戚のうちへ行きました。

朝になって庭を見たら、隣のフレーム（3坪半くらいあります）があとかたもなく、大きな銀杏の木が折れて、樺の木が根こそぎたおれたりして、庭はぐちゃぐちゃでした。母の勤めて

いる保育園もほとんどのガラスが割れて、子供たちの昼寝のフutonは、泥だらけになりました。なにしろ建物の中がぐちゃぐちゃで、トイレなどは、土台のコンクリートと男子用の便器だけ残して、全部とばされてしまいました。庭のジャングルジムは、そばの谷間へ落ちて、人間の手では、あげられないそうです。

風の力で、家がこわされたり、ブロックのへいが倒されるなんて、思ってもみなかった。台風がこんなに恐ろしいものだとは思いませんでした。きっとこの台風は一生私の心から、消えないであろう。



台 風 1 3 号

都立八丈高等学校1年 葛 馬 清美子

この台風は、瞬間最大風速68.7メートルという暴風で、八丈ちゅうを、徹底的に吹き荒した。10月5日の午後3時頃、私は2階の自分の部屋で雑誌を読んでいた。午前中から、テレビのニュース等で台風が来るということを知ってはいたが、たいしたことはないだろうと思っていた。しかし、風と雨が次第に強くなるに従い、サッシのガラスがしなってきた、恐ろしくなってきたので急いで下に逃げて行った。そうしたら、何という騒ぎだったろうか。父と母が大声を出しながら、ガラスだらけの部屋でベニヤ板で必死になって窓を押しえていた。びっくりして何をしたらよいのかわからなかったが、とにかく薬箱と蒲団を持ち、弟と妹を連れて、安全な部屋に逃げた。妹の傷の手当をして、蒲団を被らせて眠らせ、兄弟3人でじっと固っていた。雨と風のすさまじい音、木の騒ぐ何ともいえない恐ろしい音、気圧のせいか耳が押しえつけられたように痛かった。じっと我慢していた。

しばらくしたら、近所の人たちが、家へ避難してきた。ガラスの破片が危なかったので全員土足で入って来た。6畳のタンス等が置いている部屋に13人もの人と一匹の犬が詰め込まれたので、何となく息苦しく蒸し暑かった。外はととても大変らしかった。近所の人達の話によると家は崩れ、材木がどこからか飛んで来たり、自動車が逆さになっていたという。私の部屋にはドアを釘付けされて、中には入れなかった。

だんだん暗くなってきて、台風も落ち着き始めた。8時頃になって、近所の人達は心配そうに自分達の家へ帰って行った。我が家は幸い、ガスも水道も電話も無事だった。夕食は、インスタントラーメンをローソクの光の中でとった。私は興奮してなかなか眠ることができなかった。

翌朝6時頃目が覚め、外を見に出かけた。余りにもすさまじい光景だったので、一瞬夢のように思えた。まだ朝早いのに大勢の人達が、道路をゆっくりと回りを見ながら往き来していた。ほとんどの人があつけにとられ、どこからどうすればいいのか、と口々にもらしていた。

新聞や、テレビ、ラジオは、相当大きく八丈の被害を報道したらしく、あちこちから、お見舞の電話がかかってきた。私あてにも、東京や大島の友達が心配して電話をくれた。友達っていいものだなあ、とつくづく思った。ところで、住む家を奪われたり、フレームなどを壊され、これから先どうしたらよいか途方に暮れている人達は……。その人達に較べたら、私達など被害を受けた部類には入らないのかもしれない。だが、私の部屋は天井が15センチぐらい浮き揚がり、ブロックのねずみ色の層が見え、畳はガラスの破片や、木の葉、雨水でゴチャゴチャ本はグチョグチョ。幸い教科書は無事だったが、ぬいぐるみはかわいそうに、濡れて毛が逆立ってしまっている。ドアは、3寸釘と釘抜の跡が残っていた。それを見た時はとてもショックで茫然としてしまった。

現在、私はようやく元の生活に戻ることができた。まだおそらく多勢の島の人達は、元の生活に戻れていないのではないだろうか。台風は人災ではなく天災のため、防ぐことはできない。しかし、私達の心掛けで、被害を最少限にとどめることはできる。また、この次の台風はいつ来るかわからない。「災害は忘れた頃にやってくる」と、この前教頭先生もおっしゃった。本当にそうだと思う。これからも油断せずに、いつも心掛けておくことが必要だと思う。

自然の猛威とたたかって

三 根 宇田川 光 子

本署から暴風雨警報が発令されたので注意するようにと連絡をうけて1時間もすると、風は強まり雨は横から降り出しました。雨戸が次々に飛ばされてしまい、ガラスが割れ始め、洋服ダンスが横倒しになってしまいました。これは大変だと思い、1歳の次女を背負い「こわいよう」と足にまつわりつく長女の手を握り、「時計の針が6になると台風は帰るからね、それまでがんばろうね」と言い聞かせ、自分自身をも励ましながら、家中をうろうろしてしまいました。

「回りを見てくる」とヘルメットをかぶり車に乗る夫の後姿をうらめしく思いながら早く過ぎ去ってくれるよう祈らずにはいられませんでした。しばらくして「風で車が走れない」と戻って来た夫をお向いの人が呼んでいる様子です。見ると、屋根のトタンが紙きれのようにヒラヒラ舞い上がり、天井はもうありませんでした。

必死でラジオを聞き、少し静まったと思っていたら「ドーン」と何かの爆発を思わせる大きな音に、メチャメチャのガラス破片が飛んできたのです。「ワーッ」と泣き叫ぶ声や子供と自分の足から流れる血をみながら、なおも吹きつける風にもうこれだけ吹けば気がすんでしょ

う、あせんと座り込んでしまいました。「立てっ」という夫の声。傷口にタオルを巻き、子供をなだめるうちに署員の方が車で避難するようにと迎えに来てくれました。電柱が、樹木が、いつ倒れてくるかとビクビクしながら残った夫を気づかいつつ本署へ着きました。署員の方々の顔を見て救われた思いがしました。

翌日は、明るくなるのを待っていたように金づちの音が聞こえてきました。被害の少ない人が食事の世話、子供の世話などをし、お互いに励まし合いながら続ける復旧作業です。その力強さとたくましさに「鳥も通わぬ島」と言われ、きびしい自然とたたかってきた八丈の長い苦しい歴史を思わずにはいられませんでした。お蔭で日一日と平穏を取り戻しつつあります。暖かい御支援をいただいた方々や早々と駆けつけてくださった方々に対し心から感謝いたします。

大 自 然 の 脅 威

三 根 菊 池 聖

最大瞬間67.8メートルの台風13号が八丈島を通過したのは、10月5日午後4時ころから同6時ころの約2時間だった。その1時間前の3時ころは曇空で時折薄陽も射して時々小雨がばらついていた。「小型台風で中心は40メートル前後、八丈島へ接近するのは午後5時から6時ころ」との台風情報だった。南風なので八重根港の波の様子を電話で聞いてみると「ベタ風で台風は来ないよ」との返事だった。

午後3時半ごろ、雨具に身を固め隣りの奥山さんに手伝ってもらい、雨戸に板を打ちつけた。空を仰ぐと雲足が早い。「奥山さん台風はまともに来そうだから、家族を避難させた方がよいよ」とアドバイス。奥山さんは車で家族3人を実家へ移し、再び帰って来た。風が徐々に強くなり車庫の支柱がもちをついている。隣家の沖山さんの窓に当れば大変なことになると考え奥山さんと二人して5~60キロ位の石を2個運び、ロープでしばって重しにし終ったのがちょうど4時ころ。天気は急変し樹木は騒ぎはじめた。轟音と共に第1回目の突風が襲った。車庫の横塀と屋根は一たまりもなく吹き飛んだ。「あぶない。逃げろ」と玄関へ飛び込んだ。

数分置きに突風がやってきた。そのたびごとにトタン板や板切れが飛んで来る、「風は息をする」と聞いているが、魔者の荒息のようだ。

4時半ごろから南の風は無気味な音にかわり間断なく荒れ狂う。家全体がギシギシときしみ玄関のガラス戸が吹っ飛んだ。畳がふわっと浮き上って来る。屋根のトタンがメリメリはがされていく。そのとたんに道路をへだてた西さんの屋根が玄関前へそっくりドサリと落ちて来た。あわてて裏手に馳けた。すると雨戸とガラス戸が音もなくもって行かれた。家は吹き抜けになった。タンスの引出しが全部引き抜かれ衣類が舞い部屋は足の踏み場もない。

トタン、板切れ、木の枝、角材までが濁流の様に目の前を流れてゆく、それがブロック塀に

当っては天高く舞い上り、空全体を鳥の群れが飛んでいるようだ。沖山さんの屋根もはがされ東隣りの青木さんの2階が崩れ落ちる。川上さんの玄関も屋根も無残だ。「この分だと島一円大被害だな」との思いが頭をかすめる。家がいつ倒壊するか、不安が恐怖に変わった。物が飛んで来るので外へは出られない。車は道をふさがれ使用不能、ダイヤルを回しても電話は不通、スイッチをひねっても停電、蛇口をひねっても断水。身の危険を感じた。

「冷静に、冷静に」と自分に言いきかせる。押入れから軽い夏フトンを引きっぱり出し頭からかぶった。風呂の中が安全と思い風呂場へ入ったとたんに窓ガラスがガシャーンと割れ、ここも飛び出して狭い家の中を右往左往。容しゃなく荒れ狂う台風。夕闇は迫って来る。風はいつやむとも知れない。夜にならないうちに逃げ出さねばと心はあせる。

ようやく風が静まった。空全体が茶がかかったダイダイ色に染り無気味だ。台風の目に入ったな。風はまだこれからだ、今のうちだと思い切って家を出た。電線がズタズタになっている。人っ子一人、人影はない、走っても足が進まない。電線で何回首つりしたことか、夕闇の中に報話局だけあかりが見えた。夢中で飛び込んだ。

長い長い恐怖の2時間だった。精根尽き果てた。生きた心地はなかった。

台風13号の恐怖

大賀 郷 村 田 百合江

10月5日、八丈島を直撃した台風13号は、私達一家にとっても生涯忘れることのできない恐怖の経験でした。‘長い人生色々経験してみよう、との主人の希望で念願がかない、ここ八丈島へ移り住むようになって、生活もやっと軌道にのり、半年を経験したばかりの日でした。脱都会組の一員ではありませんが、わずらわしい都会での生活を解放され、南国ムードの八丈島での生活を満喫していたころでした。今回の台風で無惨に吹き飛ばしてしまった我が家は、皆さんから白蟻城といわれているほど白蟻に巣食われたボロ家でしたが都会での生活環境と違い比較的広い庭にはフェニックス、ハイビスカス等南国特有の植物が沢山あり、ボロ家とはいえ‘住めば都、で落ち着いた環境の中での一軒家でした。今となつては、あの家も何んとなく愛着を感じます。

今回の台風で一瞬にして全壊の目に逢いましたが、今では、壊れた家のあとかたづけも署員皆様のお蔭ですっかり片づき、一段落し署長さん達の暖かいご配慮で格好の新居に入り、以前に増して出直さなければと、奮闘中です。被災直後はなす術もなくただ茫然とした毎日でした。主人が警視庁にお世話になっていればこそと思われる組織をあげての物心両面の援助、わざわざ東京から御見舞、激励に来ていただいた主人の上司達のご配慮で気分的にも救われ、本当にありがたかったと痛感している次第です。しかし、被災当時をふりかえってみますと、心細

い限りでした。何しろ、我家が吹き飛びそうになったときには、肝心の主人は警察署の方へ行っており、災害への普段の備えの悪さは、私自身の責任としても本当に心細かったし、恐しかったの一言につきます。恐怖感は言葉では言い表わすことはできませんし、経験者でなければ理解できないと思います。

今回の台風は、八丈島全土にくまなく被害を与えるほど猛威を振ったわりに、予報ではそんなに大きな台風ではなかったし、太平洋上の孤島のため、普段風雨の激しいのに慣れているせいもあり、そう心配していなかったのも私のみではなかったようでした。それにしても、風が強くなり始めてからものの30分位で暴風となり、いきなり被害が出はじめるほど急でしたので、避難の準備まで考えていなかったのが現実でした。避難しなければならないほど強い台風になるとは思いもせず、あれよあれよと言ううちに身の危険を感じるようになり、雨戸のない、玄関等に小学1年の長男と幼稚園の長女を動員し、洗濯機に水を張ったり、机等でバリケードを築き、ある程度の補強を試みたものの大自然の前には無駄な抵抗でした。

八丈島は普段から風雨が強く、また、そのため湿度もひどく梅雨期などは家中カビだらけになるといっても過言ではありません。我家は、この湿気除けのためか、下駄ばきの家で床下は風通しのよいように建てられているため、床下を通過する風は畳をぼこぼこ音をたてて持ち上げるほどのすさまじさでした。そのため、家の中にいたたまれず、生きた心地はしませんでした。一刻も早く避難しなければと思い、とり急ぎ貴重品と子供達の着替えのみを、先般載いた非常袋に詰込んだのですが、いざ避難しようと思ったときには、屋外は隣家の屋根、瓦、トタン板等が宙を飛び交い、屋外に出るのもかえって危険が多く、出るに出不れず躊躇していました。そのときは既に自宅周辺のトタン塀は、跡形もなく、屋根も飛んでしまいそうな異様な音がし始めたため、子供達と一緒に布団を頭からかぶり、おろおろしている所へ主人達が迎えに来てくれました。しかし、そのときは、倒壊寸前だったのです。すぐ迎への車に夢中で乗込んだのですが、車までほんの10メートル位の距離も暴風雨で、また頭から布団をかぶっていたため立って歩けず、這って行った様な次第でした。車に乗込み避難開始というときに玄関がまず最初に大きな音とともに吹き飛びましたが、その後は避難に精一杯で知るよしもありません。車で避難途中も倒れてくる物で、いつ車ごとべちゃんこになるか不安と恐怖で身も心も縮まりどおしでした。避難先は取敢えず警察署までと向いましたが、車もとても走れる状況ではありませんでした。しかし、止っても危険、何れにしても危険が一杯という状況でした。車の目の前に電柱が倒れて道がふさがれ、また、一時は車が真後からの暴風を受け、車体が浮いたりして、今にも車ごと吹飛ばされんばかりでした。車には飛び交うものがごつんごつんと鈍い音をたててあたり、最後にはとうとう大きな屋根みたいなものが車の後から飛び越え、フロントガラスに命中、ガラスは粉々になってしまいましたが、それでも悪運が強いのか、特に傷らしい

傷は負いませんでした。普段なら車で4～5分の距離も、当時は迂回したり、飛び交う物をさけながら警察署まで着くのに30～40分はかかったようでした。しかし、到着するまでの時間は数時間を要したほど長く感じました。やっとの思いで警察署に到着すると署員の方々も大奮闘中で、たのもしい姿をみてやっとならぬと、一安心し、胸をなでおろす余裕もできました。その夜は台風通過後、真暗な街並みを車のライトを頼りに自宅に向いましたが、このライトの中に入る被害状況を見ただけで我家は当然なきものとは察せられましたが、我家の無事を祈りつつ自宅へ急ぎました。我家に帰ってみると家はすっかり姿を変え、無惨な姿になっており、手の施しようもなく、立ちすくむ足から急に力が抜けるのが自分でもよくわかりました。柱と所々に板がくっついているのみで、家の中を風が吹き荒し、洋服ダンスなどあちこち捜してみたもののどこへ飛んで行ってしまったのやら……。

しかし、不幸中の幸と今では思っています。まかり間違えば生命をおとすような危険に何度もあいながら、奇跡的にかすり傷一つなく、また島全体としても大きな台風の割には怪我人も少なく、犠牲者が出なかったことを人ごとでなく本当に喜んでるところです。二度とこのような災害のないことを祈りつつ「天災は忘れたころにやってくる、の格言どおりこれを機に大自然のおそろしさを肝に銘じ、不断の備えを十分にしておきたいと反省しています。

八丈島13号台風記

都立八丈高校定時制教頭 浅沼良次

＝ 魔 の 日 曜 日 ＝

八丈島の10月5日の朝はいつもとあまり変らないものであった。2, 3日前からテレビの天気予報で台風がくるかもしれないという予備知識は持っていたが、八丈の人たちはそれほど不安感をもってなかった。朝からお昼ころまでは曇天ではあったが台風の襲来する状態ではなかった。私も日曜日のことでもあり家にいて、1週間前にまいた5坪ばかりの家庭菜園の大根が、3センチばかりのびているのを、多少とも台風の影響で根をやられてはと庭において土寄せをしたが、不思議なほど家屋のことは頭になかった。災害がおわってから被害者の知人、友人と話しても、台風が直撃し島に大惨事をもたらすことを予想した人はほとんどなかった。それほど5日の午前中は八丈は平穏に推移していた。

私はお昼の天気予報で、小型の台風13号が御前崎の南南西250キロの海上にあって、毎時55キロの速度で北東に進行しており、中心気圧945ミリバール、中心付近の最大風速45メートルであることをきいたが、すこしも心理的な動揺はなく、このときも八丈に台風が襲来するだろうという実感は何故か起きなかった。あとできいたことであるが、台風で家屋全壊の被害を受けた八丈町役場企業課に勤務している中之郷地区に居住する天野善平さん(46)は、5日午前

11時ころ非番となり自宅に帰る途中、横間道路から八重根港をみたら、海は静かで台風の余波はなかったので安心していたという。島の人たちは台風の前ぶれとして、海の状況で予知する慣習をもっている。

一見して平穏な気象状況の均衡がやぶれて雲行がおかしくなりだしたのは午後3時ころからであった。私は八丈に台風がやってもせいぜい45メートルくらいだろうと楽観していた。そのころ東京の千住から家内の姉が心配して電話があり、「すこし風が強くなったようです」と家内が出て話しをしているのを、私は居間でテレビを見ながらきいていた。風が次第に強くなってきて30メートル程度の突風が吹き出し、家内はあわてて2階の雨戸をしめに行った。

そのころから外が険悪な状況になってきた。無気味なごう音とともに南東方面から強烈な風が襲ってきて、午後4時にはすでに台風の魔の手は八丈の上ののびてきていた。これは容易ならない事態となったと私も直感した。4時半ごろ2階の様子を見に上がった家内が「早くきて…」と悲鳴をあげた。駆けあがって見ると、南側のしめた雨戸が強風で10センチばかり開きそこから吹きこんだ風でアルミサッシが5センチほど弓なりとなりいまにもはずれそうな状態であった。無我夢中で雨戸をしめなおし2階にいるのは危険なので1階に避難した。このころが島史上最高といわれる最大瞬間風速67.8メートルであったと思う。この瞬間に八丈では家屋全壊数100件の惨事が起ったのである。もちろんそのころは電灯は消えテレビを見ることはできなかったが、不思議なことに電話はまだ通じていて、今度は江戸川の妹の家から、いま八丈で台風のため大被害が起きていることを報じていると、わざわざラジオを電話に近づけてきかせてくれた。八丈島の警察署長の被害状況をつたえる談話が流されていた。窓から外をみると隣地に建てられていた未完成の建物は、倒れてめちゃめちゃになり、倉庫の屋根が空中を飛んで行くのが見えた。風がいくぶん弱まってから、100メートルほどへだてた弟の家に行ったら屋根は吹き飛び、雨戸は吹き飛ばされ見る影もない惨状であった。人命に異常がないのをきいてから、私は勤務校の高校へ雨にぬれながら走った。道路は吹き倒された家屋の一部や、トタン等で通行するのもやっとの有り様であった。ついこの前に建てたばかりのコンクリートの電柱が2、3本倒れているのがわかった。すでに暗くなり八丈高校の被害はわからない。校舎の中に入ったら隣の住宅から避難してきた人が数名、玄関のところに座りこんでいた。話をきくと雨戸は飛ばされ、屋根は吹き飛び家の中はめちゃめちゃで命からがら避難したと恐怖を語っていた。

＝ 秋晴下の惨状 ＝

最大瞬間風速67.8メートル、島史上初の超強風が吹き荒れて、八丈島は廃きょと化し、町民たちは電灯が消えた暗黒の中で恐怖の一夜を明かした。翌6日は早朝から天候だけは昨日と

うって突って快晴であったが、暴風のツメ跡はあまりにも甚大であった。

私は台風で窓ガラスが破られた自家用車で大賀郷地区をまわってみた。屋根を完全に吹き飛ばされた家が点々と並んでいる。道路は電線などがぶらさがって非常に危険な状態であり、八丈銀座ともいべきメインストリートは、交通止めの立看板が、300メートルばかりにわたって北と南の入口に立ててあり、その付近の道路を虚脱した表情の町民たちが、フラフラと歩きまわっていた。だれも散乱しているものを片着けようとしめない。どこから手をつけてよいかわからない状態である。通称曲町から八丈裁判所までが、とくにひどくやられていた。大賀郷のメインストリートの中央にある大賀郷小学校も大被害を受けていた。校舎の赤いトタン屋根が吹き飛ばされ、天井が抜け落ち木造平屋建ての14教室のうち、9教室が烈風でメチャメチャに破壊されていた。

私がとくに驚いたのは1カ月前に立てたばかりのコンクリートの電柱が、通称八高通りで3本も根元付近からポッキリ折れているのを見たときである。暴風の強烈さをまざまざとみせつけられたのと同時に、木製電柱はほとんど折れてないところから、私たちが考えていた丈夫そうなコンクリートの電柱はもろいもののように思えた。その折れた電柱が家屋付近に立っていて、それがもろに家屋に倒れたら、家ごとベチャンコになり、中の人たちもやられていたのではないかと、りつぜんとするものがあつた。

大賀郷地区で全壊家屋がもっとも多かったのは八重根港のある千鳥部落であるが、この部落は南の海岸に面した部落で、13号台風の直撃をまともに受けたもので大被害を出した。私は生徒の被害状況の調査のためこの部落をまわったが、屋根がなく床と柱だけになった無残な家屋が多かった。新聞紙上に「屋根なし八丈、とか、見取り図を見るよう、と書かれて、写真のモデルになったのはこの部落である。

また目立ったのは園芸用ビニールハウスの被害である。島全体のビニールハウスのほとんどがこわされ、なかの観葉植物の被害は大きかった。また、露地ものもそうとうの被害を受けた。町の対策本部の10月11日までの調査によると、ビニールハウス内のフェニックスロベレニー、ケンチャヤシ、シンピジウム（洋ラン）の被害は2億4000万円。露地のストレッチア、モンステラなどの切り花、切り葉の被害額は4億5000万円。ビニールハウスの被害1億円を加えると観葉植物の総被害額は7億9000万円とある。

町の対策本部の10月24日現在の災害報告によると、全壊家屋275棟、半壊517棟、一部損壊1,279棟、重傷3、軽傷82、総被害額55億という。八丈という小さな島（面積68.33平方キロ人口約1万800人）には、致命的ともいふほどの大被害である。

これほどの惨害にもかかわらず人的被害が予想より少なく、死者が出なかったことは不幸中の幸であった。その理由としては次の諸点があげられる。第一は今回の台風が吹いたのは午後

3時から5時30分ごろまでの昼間だったこと。そのため避難する際、好判断で行動することができた。第二は八丈は地形の関係から、台風のもたらす集中豪雨によるガケ崩れで家屋がおしつぶされるケースがないことと大きい川がないので洪水で人命をうばわれることがない。第三としては八丈島の人たちは、幼少のころから台風の経験者で、台風の際に身を守る習慣が自然と身につけていて、家屋の中でも安全な場所に避難した点があげられる。

台風による負傷者の約30%がガラスの破片によるものであることは、近代建築のもたらす代表的な災害として注目にあたいする。

＝ 石 が き 文 化 ＝

八丈島はむかしから台風街道であって、島人は毎年のごとく悩まされ、そのため暴風対策に苦心し、人家は石がきを用いて防ぎよの第一の囲いとした。八丈文化が「石がき文化」と言ってよいほど、石がきにすぐれた美しさをもっているのは、伝統的に防風対策がよく守られて来たことを示すものである。

石がきの高さは約2メートル、幅も同程度で石がきの上には、シイ、ツバキ、タミ、マダミなど常緑樹を植えて防風林としている。石がきを、古くはオリと呼び、屋敷の周りの石がき上の樹をカゼクネと呼んでいる。クネは防風林のことである。

島人の台風に対する恐怖は施政面によく反映し、植林による防御策が立てられた。寛政11年の島の「定」のうちに、1、台風のため防風林は地主といえども、みだりに伐りとしてはならないこと。1、防風林のない場所には苗木を植付け成木になるよう努力すること。1、地主はわずかの利益に迷って防風林を伐取り、または怠けて植付けをおろそかにして損害を受けることは、ミノ作りを怠って雨にぬれる苦しみと同じであること。かんで含めるようなこの定の内容は防風林の重要性を認める施政者の意図が十分にうかがわれる。

台風という自然の脅威から逃れることが、まず第一と地役人や、名主、取締役などが常にこの問題について十分な考慮を払い、暴風雨から八丈を守ることに努力したのである。

台風13号で話題の一つになったのは、台風に強い八丈古来の伝統的な建築物の再認識であった。強烈な台風と多雨湿潤な風土条件から、八丈島の民家建築は強風から住居を守るために古くから種々の工夫が行われた。

島の100年以上になるボウエ(主家)は、島人の先祖が暴風対策を第一として建てたことが、その構造などうかがわれる。16センチ角の太い柱が数多く使用され、その上にひとかかえもする桁がどっしりと横ののっかっているボウエ(主家)の内部の縦横に緊結された黒ずんだ材料をみると、どんな台風でも微動だにしない頑丈な鉄骨のような感じである。

民俗学者の大間知篤三氏は、八丈島の家屋について次のように述べている。「小さな家屋に

も柱は三重に立ち並んでいる。雨戸はそれぞれ両方に分けて、三尺間の外側に納められる。三尺間の外方、すなわち家屋の四隅をさらにまた六尺のカゲ板で囲っている例が多い。これら三重に並ぶ柱、筋違いを入れた三尺間、四隅のカゲ板などは、この島の風土的特色たる暴風と多雨湿潤とに対して、家屋を守るために必要なのである」このようにむかしの島人は、風土にそくした島特有の家屋建築を考慮したのである。

台風13号の被害を分析するため、日本建築学会調査団13人が10月9日に八丈に到着した。亀井勇団長(日大教授)は、「新聞テレビなどで「古い昔風の家が残り、近代的な住宅などが壊れた」と伝えられたので、なぜ古い家が無事だったのか、また台風襲われながら、死者が出なかった理由がどこにあるかといった点を調査するため」と語った。

八丈の古くからの家屋の間取りは漢字の「田」の字形で、四すみや真ん中に、16センチ角の太い柱が使われていた。周囲を廊下が囲み、雨戸があった。しかし最近の家屋は、都会的なモダン建築に変わり、こうした柱が使われないばかりか、雨戸のない吹きさらしの窓ガラスやサッシ式窓に変わった。このため飛んだトタンや石が窓ガラスを割り、サッシ式窓を吹き飛ばし、烈風が吹き込んで天井や屋根を吹きあげたという。

調査団がとくに注目したのは、防風林と石がき、どんな古い家でも、樹木や石がきが家の周りにあったところでは、ほとんど被害を受けずにすんだ。新築でも防風林や石がきがないところは被害が大きかった。

こうしたところから、調査団では「風土や気象条件、天災の歴史などを考慮せず、無批判に都会風の建築を受け入れるのは危険」と結論づけ、「台風銀座」の八丈では、とくに家屋の建築方法や防風林、石がきづくりを再検討すべきだと指摘している。

＝ 復興の島で ＝

台風の災害で特記されるのは、八丈島の人たちの底力である。通り魔のような自然の脅威にメチャメチャに破壊され、廃きよと化した死の島が、時間の経過とともにめざましい復旧ぶりをみせている。屋根を吹き飛ばされた家屋や戸や窓のない家屋などが3日とたたないうちに一部をのぞいて住居できるまでに修復された。島の主要道路も自衛隊の応援などもあったが、災害を受けて2日後には、すでに自動車による交通も可能となった。

私は八丈の人たちの災害に対するたくましさは、島の風土のなかで培われた伝統的なものであると思う。この島では昔から相互扶助の機構として「コーチ」という協同の単位が存在していた。災害時には現在もコーチ制度はあって、今度の台風ですばらしい活躍ぶりを発揮している。自宅が全壊の被害を受けた人が、自宅の処置をさておいて同地区内の他の被害者宅の手伝いをコーチのメンバーとともにやっているのを私は目撃している。被害直後に、災害を受けた

家屋の屋根の上で黒くかたまって修復作業に精出しているのは、コーチのメンバーが多かった。コーチは島の災害時における復旧の原動力となっている。

島の風土のなかで培われた災害時における島人の底力は、私は自然の脅威にしいたげられた苦難の歴史から体得したものであると思う。八丈島年代記その他の古記録によると暴風・大雨・潮吹上げ・御神火・地震・かんばつ・虫害など天災地変の種類が多く、そしてその度に諸作はそこなわれ、数知れない凶作飢饉に襲われている。その間には多数の死者などを出しているが島人の大半はその苦難に耐えぬいて、孤島のなかで生きつづけてきたのである。その血をうけついで現在の島人たちは、八丈島の台風史上最大の災害にくじけることなく雄々しく復興に汗と血の努力をつづけている。

マスコミによる報道もあって、全国からよせられた見舞状、見舞金、救援物資などの温かい善意は、島人たちの復興への意欲をさらに駆りたてている。町の対策本部には新婚旅行中のカップルや、幼稚園児までから見舞金が送金されているとのことである。私の勤務する高校へも、七島の高校や、その他の高校から生徒や教職員によるカンパの見舞金、見舞状が多くよせられた。温かい厚情に報いるためには、一日も早く島の復興をなしとげて期待にこたえたいものである。次に水戸市の女生徒から送られた一文を載せて、全国からよせられた激励と援助に感謝の意を表したいと思う。

八丈島の皆さん、このたびは台風のためいろいろな被害をうけられ、さぞ、大変だったことでしょう。私の住んでいる茨城県では、そのような台風による被害もおこらないので、あなた方のことがあまりピンときません。でも新聞などを読んでいますと、そちらの様子がいろいろとわかり、台風というものの恐ろしさを感じます。私は、今皆さんに「大変でしたね」という言葉しか言えないと思います。皆さんの力になれないことが残念でなりません。復旧作業も進んでいることと思います。1日も早く、皆さんに心の休まる時がまいりますようお願いしております。頑張ってください。

この簡潔な一文を読んで、災害を受けた島人はどれほど力づけられ、復興への意欲を増加させることであろうか。

11月7日の某新聞に掲載されていたように、まだこれから長期にわたって、八丈島には台風後遺症はのこり、被災者たちは種々の困難に耐えて行かねばならない。住宅再建、農業経営資金、店舗の補修などに必要な資金は地元の金融機関や都、国の補助、それに住宅金融公庫などの低利、長期返済の融資によるものであり、どれも半年から一年の据え置き期間後、返済が始まるものであるが、やはり借金に変わりはなく、それを利用した島人たちには重い負担となるものである。

10月11日に災害視察に来島した美濃部都知事は、「1日も早く島民が立ち直るよう規則の最

大限で援護措置をとり、それでお足りない場合は可能な限りのことを致します」と語った。この大災害に対しては復興のために行政面の援助はもちろん必要とするが、峯元町長、笹本議長連名で都知事、都議会議長に提出した要望書のなかに、「私達八丈町民は、かかる都当局の御厚情に甘えることなく自力復旧を信条として立ち上がり1日も早く正常な生活にもどる決意でございます。」と述べて自力復興の意欲を示している。この文面のとおり復興の主眼となるのは他力ではなく八丈島の歴史的に培われた自力更生の底力を基本とすべきではなかろうか。

＝ 台風の教訓 ＝

台風13号は八丈島に数々の教訓を残した。島の風土の中でこれをいかに活用するかは今後の課題であるが、その主な点を次に述べてみたい。

台風13号は八丈島にとって忘れたころにやってきた災害であった。昭和になってから代表的な八丈島の台風は、昭和13年9月に襲来した瞬間風速60メートルの台風でこのときの被害は家屋倒壊300棟農作物は全滅という惨状であった。台風13号はそれから37年ぶりである。最近の台風としては昭和42年10月の34号で、この台風は31.5メートルで被害は約50万程度の軽少であった。

台風の来襲が八丈から遠ざかるにしたがって、島人たちは島の風土の恐しさを甘く見る風潮が生じた。その例としては今回の台風情報に対して、島人たちの関心度が薄かったことでもわかる。被災者たちに対するアンケートでも「45メートルだったらたいしたことはない」とほとんどが考え、なんら台風に対して防ぎよの方法を講じてなかった。「日ごろの備えこそ最大の守り」という教訓が、物心両面にわたって、こんどの災害では確認された。

私が3回目の「石がき文化」で述べたように、住居は島の風土的特色である台風と多雨湿潤に対して、家屋を守るための配慮が必要であろう。島の先達は石がきを築いて台風の防ぎよ第一の囲いとしその上に防風林を植えている。最近になって島人の石がきに対する認識がうすれ、先祖が生活の知恵で築いた石がきを崩したり、防風林を切ったりという軽率さがみられ、そのため台風13号の手きびしい報酬となった。私たちは現存する歴史的文化遺産である石がきを保存するとともに、新しい石がき造りにはげまねばならない。

古来から八丈島では建築物も強風に備えて種々の工夫が行われた。こんどもマスコミでとりあげられ、台風が強かった昔風の「田」の字造り、の古い建築が注目されたが、私はいちがいに近代建築が八丈島にむかないとは思わない。しかし基礎とか材料とか構造などを考慮すべきであろう。吹きさらしの窓ガラスやサッシ窓は、13号でわかるように、飛んできた木片や、石などがガラス窓を破り、部屋に充満した風が屋根を吹き飛ばした。そこで最大の教訓は「ガラス窓には必ず非常用雨戸を用意すべきである」ということである。

私たち島人は台風13号なみの強烈な台風が二度と襲来しないことを望むものであるが、それは不可能にちかい。いつかまたくる台風災害を予想して、私たち島に住む者としては自己の生命と財産を守るために、常に備えを忘れてはならない。こんどの台風で死者がなかった点をふりかえって見ると、島人たちが「台風には戸外へ出るな。風下のフロ場か便所に隠れろ、という先祖の教えを忠実に守ったことがよかった。これは今後の台風時の避難方法として、ひとつの指標となるであろう。

私が言うまでもなく、今後は島の台風に対する防災対策は強化されるであろうが、この際あえて一言したい。災害対策の中心機関となるのは、八丈島測候所、八丈支庁、町役場、八丈警察署であるが、4者の緊密な横の連携と、広報車による迅速なる島人に対するPR、それに年間を通して台風関係を所管する係の設置などを切望したい。

それから島的な防風林についてであるが、かつて八丈島の海岸線とか、台風の被害を受けやすい地点には、松の大木が繁っていた。太平洋戦争のはじまる前ごろ、松くい虫の被害で島中の松は枯れ、現在では島に大木はほとんどなく台風に対する島的な防風林としての効用の面からは、裸の島同然となっている。「1本の大木は数軒の家を救う」という古老の話を教訓としたい。

台風の度に島人が迷惑をうけるのは、坂上、坂下をむすぶ島の動脈である横間道路が不通になることである。私も高校教師として坂上の生徒がバスで往復する道路であるから、いつもそのことで悩まされている。こんどの台風でもガケ崩れで数日間の休校となった。復旧した現在でも台風で、ガケの木が吹き倒されて根がゆるんでいるため、落石があり横間道路を通行する人は、生命の危険さえともなっている。これはいつも台風のたびに島人がこうむる災害である。島の動脈である横間路線の重要性と、島人の生命の危険を守るためにも、この機会に抜本的な対策をのぞみたい。

台風13号は高価な代償として、八丈島に数々の教訓を残した。私たち島人は今後には備えて13号台風の教訓を忘れてはならない。

(注 この論文は東京七島新聞に5回にわたって掲さいしたものである。)

台 風 後 の 異 変

三原中学校教諭 長谷川 俊 夫

台風通過後、八丈島に、時ならず春の花が狂い咲いた。

14日後に桑。

25日後に桜と梅。

30日後に雪柳等である。

内地でよく見られるいわゆる狂い咲きとは違って、台風の塩害によって、無理に落葉させられた木々が、温暖な気候のため再び芽を出し、春を待たずして花を咲かせたものと思われる。

12 全国からの善意に報いよう

台風13号の災害に際しては、10月11日天皇陛下からの御下賜金をいただいたのをはじめ東京都および全国各地から多額の義援金品が贈られました。

義援金の総額は98,973,975円、義援品は生活必需品55点(1品目1点、以下同じ)食料品32点、復旧資材10点の多きに達し、随時、被災住民に配付され感謝されております。

このような多くの方々の善意に報いるためには、この善意を永久に忘れることなく、今回の災害を教訓に再びこのような災害を受けることがないように、住民1人1人がお互いに注意し努力することであると思います。町民各位の自覚と協力をお願いするとともに、ご芳志をお寄せいただいた方々に対し、心から厚く御礼申し上げます。

なお、ご芳志をお寄せいただいた方々は次のとおりです。

義援金をお寄せ頂いた方々

(敬称略・順不同)

氏 名	住 所
東京都議会議長 醍醐 安之助	東京都千代田区丸の内3～5～1
民 社 党 都 議 団	全 上
日 本 社 会 党 都 議 団	全 上
都 議 会 親 仁 会	全 上
公 明 党	全 上
日本共産党東京都議会議員団	全 上
東京都議会自由民主党	全 上
東京都町村議会議長会	東京都立川市錦町5～10～4
富士銀行頭取 松 沢 卓 二	東京都千代田区大手町1～5～5
(株) 弘 潤 社 石 井 清 司	東京都新宿区西大久保3～26 (サマリヤビル)
創 価 学 会 本 部	東京都新宿区信濃町32番
東京都町村会	東京都立川市錦町5～10～4
東京七島海運(株) 藤 井 忠	東京都江東区豊洲5～1～11
大島町議会議長 山 本 正 晴	東京都大島町元町1～1
東京都大島町長 鈴 木 三 郎	全 上
東京都島嶼町村会	東京都港区海岸1～4～7
東京都島嶼町村議会議長会	全 上
三宅村議会議長 浅沼義人 他一同	東京都三宅島三宅村大字坪田
東 海 汽 船 株 式 会 社	東京都港区海岸1～9～15
金 川 医 院 金 川 ト ヨ 子	埼玉県川口市並木1～11～12

氏 名	住 所
八丈島郷友会会長 奥 山 善 雄	東京都千代田区神田淡路町1～19 メトロ電気内
新宿大通商店街振興組合	東京都新宿区新宿2～65
東京日本橋ライオンズクラブ	東京都中央区八丁堀1～5～1 本八重洲ビル4F
ライオンズクラブ国際協会 302E複合地区ガバナー協議会	東京都千代田区内幸町1～1～1 帝国ホテル本館1F
302E-A地区第2リジョン第1ゾーン	東京都中央区八丁堀1～5～1 本八重洲ビル4F
302E-A地区第2リジョン第2ゾーン	全 上
東京都職員労働組合	東京都千代田区丸の内3～5～1
七島信用組合理事長 毛 内 彦四郎	東京都大島町元町4～1
自衛隊東京地方連絡部長 川久保太郎	東京都新宿区市ヶ谷本村町42
日本医科大学第一病院 内科医局一同	東京都千代田区飯田橋3～5～5
岡 村 千 織	東京都太田区田園調布4～18～10
ふりいじあ丸船長他 乗組員一同	東京都港区海岸1～9～15
自由民主党東京都支部連合会 会長 浜 野 清 吾	東京都千代田区永田町1～19
三多摩地区公立病院運営協議会 会長 東京都青梅市長 石 川 要 三	東京都青梅市4～16～5
指 田 早 苗	千葉県船橋市印内1～9～39 本吉荘内
伊豆七島建設業協同組合	東京都港区芝大門2～4～4 富士ビル内
参議院自由民主党	東京都千代田区永田町2～1～1 参議院会館
元八丈署員(竹田会)代表 竹田 龍	東京都千代田区霞ヶ関2～1～1(警視庁警ら部警ら執行課 落 合 光 治)
東 京 都	東京都千代田区丸の内3～5～1
埼 玉 県 知 事	埼玉県浦和市高砂3～15～1
広島県知事 宮 沢 弘	広島県広島市基町10番52号
大分県知事 立 木 勝	大分県大分市大手町3～1～1
(合)丸幸商店代表社員 中 村 昇	三重県鳥羽市鳥羽3～3～6
千葉県知事 川 上 紀 一	千葉県千葉市市場町1番1号

氏 名	住 所
東京都教職員互助組合 理事長 佐藤文男	東京都千代田区丸の内3～8～1
柴田 彰	神奈川県横浜市南区永田町1034
高橋 まつ子	東京都杉並区高円寺南5～21～14
風間 順	東京都練馬区練馬3～1～13 福田荘
海上自衛隊地区病院 伊東すえ子	神奈川県横須賀市長瀬2～7～1
三宅村役場 三宅島商工会青年部	東京都三宅島三宅村大字坪田
天理教教会本部	奈良県天理市三島町271番地
熊栄丸 川口 熊太郎	東京都大島町波浮港1
東京都23区生活学校連絡協議会 東京都多摩地区生活学校連絡協議会 社団法人 東京都新生活運動協会	東京都中央区八重洲4の7 諸類会館内
飯田歯科診療所 飯田 トミコ	東京都八丈島八丈町大字大賀郷無番地
印旛高校生徒会	千葉県印旛郡印西町木下1493
駒木 正義	埼玉県東松山市松葉町2～5～37
伊豆高原保養所組合第3班	静岡県伊東市伊豆高原
伊豆高原保養所組合第3班 磯辺憲三	全 上
東京倉庫業健康保険組合 伊豆高原荘 古川 茂	静岡県伊東市八幡野字中道
牧野 泰二	静岡県静岡市瀬名3498～11S5～406
鷺山 純一	静岡県静岡市馬場町95
全国離島振興協議会会長 山口一彦	東京都中央区晴見4～1～1 日本離島センター
佐々木病院	千葉県旭市口～1433
駒形 満	東京都目黒区八雲5～4～15 八雲荘1～203
中山 純一	埼玉県富士見市関沢3～6～18
(株) エンドレスエコー	東京都港区西麻布3～20～14 梅田ビル3階
厚木基地第14航空隊	神奈川県高座郡綾瀬町
波崎水産加工業協同組合	茨城県鹿島郡波崎町

氏 名	住 所
野 崎 陸 夫 ア キ ミ	兵庫県神戸市垂水区歌敷山4丁目11の22
大島交通安全協会役員一同	東京都大島町元町1丁目15番6号 大島警察署内
詩吟旭風流八丈支部 三 森 旭 風	東京都八丈島八丈町大字中之郷無番地
波 崎 町	茨城県鹿島郡波崎町6530
富山県知事 中 田 幸 吉	富山県富山市新総曲輪1の7
波崎漁業協同組合 代表理事 山 本 清	茨城県鹿島郡波崎町9473番地の1
前 川 東 洋 男	滋賀県東浅井郡びわ町益田
全日本磯釣連盟 神奈川県支部 植 田 貴 之	神奈川県藤沢市片瀬4丁目9の12
名古屋市長 本 山 政 雄	愛知県名古屋市中区三の丸3丁目
岡 本 吉 之 助	茨城県鹿島郡波崎町7491～1
東海汽船(株)大島支店	東京都大島町元町1丁目18番3号
永井(株)代表取締役 永 井 勝 司	東京都中央区築地5～2～1
交通道徳協会 平 井 繁 三	大阪府交野市星田15
箱根町長 亀 井 一 郎	神奈川県箱根町湯本256
新宿区長 山 本 克 忠	東京都新宿区歌舞伎町4番地
大 阪 市 役 所	大阪府大阪市北区中之島1丁目4番地
婦人民主クラブ再建連絡会	東京都中野区東中野3～13～1
新日本婦人の会 東京都千代田支部	東京都千代田区神田神保町1～36 黎明ビル
新日本婦人の会 東京都太田支部	全 上
新日本婦人の会 東京都中野支部	全 上
新日本婦人の会 東京都中央支部	全 上
新日本婦人の会 東京都東村山本部	全 上
新日本婦人の会 東京都本部	全 上
新日本婦人の会 東京都板橋支部	全 上

氏 名	住 所
日本共産党東京都委員会	東京都渋谷区代々木1～35
富士銀行浜松町支店 支店長 大 慈 弥 一 博	東京都港区浜松町2丁目
金 子 達 子	千葉県成田市加良部4～5～2
日本民主青年同盟東京都委員会	東京都渋谷区代々木5～37～15
ニッシンハウス工業(株) 代表取締役 沖 哲 治	東京都千代田区神田錦町1～810 Pビル5F
湯河原南ロータリークラブ 会 長 脇 山 長 男	神奈川県足柄下郡湯河原町吉浜1617 帰郷内
鹿島水産(株) 磯 野 幸 太 郎	茨城県鹿島郡波崎町9326
大 谷 武 文	埼玉県春日部市小淵1054～3
九州松下電器(株)総務部一同	福岡県福岡市博多区美野島4～1～62
山形県信用保証協会 有志代表 渡 利 強	山形県山形市旅籠町2～2
東秩父村青少年相談員協議会	埼玉県秩父郡東秩父村大字御堂634東秩父村役場住民課
与野市青少年相談員協議会	埼玉県与野市大字下落合145与野市教育委員会社会教育課
第二回洋上大学11班代表 沖田政夫	埼玉県蕨市錦町5～12～21
大 塚 み ち 子	埼玉県大宮市大門町3丁目1番地 大宮市役所
及 川	埼玉県与野市大字下落合145 与野市役所
インターナショナルスポーツ (東京新聞経由)	東京都港区港南2～3～13 東京新聞気付
財団法人日本宝くじ協会 理事長 細 郷 道 一	東京都千代田区平河町2～4～3 麴町会館3F
鴻巣市役所職員一同	埼玉県鴻巣市本町3～12
鴻巣市青少年相談員協議会	埼玉県鴻巣市本町3～12 福祉事務所青少年係気付
行田市青少年相談員協議会	埼玉県行田市忍1248行田市役所青少年対策担当課気付
熊谷市青少年相談員協議会	埼玉県熊谷市熊谷1080熊谷市役所青少年対策担当課気付
戸田市青少年相談員協議会	埼玉県戸田市戸田 戸田市役所青少年対策担当課気付
行田市第1回埼玉県青少年洋上大学一同	埼玉県行田市忍1248行田市役所青少年対策担当課気付
行田市第2回埼玉県青少年洋上大学一同	全 上

氏 名	住 所
秩父市第1回埼玉県洋上大学一同	埼玉県秩父市熊木町8 秩父市役所青少年対策担当課気付
秩父市第2回埼玉県洋上大学一同	全 上
深谷市青年会議所 水 村 洋 一	埼玉県深谷市深谷322 深谷市役所青少年対策担当課気付
森 本 淑 子	埼玉県浦和市上木崎584
大 野 洋 子	埼玉県浦和市別所1～12～12
藤 間 妙 子	埼玉県比企郡川島町三保谷宿319
岩 沢 律 子	埼玉県川越市小仙波町3～8～3
東 京 都 競 馬 (株)	東京都中央区日本橋3～3～9
国 保 会	東京都千代田区丸の内3～8～1 東京都民生局国保部内
日 本 福 音 宣 教 師 団 (ジャパン・タイムズ経由)	東京都港区芝浦4～5～4 ジャパンタイムズ編集部気付
新島本村長 前 田 仁 右 衛 門	新島本村1
若 郷 振 興 協 議 会	全 上
菅 弥 生	東京都中野区鷺宮4～27～4
東海汽船大島支店 自動車交通労働組合一同	東京都大島町元町1丁目18番3号
服 部 定	東京都大島町元町野地
稲 城 市 役 所	東京都稲城市百村7
齋 藤 高 一	神奈川県逗子市沼間1～5～26
妙 善 寺 釈 日 学	岡山県岡山市津島本町7～1
大野城市長 職務代理者助役 井 本 清 助	福岡県大野城市曙町2丁目14番地
訓練所長 馬 場 道 雄	東京都渋谷区西原2～51～1
新和機械工業(株)社長 児 玉 博 之	神奈川県川崎市川崎区南町16～1 朝日ビル内
大 阪 府	大阪府大阪市東区大手前之町2～4
(株)日本交通公社東京渋谷支店長	東京都渋谷区桜ヶ丘町2～9 カサヤビル内
三栄工材(株) 羽 瀬 寛 一 郎	東京都世田谷区三宿2～16～12

氏 名	住 所
和光コンサルタント(株) 社長 榎 木 一 夫	東京都豊島区南池袋3～13～13
及川接骨指圧総合療院 及川 正 次	東京都足立区西新井6～18～2
ボーイスカウト神奈川連盟 ゴールドエンアックストレーニング	神奈川県大和市南林間7～4～10
島嶼校長会長 広 瀬 進 吾	東京都三宅村大字阿古
三宅小中学校児童生徒一同	全 上
東京都新島本村立新島中学校 教職 員 一 同	東京都新島本村8番地
東京都新島本村立新島中学校 生 徒 会 一 同	全 上
神津中学校生徒会 渡 辺 律 雄	東京都神津島
秋田県知事 小 畑 勇 二 郎	秋田県秋田市山王4～1～1
井 上 徳	神奈川県川崎市幸区小向西町4～95
N H K 厚生文化事業団大阪支局	大阪府大阪市東区馬場町6～4 N H K大阪放送会館内
都立昭和高校2年D組一同	東京都昭島市東町2～3～21
大川町婦人会富田支部代表 榎原 訓子	香川県大川郡大川町富田
兵庫県土地改良事業団体 連合会社支部長 石 古 勲	兵庫県加東郡社町社 社土地改良事務所内
東京都島嶼町村一部事務組合	東京都港区海岸1～4～7
財団法人 七 島 学 生 寮	東京都世田谷区代田6～11～7
東京都島嶼町村一部事務組合職員一同	東京都港区海岸1～4～7
昭和建物管理(株) 社長 森 島 武 男	東京都港区海岸1～4～7 島嶼会館内
立正佼成会青年本部	東京都杉並区和田2～11～1 大聖堂内
檜原村役場職員一同	東京都西多摩郡檜原村489
篠崎第4小学校一同	東京都江戸川区鹿骨町2673番地
総評全国金属労働組合電設機器支部	東京都稲城市東長沼1～161
利 島 村 役 場	東京都利島村13番地
名古屋空港協議会	愛知県名古屋市中区栄2～10～19 名古屋商工会議所内

氏 名	住 所
東京学芸大学同窓会 理事長 藤井文夫	東京都文京区小石川 4～1～16
菅 森 良 太 郎	兵庫県尼崎市南塚口町 5～1～8
多 摩 市 長	東京都多摩市貝取 1724番
東京都立小笠原高等学校教職員生徒一同	東京都小笠原村父島字奥村
山 梨 県 知 事	山梨県甲府市丸の内 1～6～1
川 崎 市 長	神奈川県川崎市川崎区宮本町 1
群 馬 県 知 事	群馬県前橋市大手町 1～1～1
全通労組東京日通支部目黒分会	東京都目黒区下目黒 5～19～10
芝 税 務 署 職 員 一 同	東京都港区芝 5～8～1
三 宅 村 長 他 職 員 一 同	東京都三宅島三宅村大字坪田
三 宅 村 長 大 沼 良 三 三 宅 村 民 一 同	全 上
西多摩地区教育長会 並 木 正 雄	東京都西多摩郡羽村町羽 2828
島 山 調 明 天 野 裕 臣	東京都千代田区丸の内3～5～1都建設局用地部管理課徴収係
宮 川 権 次 郎 森 田 弥 太 郎	東京都新島本村大字若郷 若郷小学校
御蔵島村長 広 瀬 俊 彦	東京都御蔵島村
東 電 労 組 品 川 支 部 一 同	東京都品川区西五反田 5丁目3番1号
伊豆諸島開発(株)従業員乗組員一同	東京都港区海岸 3～6～45
東海造機(株)従業員乗組員一同	全 上
民社党東京第2区連合会大田・品川地区 地区同盟大内啓伍の会品川区議 木村 純	東京都大田区大森北 1～23～8号
横 浜 市 長	神奈川県横浜市中区港町 1～1
神 津 村 長 松 本 一 神 津 島 住 民 一 同	東京都神津島神津島村
神 津 島 村 役 場 職 員 一 同	全 上
清瀬市釣連盟会長 染 谷 博	東京都清瀬市松山 3～3～2
中 里 哲 夫	神奈川県相模原市上鶴間 3986

氏 名	住 所
(株)横河電機製作所科学製造2課1係	東京都武蔵野市中町2～9～32
大和ハウス工業(株)	東京都中央区日本橋1～3～13(大和ビル)
東京都三宅島三宅村立阿古小学校長 浅沼修五	東京都三宅島三宅村大字阿古
東京都式根島中学校生徒会	東京都式根島
狛江市職員互助会	東京都狛江市和泉1585
太田区婦人団体連絡協議会子 代表常任理事 鑄木寛子	東京都大田区大森北5～5～1
全 代表常任理事 鈴木千恵子	東京都大田区北嶺町15～16
全 代表常任理事 金子輝子	東京都大田区西蒲田4～15～11
松島賢治	東京都品川区北品川5～13～21
カリタス・ジャパン	東京都千代田区六番町10～1
全通東京日通支部中野分会 武山聡	東京都中野区弥生町1～22～15
ビルメンテナンス土屋工業(株)	東京都港区芝西久保広町29番地
中山製菓従業員一同	東京都渋谷区笹塚3～43～11
代表 中山邦也	全 上 中山製菓(有)
青ヶ島村長 奥山治	東京都八丈島青ヶ島村
青ヶ島村民役場同 青ヶ島村民一	全 上
伊豆七島観光連盟六 会長小田原与	東京都港区海岸1～4～7 島嶼会館内
社団法人東京都自動車整備振興会	東京都品川区北品川1～20～8
長野県知事	長野県長野市大字南長野字幅下692～2
雨宮敏雄	東京都足立区江北3～7～12 恵荘2号
青ヶ島村議会議長	東京都八丈島青ヶ島村
羽西多摩郡町村役場同 西多摩郡町村職員一	東京都西多摩郡羽村町羽2828番地
西多摩郡町村会一 会長並木周	全 上
羽村町	全 上 西多摩郡町村会内

氏 名	住 所
瑞 穂 町	東京都西多摩郡羽村町羽 2 8 2 8 番地 西多摩郡町村会内
五 日 市 町	全 上
日 の 出 町	全 上
檜 原 町	全 上
奥 多 摩 町	全 上
全 国 花 見 煎 餅 吾 妻 屋 連 盟 会 長 小 宮 淳 宏	千葉県船橋市西船 4 ~ 2 3 ~ 6 持丸徳行様方
永 井 (株) 社 員 有 志 一 同	東京都中央区築地 5 ~ 2 ~ 1 中央卸売市場内 <small>東海汽船 永井扱所</small>
白 坂 藩	東京都小金井市貫井北町 3 ~ 3 ~ 3 4 ~ 2 6
東 北 学 院 大 学 釣 友 会 一 同	宮城県仙台市土樋 1 ~ 3 ~ 1
(株)奥山商店取締役社長 奥 山 喬 一	東京都中央区八丁堀 1 ~ 1 1 ~ 5 オクヤマビル
静 岡 県 知 事	静岡県静岡市追手町 9 ~ 6
高 知 県 知 事	高知県高知市丸の内 1 ~ 2 ~ 2 0
東京都漁港協会会長 多 田 稔	東京都港区芝 1 ~ 1 0 ~ 1 2 漁連内
読 売 タ イ ー ス ク ラ ブ	東京都港区赤坂 7 ~ 5 ~ 3 4 リキアパトメント 203号
仔 羊 幼 稚 園	愛知県豊橋市岩田町影岩 7 ~ 4
福 岡 県 知 事	福岡県福岡市中央区天神 1 ~ 1 ~ 1
全日本空輸(株)社長 若 狭 得 治	東京都千代田区霞ヶ関 3 ~ 2 ~ 5
小 屋 光 世	静岡県榛原町細江 9 1 6
協 栄 溶 剤 (株) 社 員 一 同	埼玉県八潮市木曾根 1 2 5 3
大 宮 中 学 校 生 徒 会	千葉県千葉市大宮町 2 0 7 7
船 橋 市 立 三 田 中 学 校 生 徒 会	千葉県船橋市田喜野井町 1 6 4 ~ 1
三 和 小 学 校 1 ~ 2 組 一 同	福岡県大牟田市新町
グ ラ ン ド ロ ッ ジ オ ブ ジ ャ パ ン	東京都港区芝公園 4 ~ 1 ~ 3 マソニックビル内
大島屋 取締役社長 釜 口 昌 人	東京都目黒区自由ヶ丘 2 ~ 1 2 ~ 1 8

氏 名	住 所
佐 野 俊 雄	東京都文京区千石4～32～8
玉 置 信 子	東京都文京区千石3～20～6
高 橋 昇	東京都渋谷区神宮前3～38～2 アニモストン(株)
加 藤 栄 太 郎	東京都渋谷区千駄谷2～29～8
東京都職員労働組合経済支部	東京都千代田区丸の内3～8～1
宗 教 法 人 世 界 救 世 教	静岡県熱海市桃山町26～1
秩 父 市 青 少 年 相 談 員 井 上 善 太 郎	埼玉県秩父市上町2丁目17～38
東 電 労 組 北 電 力 所 支 部 執 行 委 員 長 西 村 寿 紀	東京都荒川区東尾久5～31～11
東 京 都 指 定 店 連 絡 協 議 会	東京都中央区銀座3～5～6 松島眼鏡店気付
松 島 眼 鏡 店 中 村 督	全 上
兵 庫 県 知 事	兵庫県神戸市生田区下山手通り
北 海 道 知 事	北海道札幌市中央区北三条西6
セブンスデーアドベンチスト教団	東京都渋谷区神宮前1～11～5
影 山 延 賀	埼玉県浦和市高砂3～15 埼玉県庁管財課
久 保 千 代 子	埼玉県浦和市高砂3～15 埼玉県庁薬務課
尾 田 敏 子	埼玉県浦和市仲町2～5 浦和市役所教育委員会
日 向 好 子	埼玉県本庄市東富田223
落 合 庸 文	埼玉県浦和市上木崎309～3
明 治 学 院 大 学 ベ ル シ バ 食 堂 社 長 大 宮 下 清 子	東京都港区白金台1～2 明治学院大学
安 藤 徹	埼玉県本庄市中央1～8～26 すし屋みさご
大 宮 国 際 ク ッ キ ン グ	埼玉県大宮市吉敷町4～18埼玉ウエストキング 船田周平 様気付
大 野 志 麻 三	東京都板橋区大谷口1～7～9
産経新聞立川武蔵野支局(寄託金)	東京都立川市柴崎町2～9～26
水元青年の家若者交流集会実行委員会	東京都葛飾区水元小合町2860

氏 名	住 所
港区立神明小学校児童会	東京都港区新橋3～25～13
早稲田中・高等学校生徒会	東京都新宿区馬場下町244
社団法人日本パーテナー協会秋田支部	秋田県秋田市大町5～1～17 (株)第一会館内
財団法人読売光と愛の事業団(寄託金)	東京都千代田区大手町1～7～1
江戸川区小岩5北町会 会長 中川儀郎 会員一同	東京都江戸川区北小岩5～34～10
池田直造	神奈川県大和市上草柳211～7
寺沢享	東京都江東区平野4～6～16
平野初	東京都国分寺市南町3～1～11
上松金一郎	東京都世田谷区代田3～25～15
筑波良一	埼玉県上福岡市北野1～19～17
寺沢政司	千葉県千葉市幕張町4～22～6
田中実男	神奈川県横浜市神奈川区高島台2
森久男	東京都台東区竜泉1～19～6
寺沢立夫	埼玉県所沢市桃谷上号876～44
池田良平	東京都杉並区上井草3～13～24
坂田三郎	東京都足立区伊興本町3751～10
浅沼栄一	東京都杉並区和田3～13～13
田中平一	東京都世田谷区給田5～7～9 新和荘3号室内
池田勝男	東京都杉並区浜田山4～31～19
佐久間隆明	東京都渋谷区東2～22～11
加藤光久	東京都板橋区徳丸2～11～11
伊ヶ谷会	東京都板橋区徳丸2～11～11 黒潮郷友連合会気付
野坂六美	東京都足立区綾瀬4～2414
妙法寺住職 小林教明	東京都杉並区堀の内3～48～8

氏 名	住 所
宮 田 龍 良	神奈川県川崎市中原区井田 1 2 6 2
佐 久 間 宗 一	東京都練馬区中村南 3 ~ 2 ~ 1 9
宮 沢 佐 智 男	神奈川県横浜市中区本牧三之谷 1 0 ~ 4
沖 山 宣 生	神奈川県横浜市中区豆口台 1 3
宮 下 敢 為	東京都杉並区永福 3 ~ 2 0 ~ 1 1
山 本 喜 久 治	神奈川県大和市鶴間 1 ~ 1 3 ~ 4
佐々木 登	東京都千代田区岩本町 2 ~ 3 ~ 3
佐々木 省 三	東京都練馬区富士見台 2 ~ 4 0 ~ 1 5
広 江 貞 一	東京都渋谷区千駄谷 1 ~ 2 3
山 尾 喜 三 郎	東京都武蔵村山市中藤 7 0
広 江 栄 一 郎	東京都中野区上高田 4 ~ 2 4 ~ 5 1
西 村 利 勝	東京都中央区入舟 2 ~ 2 ~ 6
前 田 正 昭	神奈川県川崎市幸区小倉 5 3 2
前 田 俊 一	東京都世田谷区上馬 5 ~ 2 3 ~ 8
梅 田 政 雄	東京都大田区蒲田本町 2 ~ 9 ~ 5
梅 田 富 久 男	東京都江東区門前仲町 2 ~ 1 1 ~ 4
八代 丈 者 島 奥 郷 山 友 善 会 雄	東京都豊島区南長崎 3 ~ 1 0 ~ 1 9
御代 表 者 藏 広 瀬 島 隆 会 吉	東京都杉並区高円寺南 2 ~ 7 ~ 2
式代 表 者 島 前 郷 田 友 英 会 和	東京都新宿区西五軒町 5 2
神 津 山 島 内 為 会 義	神奈川県横浜市西区平沼 1 ~ 5 ~ 1 5
八王子市長 後 藤 聡 一	東京都八王子市本町 2 4 番 1 号
立川市長 岸 中 土 良	東京都立川市錦町 3 ~ 2 ~ 2 6 号
武蔵野市長 後 藤 喜 八 郎	東京都武蔵野市中町 3 ~ 9 ~ 1 1 号
三鷹市長 坂 本 貞 雄	東京都三鷹市野崎 3 番 1 号

氏 名	住 所
青 梅 市 長 石 川 要 三	東京都青梅市東青梅1～11～1
府 中 市 長 矢 部 隆 治	東京都府中市宮西町2～24
昭 島 市 長 新 藤 元 義	東京都昭島市昭和町4～7～21号
調 布 市 長 本 多 嘉 一 郎	東京都調布市小島町2～35～1
町 田 市 長 大 下 勝 正	東京都町田市中町1～20～23号
小 金 井 市 長 永 利 友 喜	東京都小金井市本町6～6～3号
小 平 市 長 大 島 宇 一	東京都小平市小川町2～1325
日 野 市 長 森 田 喜 美 男	東京都日野市大字日野2900
東 村 山 市 長 熊 本 令 次	東京都東村山市本町1～2～3
国 分 寺 市 長 塩 谷 信 雄	東京都国分寺市戸倉1～6～1
国 立 市 長 石 塚 一 男	東京都国立市富士見台2～48
田 無 市 長 木 部 正 雄	東京都田無市本町3～8～9
保 谷 市 長 内 藤 利 紀	東京都保谷市中町1～5～1
福 生 市 長 石 川 常 太 郎	東京都福生市本町5
狛 江 市 長 吉 岡 金 四 郎	東京都狛江市和泉1585
東 大 和 市 長 尾 崎 清 太 郎	東京都東大和市大字奈良橋600
清 瀬 市 長 洪 谷 邦 藏	東京都清瀬市中里5～842
東 久 留 米 市 長 石 塚 政 寿	東京都東久留米市中央町6～1～1
武 蔵 村 山 市 長 荒 田 重 之	東京都武蔵村山市大字中藤4305
多 摩 市 長 富 沢 政 肇	東京都多摩市貝取1724
稲 城 市 長 森 直 兄	東京都稲城市百村7
秋 川 市 長 近 藤 秀 雄	東京都秋川市二宮350
天理教東京教区長 宮 内 満 磨	東京都豊島区駒込7～1～4 天理教東京教務支庁
東 京 杉 並 東 ライオンズ クラブ 会 長 西 尾 慎 ラブ 三	東京都杉並区本天沼2～28～21

氏 名	住 所
金 川 昇	神奈川県足柄下郡真鶴町魚市場通り
沖 山 栄	東京都墨田区墨田4～61～13
速 瀬 義 孝	愛媛県伊予市下吾川浜田1462
東京都稲城市議会議長 稲城市立病院会 稲城市盛次	東京都稲城市百村7
稲城市立病院義徳	東京都稲城市大丸1171番地
八光電機製作所野球部一同	長野県埴科郡戸倉町磯部
進 藤 力	東京都板橋区舟渡4～7～3 戸田橋荘B-507
東京都土地改良団体連合会	東京都千代田区丸の内3～8番東3号館5F
東京都地籍調査推進協議会	東京都千代田区丸の内3～8～1
林 省 子	静岡県三島市長伏57 (NHK社会部経由)
神津高校教職員一同	東京都神津島神津島村
栃 木 県 知 事	栃木県宇都宮市塙田町504
山 口 県 知 事	山口県山口市滝町1～1
東京いすゞ自動車(株) 代表取締役社長 大橋英男	東京都千代田区永田町2～4～12
日本生命保険相互会社平塚支社	神奈川県平塚市明石町25番10号
東京都財務局経理部検収課 堀	東京都千代田区丸の内3～5～1
野々上 紋 平	大阪府大阪市西淀川区姫島6丁目8～20
松中団地婦人部代表 寺本フジ江	東京都立川市砂川町1866～2 松中団地2～204
小 笠 原 小 学 校	東京都小笠原村父島宇宮之浜道
東京都豊島区立仰高小学校長 白井辰雄	東京都豊島区駒込5～1～19
小 笠 原 総 合 事 務 所	東京都小笠原村
東京都教職員組合小笠原支部	全 上
天沼中学校生徒会一同	東京都杉並区本天沼3～10～20

氏 名	住 所
花柳秀拓 秀拓会	東京都三宅島坪田
伊豆七島物産あしたば本舗	東京都豊島区南大塚3～6～6
みちのく民謡連盟 浜田喜扶滋理事長	東京都墨田区石原1～9～6
柏 三 郎	東京都立川市砂川町4 2 3～5 2
浅 沼 栄 進	東京都小金井市本町2～1 0～2 0
今 関 孝 康	神奈川県川崎市川崎区宮本町8～1 6
沖 山 治 信	東京都三鷹市上連雀9～4～1 1
奥 山 隼 人	栃木県安蘇郡葛生町中央東1～1 2～1 6
奥 山 直 道	東京都港区芝浦3～1 1～6 (株)和平堂
あしたば 神 賀 令 子	東京都三鷹市下連雀2 1 3
浅 沼 卓 身	東京都杉並区高円寺北3～1 0～1
浅 沼 一 雪	東京都台東区台東4～2 9～1 4
沖 山 尚 義	東京都中野区南台4～2 9～8
大 沢 三 郎	東京都大田区大森西2～1 8～1 3
菊 池 定	東京都江東区牡丹1～1 4～4
村 口 一 雄	東京都文京区向ヶ丘1～3～1 宇都部様方
沖 山 浩	東京都中野区中央1～2 5～2
沖 山 啓 太 郎	東京都大田区千鳥1～1 6～1 4
菊 池 文 一 郎	東京都中野区江古田1～2 7～1 0
佐々木 敦 夫	千葉県旭市口の1 3 3 7
沖 山 光	東京都世田谷区等々力5～1 5～1 6
沖 山 かつ子	全 上
浅 沼 澄 次	東京都中央区銀座6～8～7 交詢ビル604号
浅 沼 美智雄	東京都中野区中野1～4 1～4 7

氏 名	住 所
浅 沼 松 行	東京都目黒区本町 5～7～5
小 沢 一 美	東京都三鷹市深大寺 3 7 7 6
冲 山 純 夫	東京都三鷹市牟礼 4～1 4～1 1
冲 山 泰 彦	東京都新宿区百人町 2～2 7～3
冲 山 幹 夫	埼玉県越谷市大林 2 6 8
冲 山 規 矩 太	東京都大田区東雪谷 3～1 1～5
冲 山 利 道	東京都練馬区氷川台 4～4 7～2 2
奥 山 四 郎	千葉県船橋市飯山満町 3～1 5 2 1
菊 池 輝 雄	東京都新宿区西新宿 1～1 3～6
菊 池 秀 仁	千葉県船橋市習志野台 2～2 7～2 4
佐々木 富 美 男	東京都中央区日本橋蛸殻町 4～4
佐々木 通 弘	東京都杉並区西荻北 3～30～9 和合マンション 2F
佐々木 清 光	千葉県市川市曾谷 5～9～1 3
佐 藤 洋 善	東京都練馬区西大泉 1 4 3 0
笹 本 功	東京都世田谷区桜 1～2 4～1 2
白 石 祐 一	栃木県宇都宮市今泉町 2 7 6 0
西 浜 二 男	東京都目黒区下目黒 2～2 3～1 2
浜 谷 杉 雄	東京都葛飾区東金町 1～3 6～1～1 0 2 7
藤 卷 伴 英	東京都新宿区戸塚 3～3 0 6
浅 沼 定 則	東京都中野区若宮 3～2 5～9
浅 沼 格	東京都小平市上水本町 1 3 0 3～2 0
冲 山 立 身	東京都中野区野方 2～3 8～1 1
冲 山 茂 光	東京都大田区西六郷 4～2 4～1 0
奥 山 達 次 郎	東京都千代田区外神田 1～1 8～2 2

氏名	住所
奥山 ふきか	東京都目黒区自由ヶ丘1～22～7
大沢 久信	東京都杉並区梅里2～1～17
小沢 民雄	東京都立川市砂川町1307
小野沢 松一	神奈川県津久井郡津久井町大井123～1
金川 寅彦	東京都練馬区田柄3～18～4
菊池 義郎	東京都大田区南千束3～14～19
菊池 半三郎	千葉県東葛飾郡鎌ヶ谷市鎌ヶ谷517～67
栗原 明子	東京都墨田区亀沢町3～25～5
小林 みの	東京都江戸川区北小岩7～18～2
西井 芳太郎	東京都港区芝大門1～2～22 島の新聞社
槇野 重幸	東京都町田市成瀬3707～11
山口 邦章	東京都江戸川区西瑞江3～10
弘報社々員一同	東京都千代田区神田神保町1～34(毎日新聞社広告代理店)
磯崎 乙彦	東京都杉並区和泉2～13～13
奥山 功	神奈川県横浜市緑区長津田町3016～1～6～621
佐伯 鉄也	東京都日野市日野2808
笹本 弥太郎	東京都中野区野方6～35～17
浅沼 千代春	東京都葛飾区高砂3～10～5
伊勢崎 貞治	茨城県猿島郡総和町葛生2612～1
魚取 良平	東京都八王子市元横山町3～5～18
沖山 多け乃	東京都世田谷区若林2～1～9
松野 まき子	千葉県印旛郡富里村町料927
沖山 東一郎	東京都目黒区目黒本町6～19～26
沖山 重信	東京都練馬区早宮1～29～7

氏 名	住 所
奥 山 虎 男	東京都日野市百草団地 2～6 4～1 0 3
関東東急フレックスホーム(株)	神奈川県川崎市川崎区渡田 1～1 6～2
渋谷区役所職員一同	東京都渋谷区宇田川町 1 番 1 号
(株)菊池工業所 菊 池 巖	神奈川県川崎市桜本町 2～3 2
敦賀レオクラブ 篠 原 京 幹 事	福井県敦賀市清水町 2～1 0～1 4
星 富 雄	山形県山形市長町 7 2 0～1 0
全通東京日通支部工場分会	東京都千代田区三崎町 3～3～1 0
羽村町議長 渡 辺 時 三 他 議 員 一 同	東京都西多摩郡羽村町 2 8 2 8 羽村町役場
瑞穂町議長 石 川 正 治 他 議 員 一 同	東京都西多摩郡瑞穂町大字箱根ヶ崎 2335 瑞穂役場
日の出町議長 宮 林 宗 一 他 議 員 一 同	東京都西多摩郡日の出町大字大久野 2208 日の出町役場
五日市町議長 玉ノ井 広 義 他 議 員 一 同	東京都西多摩郡五日市町五日市 411 五日市町役場
檜原村議長 峰 岸 喜 一 他 議 員 一 同	東京都西多摩郡檜原村 4 8 9 檜原町役場
奥多摩町議長 原 島 重 朗 他 議 員 一 同	東京都西多摩郡奥多摩町永川 1 7 1 奥多摩町役場
松 井 薬 品 商 会	東京都大田区田園調布 5～5 6～1
大島南高校 岡 田 恭 一	東京都大島町差木地下原
大島町商工会 青 年 部 代 表 原 田 国 男	東京都大島町元町 4～1～1 4
元町青年会 植 松 豊	全 上 4～10 ジャパンスポーツ内
北の山青年会 北 原 七 男	東京都大島町元町字野地
岡田青年会 藤 井 重 光	全 上 1～1～14 大島町役場内
泉津婦人会 有 志 坂 下 弥 生	東京都大島町泉津 1 5
野増青年会 山 田 修 作	東京都大島町元町 1～1～1 4 大島町役場内
間伏青年会 山 田 修 作	全 上
差木地青年会 寺 本 雄 三	全 上
クグッチ青年会 藤 沢 一 夫	東京都大島町差木地字クグッチ

氏 名	住 所
波浮港青年会 平 博 美	東京都大島町波浮港 1 1
元 町 小 学 校	全 上 元町家ノ上
北 ノ 山 小 学 校	全 上 元町左吾エ門野地
岡 田 小 学 校	全 上 岡田長坂 1 1 3
泉 津 小 学 校	全 上 泉津 2 0 5
野 増 小 学 校	全 上 野増大宮
差 木 地 小 学 校	全 上 差木地
波 浮 港 小 学 校	全 上 波浮港山口
大 島 第 一 中 学 校	全 上 元町小清水
大 島 第 二 中 学 校	全 上 泉津不重
大 島 第 三 中 学 校	全 上 差木地沖ノ根
大 島 第 五 中 学 校	全 上 岡田長坂 1 1 3
大 島 町 消 防 団	東京都大島町元町 1 ~ 1 大島町役場
大 島 町 役 場 職 員 一 同	全 上
菊 池 義 浩	東京都杉並区上井草 1 ~ 2 7 ~ 7
関 勝 美	東京都立川市高松町 1 ~ 8 ~ 1 4
中 央 区 長	東京都中央区築地 1 ~ 1 ~ 1
片 山 龍 二 「おはよう片山龍二」	東京都港区赤坂 東京放送ラジオ製作
岡 山 県 知 事	岡山県岡山市内山下 2 ~ 4 ~ 6
岐 阜 県 知 事	岐阜県岐阜市藪田
永 井 勝 雄	1073 SO NORTON AVE LOSANGELS CHLIF 90019
しずく会会長 木 部 文 子	東京都田無市南町 2 ~ 1 1 ~ 1 0
イルドトウキョウ 支配人 醍 醐 行 雄 職 員 一 同	東京都港区海岸 1 ~ 4 ~ 7 島嶼会館内
代 表 者 当 馬 竹 治 郎	東京都大島町元町 4 ~ 1 ~ 1 大島飲食店元友会

氏 名	住 所
福 原 健 造	埼玉県春日部市大場下谷中 3 8 5
柳 沢 利 子	東京都江戸川区西一之江 1 ~ 1 0 8 3
青少年相談員 池 田 悦 夫	埼玉県入間郡坂戸町大字赤尾 1 4 0 4
中央観光社長 小 峯 儀 三 郎	埼玉県上福岡市上神岡 2 ~ 6 ~ 1 0
花見川第一小学校 P T A 一 同	千葉県千葉市花見川 4 ~ 1
高 橋 五 郎	埼玉県岩槻市宮町 2 ~ 9 ~ 1 8
平 石 敏	東京都板橋区加賀 2 ~ 1 4 ~ 9
真 野 徑 太	埼玉県蕨市錦町 2 ~ 1 ~ 2 9
小 川 四 郎	全 上
豊 田 多	東京都北区赤羽南 2 ~ 2 3 ~ 2 4 稲田小学校内
中 山 幸 一	東京都東久留米市幸町 5 ~ 6 ~ 5
桜 井 千 栄 子	埼玉県南埼玉郡白岡町小久喜 1 4 7 5 ~ 5
武 笠 え い 子	群馬県藤岡市藤岡 1 0 0 3
荒 井 き よ	東京都北区赤羽西 4 ~ 2 ~ 3
古 沢 薫	東京都豊島区駒込 1 ~ 4 1 ~ 1 0
浅 見 喜 代 子	埼玉県川口市上青木町 5 ~ 8 1 5
大 木 都 子	埼玉県大宮市上小町 3 8 2
佐 藤 敦 子	東京都北区上十条 1 ~ 2 8 ~ 1 1 保刈荘内
津 端 敦 子	埼玉県川口市本町 2 ~ 3 ~ 1 3
大 竹 幸 子	埼玉県浦和市元町 1 ~ 1 5 ~ 9
浜 野 肇	埼玉県上尾市小越谷 8 4 5 ~ 1 1 ~ 3 ~ 3 0 6
野 村 泰 夫	埼玉県北本市下石戸下 7 0 3 - 3
安 西 敦 子	東京都北区東十条 1 ~ 1 ~ 1 4
八 丈 島 警 察 署 署 員 一 同	東京都八丈島八丈町大字三根

氏 名	住 所
繁 井 武 代	東京都板橋区高島平 3～10～16～306
(株) 藤 田 工 業	神奈川県川崎市中原区木月住吉町 1887
十 重 田 直 子	東京都中央区勝下キ 4～5～16
藤 浪 陽 子	東京都中野区新井 5～7～4 水沢方
室 井 理 恵	東京都西多摩郡羽村町羽羽2722 毎日新聞経由
日 赤 群 馬 県 支 部	群馬県前橋市大手町 1～1～1
東京都主税局徴収部・課税部 職員一同	東京都千代田区丸の内 3～5～1
浅 見 ハ ツ	東京都練馬区練馬 1～57 (日赤練馬地区経由)
篠 原 昭 光	神奈川県横浜市西区西戸部 2～202
大 森 二 丁 目 西 町 会 婦 人 部	東京都大田区大森西 1～8～8 (日赤大田地区経由)
区 立 全 竜 小 学 校 J R C	東京都台東区西浅草 3～25～15
都立第三商業高校定時制 2年1組	東京都江東区越中島 3～3～1
奥 山 軍 兵 衛	群馬県太田市下小林 256
島 田 潔 子	東京都江戸川区南小岩 7～33～16
広 瀬 武 夫	茨城県土浦市小松 748～4
ボーイスクアウト 神奈川連盟 コミッショナー	神奈川県大和市つきみ野 3～29～12
全 日 本 磯 釣 連 盟	東京都千代田区鍛冶町 1～8～2 スズトミビル7F
神 奈 川 県 知 事	神奈川県横浜市中区日本大通 1番地
埼玉県青年洋上大学有志一同	埼玉県浦和市高砂 3丁目 15番 1号 (埼玉県庁内)
安 方 中 学 校 生 徒 一 同	東京都大田区東矢口 2～1～1
新宿区立牛込第一中学校 生徒会一同	東京都新宿区北山伏町 38
国分寺市立第二小学校 P T A 会 長 吉 村 智 恵	東京都国分寺市光町 3～1～1
東京向島ロータリークラブ	東京都墨田区江東橋 4～24～8 SKビル5F
浅 野 三 義	千葉県市川市東菅野 1～13～3

氏 名	住 所
「点字あゆみの会」有志 酒井 栄 蔵	東京都中野区新井 5～21～4
青梅市立第三中学校生徒会一同	東京都青梅市大門 301番地
練馬区立田柄中学校 生徒会担当 白 土 須美子	東京都練馬区田柄 3～3～1
広島市立牛田小学校 児童会代表 澄 川 よし彦	広島県広島市牛田旭町
岡崎市立六ツ美北小学校児童会	愛知県岡崎市土井町
町田市立鶴川第二中学校生徒会	東京都町田市鶴川 6～4
港区立三河台中学校生徒一同 代 表 菊 池 嘉七美	東京都港区六本木 4丁目7番11号
神奈川県美術家協会 委員 長 松 田 ヨシオ	神奈川県横浜市港南区笹下町 4713
江 口 松 寿	神奈川県横浜市中区福富町西通 35 旅荘大同閣
富士コカコーラボトリング 横浜工場製造課	神奈川県横浜市戸塚区平戸町 128
川崎市水道局配水管理課一同	福奈川県川崎市川崎区宮本町 1番地
菊 池 ツルエ	神奈川県横浜市金沢区平湯町 5～14
都立三宅高校 1年2組 代 表 神 方 年 紀 組 明	東京都三宅島三宅村坪田
中 田 良 一	東京都品川区南品川 4～2～12
神津島会長 山 内 為 義	神奈川県横浜市西区平沼 1～5～15
松 岡 繁 雄	岡山県久米郡久米南町南庄 512
輝 本 康 広	東京都八王子市長房町 1901
はまゆう保育園母の会 会 長 清水 美智子	東京都神津島村 10
日野第一小学校 校 長 溝 呂 木 桂 次 他	東京都日野市日野 2800
後 藤 長 一	東京都杉並区荻窪 1～45～20
板橋区立中台中学校	東京都板橋区中台 1～56～23
日 赤 茨 城 県 支 部	茨城県水戸市千波町字後川 745
日 赤 愛 知 県 支 部	愛知県名古屋市中区三の丸 3～2～2
葛飾区立桜道中学校	東京都葛飾区柴又 4～3～1

氏 名	住 所
日 赤 千 葉 県 支 部	千葉県千葉市千葉港4～1
日 赤 三 重 県 支 部	三重県津市栄町1～171
野 口 信 洋	東京都武蔵野市中町3～24～15 守木荘
日 赤 埼 玉 県 支 部	埼玉県浦和市仲町3～5～2
日 赤 東 京 都 支 部 調 布 地 区	東京都調布市小島町350 (調布市役所内)
日 赤 和 歌 山 県 支 部	和歌山県和歌山市小松原通1～1 県庁内
全 法 務 労 働 組 合 東 京 支 部 支 部 長 寺 田 竜 也	東京都千代田区大手町1～3～3 大手町合同庁舎 第3号 館内
理 事 長 長 戸 路 政 司	千葉県千葉市穴川1～5～21号 学校法人千葉敬愛学園
青 年 洋 上 大 学 有 志	埼玉県浦和高砂3～15～1号 埼玉県生活福祉部青少年課
日 赤 兵 庫 県 支 部	兵庫県神戸市生田区下山手通5～17～1
調 布 第 三 中 学 校 生 徒 会	東京都調布市染地3～2～7
中 央 第 四 中 学 校 J R C	東京都中央区東日本橋1～10～1
向 丘 高 等 学 校 J R C	東京都文京区向丘2～11～18
日 赤 大 阪 府 支 部	大阪府大阪市東区大手前元町1
昭 島 市 役 所 内 日 赤 昭 島 地 区	東京都昭島市昭和町4～7～21
武 谷 病 院 有 志 一 同	東京都清瀬市元町2～22 (毎日新聞経由)
国 分 寺 第 二 中 学 校 生 徒 会 J R C	東京都国分寺市本多1～2～17
東 京 電 力 労 働 組 合 五 井 火 力 支 部 青 年 部	千葉県千葉市五井海岸1 (毎日新聞経由)
木 村 甫	埼玉県三郷市彦成3～11～5～106
小 平 高 等 学 校 J R C	東京都小平市仲町112
は こ ぶ ね 幼 稚 園	東京都大田区久ヶ原6～27～8
石 上 キ ミ	大阪府大阪市北区茶屋町18 (毎日新聞経由)
調 布 第 二 小 学 校 J R C	東京都調布市国領4～19～1
日 赤 岐 阜 県 支 部	岐阜県岐阜市茜部中島2～9

氏 名	住 所
青 梅 第 八 小 学 校 J R C	東京都青梅市成木3～4 2 3～1
日 赤 東 京 都 支 部 港 区 地 区	東京都港区芝公園1～5～2 5
月 川 み ち	埼玉県浦和市木太3～3 3～9
安 田 学 園 学 友 会	東京都墨田区横網2～2～2 5
東京ガス世田谷通サービス店従業員一同	東京都世田谷区世田谷1～1 4～1 9
ダスキンミサト工場すずらん K13S ホープス	埼玉県三郷市上彦川戸4 4
毎 日 新 聞 大 阪 社 会 事 業 団	大阪府大阪市北区堂島2～3 6
吉 祥 女 子 高 等 学 校 J R C	東京都武蔵野市吉祥寺東町4～1 2～2 0
日 赤 静 岡 県 支 部	神奈川県静岡市追手町4 4～5
日 本 赤 十 字 社 (本 社)	東京都港区芝5～2 9～1 2
江 戸 川 区 役 所 内 日 赤 江 戸 川 地 区	東京都江戸川区中央1～4～1
日 赤 神 奈 川 県 支 部	神奈川県横浜市中区山下町7 0～7
日 赤 青 森 県 支 部	青森県青森市新町2～4～2 5
黒 川 中 学 校 生 徒 会	佐賀県伊万里市黒川町
荒 川 区 立 第 一 中 学 校	東京都荒川区荒川1～3 0～1
村長職務執行者 佐々木 鉄 弥	東京都小笠原島父島
村政審議会会長 山 崎 貞 夫	全 上
小 笠 原 村 民 有 志 一 同	全 上
小 笠 原 村 大 神 山 神 社	全 上
西 井 才 次	東京都大島町差木地上ノ山
浮 田 強	大阪府大阪市鶴見区今津北4丁目8～3 8
浮 田 道 照	神奈川県高座郡綾瀬町吉岡1 8 2 4～1 4 4
飛 鳥 中 学 校 生 徒 会	東京都北区西ヶ原3～5～1 2

氏 名	住 所
新宿大通商店街振興組合 理事長 梅田 静一	東京都新宿区新宿 2-11-6
横山 譲二	東京都調布市深大寺町 1 2 1 5
日本放送朝はおまかせアンコーです係部 日本放送制作部	東京都千代田区有楽町
東京都農業委員同 東京都農業会議役員一	
東京都農業会議	東京都渋谷区代々木 2-10-12 南新宿ビル
忠生第六小学校児童会	東京都町田市山崎町 1 3 4 0 番地
東京都労働組合連合会	東京都千代田区丸の内 3-6-2
鹿島田 由行	東京都府中市本町 1-11-5
都教職員組合執行委員長 増田 孝雄	東京都豊島区南長崎 2-13-6 山手ハイツ内
都教職員組合八丈支部支部長 川瀬 和雄	東京都八丈島八丈町大字三根
都公立小学校長会長	東京都港区芝西久保桜川町 2 6 東京都公立小学校長会事務局
都公立中学校長会長	東京都品川区東五反田 5-21-13 新池田山 M307 東京都公立中学校長会事務局
都僻地教研協議会長	西多摩郡奥多摩町永川 171 奥多摩町教育委員会気付
中山 繁	東京都千代田区神田三崎町 2-8-6
沖山 俊雄	千葉県柏市増尾 2 0 7 8-3 9
第一 旗 工	東京都千代田区岩本町 1-2-6 宮本ビル 1 F
タケウチシズ	
東秩父村高野 勉	
東秩父村相談員 関 根 功	
幸手町洋上大学参加者一同 代表 金子	
大富オートレンタカー	
羽田	
東山 晴 利	
財団法人日本公衆電話会	
大内 啓 伍	東京都大田区大森北 1 丁目 23 番 8 号 第三下川ビルデ ィング 2 0 1 号室

氏 名	住 所
創価学会東京第4本部法華経本部	
古 川 良 馨	東京都板橋区大谷口上町81～6
松 岡 ひろ子	東京都北区豊島7～8～10～402号
林 美 恵 子	埼玉県浦和市下木崎406～2
ほか匿名の方2名	

義援品をお寄せ頂いた方々

(敬称略順不同)

氏 名	住 所
東 京 都	東京都千代田区丸の内3～5～1
日 本 赤 十 字 社 東 京 都 支 部	全 上
東京電力株式会社 社長 水野久男	東京都千代田区内幸町1～1～3
宇 都 宮 徳 馬	東京都品川区東五反田3～16～1
日本専売公社 関東支社長 水谷保和	東京都渋谷区南平台町5番の1号
東京航空局 八丈島空港出張所	東京都八丈島八丈町大字大賀郷
松下電気産業株式会社	東京都港区芝4～8～2

氏 名	住 所
ヤンマージーゼル株式会社東京支店	東京都千代田区丸の内1-11-1号
山 田 昇	東京都八丈島八丈町大字大賀郷
東京ココラボトリングKK港営業所	東京都港区芝浦2-15-6
東 京 都 学 校 給 食 会	東京都港区新橋3-16-3
東 海 汽 船 株 式 会 社	東京都中央区銀座西8丁目10番地先
荻 原 誉	埼玉県北本市山中185の1 新明和商事
ミサワホームエンジニアリングKK	東京都港区赤坂2丁目4番5号
N H K 東 京 営 業 局 立 川 営 業 所	東京都立川市曙町2-6-1 立川中央ビル内
東山釣具センター 長 井 秀 多	愛知県名古屋千種区東山通り2-26
サ ン ヨ ー 食 品 株 式 会 社	群馬県前橋市西片貝町薬師327番地
東 洋 水 産 株 式 会 社	東京都港区港南2-13-40
八 丈 島 電 設 セ ン タ ー	東京都八丈島八丈町大字三根
ちくま味噌販売株式会社	東京都江東区福住2-4-3
奥 山 次 男	東京都八丈島八丈町大字三根
大 塚 製 薬 K K	東京都中央区晴見
キ ッ コ ー マ ン 東 京 支 店	東京都中央区小網町3-11
マ ル マ 運 輸 株 式 会 社	東京都港区東新橋2-8-4
東 京 新 日 本 薬 品 株 式 会 社	東京都中央区八丁堀3-28-10
エ ー ス コ ッ ク 株 式 会 社 東 京 支 店	埼玉県川越市今福461番地
ミ ツ カ ン ス 東 京 支 店	東京都新宿区中落合1-2-18
菊 屋 商 店	東京都八丈島八丈町大字大賀郷
豊 年 製 油 株 式 会 社	東京都千代田区大手町1-2-3号 三井生命ビル
宝 酒 造 株 式 会 社	東京都中央区日本橋2丁目15-10
プロクターアンドギャンブルサンホーム	東京都文京区本郷2丁目10番 富士ビル

氏 名	住 所
キッコーマンショーユ株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1丁目3番地
吉 村 啓	大阪府堺市寺地町東1-1-20
東 京 新 聞 社	東京都港区港南2丁目3-13
埼 玉 県 ボ ラ ン テ ィ ア 団 体	埼玉県浦和市高砂3丁目15番1号 埼玉県庁気付
中央労災東京支所 所長 大 森 実	東京都新宿区西新宿7-20-8
川 崎 孝	東京都目黒区青葉台3-8-8
資 生 堂 刷 子 工 業 株 式 会 社	大阪府大阪市東成区東小橋2-11-10
亜 細 亜 興 業 株 式 会 社	東京都千代田区内神田2-1-14 東長崎興業ビル
田 島 ル ー フ ィ ン グ 株 式 会 社	東京都足立区小台1-3-1
海 老 原 コ ト	東京都葛飾区東金町1-17-11
七 島 信 用 組 合	東京都八丈島八丈町大字大賀郷
榎 本 武 司	東京都渋谷区本町5-43-4
日 本 赤 十 字 社 群 馬 県 支 部	群馬県前橋市大手町1-1-1
石 原 慎 太 郎 事 務 所	東京都大田区山王1-31-13
真宗大谷派宗務所 宗務総長 嶺 藤 亮	京都府京都市下京区烏丸七条上ル
松 田 博 子	東京都渋谷区渋谷1-19-15-1206
カネホー食品東京販売株式会社	東京都板橋区板橋2-1-1
K K 教 宣 文 化 社	東京都渋谷区千駄谷5-15-7
小 松 と く	神奈川県横浜市鶴見区下末吉6-25-16 旭月荘
財 団 法 人 ケ ネ デ ィ 記 念 熊沢育英会理事長 熊 沢 貞 吉	神奈川県横浜市西区高島2-12-12
外 岡 憲 治	東京都豊島区南大塚2-42-6 信友大塚ビル601
登 喜 和 会 上 野 和 子	東京都渋谷区桜ヶ丘2-3 富士商事ビル
新 島 本 村 立 若 郷 小 学 校	東京都新島本村若郷
取締役社長 相 佐 寿 一	静岡県静岡市曲金3-2-1 理研軽金属工業株式会社

氏 名	住 所
ハウス食品株式会社東京営業所	東京都大田区平和島6-1-1
丸 田 社 長	東京都中央区日本橋茅場町1-1 花王石鹼株式会社
日本建築板金工業株式会社	東京都新宿区西新宿7-10-3 第二両宮ビル
甲 野 善 勇	東京都多摩市蓮光寺279
岡 田 定 治	東京都大田区大森北6丁目14の8
長瀬ゴム工業株式会社	東京都墨田区墨田2丁目35の6
港区立神明小学校児童会	東京都港区新橋3丁目25の13
関東地区本部	東京都台東区橋場2-2-2 宗教法人世界救世教
福知山市役所職員一同	京都府福知山市字内記13番地の1
世田谷区立太子堂中学校生徒会	東京都世田谷区太子堂町3丁目27番17号
日本教図株式会社 取締役社長 登山俊文	東京都台東区東上野4-25-18
積水化学工業株式会社東京第一営業所	東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル
岡 本 芳 子	東京都豊島区駒込2-14-14 青葉荘110
浜松市立竜禅寺小学校3年1組	静岡県浜松市竜禅寺町844
豊島区立仰高小学校 校長 白井辰雄 豊島区立仰高小学校児童会	東京都豊島区駒込5丁目1番19号
ザ・ファッショングループ東京支部	東京都港区六本木3-4-25 メゾン六本木203
ハト印 松井薬品商会	東京都大田区田園調布5-56-1
大妻中学校生徒会 J R C	東京都千代田区3番地12
豊島区立池袋第三小学校 校長 石田 校 岬	東京都豊島区西池袋3丁目14番3号
牛 田 小 学 校	広島県広島市牛田旭町
昭島市立富士見丘小学校児童会	東京都昭島市福島町902
足立区立舎人小学校	東京都足立区舎人町224番地
立川市立第七小学校児童会	立川市錦町5-6-43
自 衛 隊	東京都新宿区市ヶ谷本村町42

姉妹島からも御見舞

台風13号による災害に対し、姉妹島であるハワイ州マウイ島の市長並びにマウイ郡議会から丁重な御見舞状が峯元町長あて、次のとおり寄せられました。

1975年10月8日

八丈町長

峯元清次殿

マウイ市長 エルマー・カバリヨ

謹啓 秋冷の候貴台には益々御健勝にて御活躍のことと存じます。

さて、新聞、ラジオの報道によりますと、台風13号が貴島を直撃し甚大な損害を与えたとのこと、貴台の御心痛は如何ばかりかと推察申し上げます。

幸に死者はなかったとのことですが、全壊家屋、半壊家屋、道路の損壊、電線の切断などで、島民の方々は不自由、困惑の日々をお送りのことと存じ上げます。

八丈町災害対策本部が設置せられ、復旧作業に専念しておられる由拝承しておりますが貴島および東京都の懸命な御努力によって復旧の一日も早からんことを、遥かマウイよりお祈り致しております。

まことに略儀ながら取りあえず書面をもって御見舞の辞に代えさせていただきます。

末筆ながら貴島の町職員各位および島民各位に、よろしく御伝言下さい。

敬具

台風13号災害に対し心からの 御見舞についての決議書

日本気象庁発表によると、台風13号は東京都の南部に位置する姉妹島八丈島を襲い、大きな損害を与えました。

警察庁は、八丈島のほとんど全ての建物が何らかの被害を受けたと報告しております。

台風13号は、八丈島に居住する全ての住民に、不幸な影響を及ぼしました。

このため、マウイ郡議会は次のことを決議しました。

マウイ郡議会は、ここに、峯元八丈町長を通じすべての住民の皆様に対し、心から御見舞申し上げますとともに、大きな災害から速かに復興することを願っております。

そして、この決議書の写しを峯元町長に送付することを、重ねて決議いたします。

1975年10月17日

マウイ郡議長 ラニー・H・モリサキ

八丈町台風及び地震等の災害予防に関する
条例並びに建築物その他工作物等の災害及び
災害拡大の予防計画指導基準（案）

八丈町台風及び地震等の災害予防に関する条例

八丈町は、昭和47年2月29日八丈島近海地震、昭和47年12月4日八丈島東方沖地震及び昭和50年10月5日突如として襲来した台風13号により、それぞれ甚大な被害を受けた。

近年、八丈町の建築物は、台風及び地震等による被害を被らなかつたことと、観光開発及び建築様式の近代化等により多層化又は開放的な構造となり、過去における歴史的な教訓を軽視する傾向を生じ、台風及び地震等の災害に対する防備が十分でなかつたことが指摘できる。

ここに町民と町は一体となって、その英知と努力により、台風及び地震等による災害を未然に防止し、被害を最小限にいとめることを期するものである。

(八丈町の基本的責務)

第1条 八丈町は、あらゆる施策を通じて、町民の生命、身体及び財産を台風及び地震等による災害（以下「災害」という。）から保護し、その安全を確保するため、最大の努力を払わなければならない。

2 町長は、前項の目的を達成するため、災害の予防に関する計画（以下「防災計画」という。）を作成し、その推進を図らなければならない。

3 町長は、前項の防災計画の作成及びその実施にあたっては、町民の意見を聞くことに努め、これを施策に反映するようにしなければならない。

(調査、研究及び技術の開発)

第2条 町長は、災害の発生原因、発生状況その他災害に関する事項について、調査及び研究を行なうとともに、防災技術の開発に努めなければならない。

2 町長は、前項の調査、研究及び技術の開発の成果に基づき、災害予防のための指導基準（以下「指導基準」という。）を定めなければならない。

3 町長は、第1項の調査及び研究等を行なうため必要があると認めるときは、専門委員を委嘱することができる。

4 専門委員は、当該専門の事項に関する調査及び研究が終了したときは、解任されるものとする。

(都市施設等の整備)

第3条 町長は、災害を予防し、その拡大を防止するため、都市施設〔都市計画法（昭和43年法律第100号）第11条に定めるものをいう。〕の耐震性、耐火性及び耐風圧性の保持、避難場所の確保等施設の整備に努めなければならない。

(火災の防止)

第4条 町長は、災害による火災の発生及びその拡大を防止するため必要な施策を積極的に推

進しなければならない。

(町民に対する指導及び助言)

第5条 町長は、災害の防止に関する事業（以下「防災事業」という。）の実施にあたっては、町民の協力を求めるとともに、町民が行なう災害防止のための自主的活動に対し、積極的に指導及び助言を行なわなければならない。

(他の地方公共団体等との協力)

第6条 町長は、防災計画及びその実施にあたり、他の地方公共団体その他の公共的団体等の協力が必要であると認めるときは、当該団体等に対して協力を要請し、又は他の地方公共団体から協力の要請があったときは、これに応じなければならない。

(町民の基本的責務)

第7条 町民は、災害を防止するため、相互に協力するとともに、町が行なう防災事業に協力し、町民全体の生命、身体及び財産の安全の確保に努めなければならない。

(耐震性、耐火性及び耐風圧性等の配慮)

第8条 町民は、建築物その他の工作物を建設するときは、災害を防止するため、関係法規の遵守はもとより、指導基準を守る等耐震性、耐火性及び耐風圧性等について配慮しなければならない。

(事業者の責務)

第9条 事業者は、町長その他の行政機関が実施する防災事業に協力するとともに、事業活動にあたっては、その社会的責任を自覚し、災害を防止するため最大の努力を払わなければならない。

(設計者等の責務)

第10条 設計者又は工事施工者は、建築物その他の工作物を設計し、又は施工するにあたっては、災害を防止するため、耐震性、耐火性及び耐風圧性等について十分配慮しなければならない。

(防災措置の勧告)

第11条 町長は、台風又は地震等の発生により建築物その他の工作物の倒壊、飛散等災害が生じ、又は災害の拡大のおそれがあると認めるときは、当該建築物その他の工作物、土地又は土石、竹木その他の物件の所有者、管理者又は占有者に対して、防災措置をとることを勧告することができる。

(町民等による監視)

第12条 町民は、地域の安全性について常に監視し、台風又は地震等に対して危険性のあるものについて町長に意見を述べるることができる。

(委任)

第13条 この条例の施行について必要な事項は、町長が定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

建築物その他工作物等の災害及び 災害拡大の予防計画指導基準（案）

建築物等に関する指導基準

一、目的

この指導基準は、「八丈町台風及び地震等の災害予防に関する条例」第2条第2項の規定に基づき定めるものであるが、昭和50年10月5日来襲した13号台風（最大瞬間風速67.8^{m/s}）被災状況から見て、その二次的災害等を考慮した場合、木造建築物等において、構造上、施工上または、使用材質等における対策のみで解決しようとするのは、その経済性居住性等から勘案し、極めて困難であり、防風林（防風垣等を含む。）対策との相乗効果に期待せざるを得ない。

しかしながら、八丈町の区域内において、災害を未然に防止し最少限にとどめるために、建築物その他工作物の建築施工が関係法令に遵拠して行なわれるべきことはもとより、特に留意すべきこととして、基本的事項を示し、台風等災害に対する安全性を図ることを、期するものである。

なお、この基準は将来調査研究に基づき必要と認める場合は、随時改訂補足を行なうものとする。

二、建築物のあり方

建築物の設計施工にあつては、地域の特殊性にかんがみ、下記事項について十分な配慮を行なわなければならない。

但し、別途の調査、研究により設計施工する場合は、この基準によらないことができる。

1. 適用範囲

この指針は、階数2以上又は、延面積50^m2をこえる木造建築物、町長が必要と認める建築物及び一部の工作物に適用する。

2. 敷地の選定及び敷地内建築物等の配置

敷地の選定にあつては、台風襲来時の対応性を第一義的に考慮し決定することに努めなければならない。

また、当該敷地における暴風の主風向を認識し、建築物等の配置を決定するとともに、防風林関係指導基準を遵守できるよう、敷地内に必ずそのための空地を確保しなければならない。

3. 建築物の配置、形状

(1) 暴風主風向に対し、風をはらむ構造、配置は避ける。

(2) 棟が平行して並ぶ場合、最も風上、最も風下の建物が特に大きな風力を受けることに注意する。

(3) 軒先、庇、けらば等は特に出の深い、風のはらみ易い型を避ける。

4、建築物設計上の留意事項

強風時の風圧力に耐えるよう次の事項に特に留意して設計する。

(1) 屋根葺材、外装材等が飛散しないよう、金物等で充分緊結する。

(2) 窓等開口部が吹抜けないように充分防護措置を考える。

(3) 建築物の倒壊防止のため壁面には筋違を釣合よく配置すると共に、床面等にはゆがみ防止のため火打材を設ける。

(4) テラス等風をはらみ易い部分については、特に吹上による破壊防止に注意する。

5. 各部構造

(1) 基礎

基礎は上部構造が地盤に対して沈下、浮き上り、横移動を生じないように、これを地盤に安全に支持しうる構造とする。

特に八丈島は湿度が高く、温暖な自然条件のため、白アリ等の被害が多い。このことは台風等の被災の上で大きな要素となるため床面を標準より高く、換気口も大きくとることがある。従って基礎工事については、十分留意しなければならない。

ア、地業は原則として割栗地業とし、突き固めは目つぶし砂利を敷いたうえで十分突き固める。ただし良質地盤においては、この地業を施すことにより、地盤を乱し耐力を減ずることがあるのを注意すること。

イ、基礎型式は原則として布基礎とする。但し、平家建50㎡以下で独立基礎型式とする場合は、各基礎間は足固め、根がらみ等を設ける。

ウ、基礎は総高60cm以上とし、埋込み部分はその1/2以上且つ25cm以上とする。

但し、基礎のたけが90cm以上のものは9mm以上の複配筋とし、あばら筋は、はりのたけの1/2以下且つ30cm以下の間隔で配置する。

エ、テラス等については、柱を基礎に緊結する。基礎及び軒の出が長い場合には特に風圧力について考慮し、各種継手部分は金物を十分使用する。また基礎についても十分留意する。

(2) 木工事

ア. 一般事項

(ア) 材料については、八丈の風土に見合うものとし、土台等には白アリ等に対する防虫材を使用するとともに、防虫駆除も施行すること。

(イ) 構造耐力上必要な部分に使用する木材は、節、腐れ、丸身等による耐力上欠点のないものを使用する。

(ウ) 木材は十分乾燥したものを使用する。

イ. 軸組工事

壁体（耐力壁）は可能な限り多くかつ釣合よく配置する。特に八丈における建築物は生活慣習上、2 部屋を通し部屋とする傾向があるので、平面計画に十分配慮し、筋違を押入れ部分等を含め、可能な限り多く入れ耐力壁として有効性をはかる。

また、小屋梁面 2 階床面、土台面には火打梁等を設け水平剛性を高める。

(ア) 土台

○土台は所定の位置でアンカーボルトにより基礎に緊結し、防虫及び防腐措置を構
ずる。

○土台の継手は、柱、間柱及びアンカーボルト位置を避ける。

○土台構面には、火打土台を少なくとも隅角部に設ける。

○土台は、100mm角以上、火打土台は90mm角の2つ割以上とし、ボルト（経13φ）締
め、または、カスガイ（経6φ以上）打ち、釘（N115）2本打以上とする。

(イ) 柱

○柱は10cm×10cm角以上とする。

○2階建の隅柱または、これに準ずる柱は必ず通し柱とする。

○柱は土台より設置し、柱と土台及び横架材は金物類〔羽子板ボルト（経13φ）ま
たは、カスガイ（経9φ）両面打ち〕で補強する。

○柱の欠き込みは、なるべく材の中央部付近を避け、かつ断面積の $\frac{1}{3}$ 以上を欠き取
ってはならない。

○地面から1000mm以内の柱脚及び柱と窓台との取合部等腐朽のおそれある部分には
防腐剤を塗布する。

(ウ) 梁及び胴差

柱との取合は、短冊金物又はかね折金物ボルト（経13φ）締めとする。

(エ) 筋違

筋違は、できる限り左右対称に釣合いよく配置し、建物にねじれを生じないよう
にし、間柱と筋違の取合部は筋違を優先し、間柱は筋違の厚さだけ欠きとって筋違を
通し両端部は金物類を使用するなど十分な緊結固定を行なう。

また、建築物の壁又は筋違を入れた軸組（以下耐力壁という）は建築基準法施行
令第46条の規定を満足する外算定された耐力壁の30%位に構造用合板を付加するこ

とが望ましい。構造用合板は日本農林規格による厚さ7.5mm以上の合板でその取り付けは下地に対して長さ50mmのくぎを150mm以内の間隔に打ちつける。ただし下側横架材に対しては50mm以内の間隔に打ちつける。

ウ. 和式小屋組

小屋組については、台風被災状況から見て、その原因が金物類の使用不足または不適切な使用が大きな要因と認められるので、その対策として下記事項について必ず施行する。

(ア) 小屋梁

原則として丸太を使用し、はり間1.8mは末口105mm, 2.7mは末口120mm, 3.6 mは末口150mm以上のものを使用し、仕口は羽子板ボルト（経13φ）により緊結する。

(イ) 小屋束

カスガイ（経9φ）両面打ちとする。

(ウ) 小屋筋違

105mm×15mm材以上とし釘（N45）2本打ちとする。

(エ) 振れ止め

105mm×15mm材以上とし釘（N45）2本打ちとする。

(オ) けた行筋違

105mm×30mm材を振れ止めと併用して釘（N75）2本打ちとする。

(カ) 棟木、もや

継手は、束の位置を避け、腰掛けあり継ぎとする。丁字取合いは大入れあり掛け、カスガイ（経9φ）打ちとする。

(キ) 垂木

45mm×55mm以上の材料を使用し、釘（材厚2.5倍）2本打ちとする。ただし施工上2本打ちが不可能な場合は補助金物を必ず使用する。

(ク) 小屋組みにおいて、もやと束、梁と束等はカスガイ（経9φ）の両面打ちを必ず実施する。けたと垂木には、手違い短冊金物等を使用する。

エ. 屋根野地

八丈島における在来工法による建築は野地板を施行していないのが多く見られるが、耐風圧性からまたは、その居住性等の利点を考慮して下記により施行するものとする。

なお、既存住宅等で野地板未施工のものについては、屋根張り替え時において施工するものとする。

(ア) 野地板は厚さ12mm以上のものを使用し、垂木心で突付け釘打ちとする。

- (イ) 合板を使用する場合は厚さ9mm以上の品を使用し、釘間かくは表材当り100mmとし、釘の長さは板厚の4倍以上とする。
- (ウ) 面戸板は必ず設け、垂木間にはめ込み、釘(N45)2本打ちとする。
- (エ) 鼻隠し板、破風板の厚さは20mm以上とし、各表材当り釘(N65)3本打ち以上とする。

オ. 床組

- (ア) 大引類の継手部分は両面添板当ボルト(経13φ)締め、または、補強金物ボルト(経13φ)締めとする。束と大引きは、カスガイ(経9φ)両面打ちとする。
- (イ) 2階床梁と柱との取り合せは、羽子板ボルト(経13φ)締め、箱金物取付ボルト(経13φ)締めとする。

(3) 屋根葺工事

- ア. 軒先の長さは最小限にとどめる。
- イ. 切妻屋根における、鉄板の両端部は、シナ板(ケラバ巻)を必ず施工する。
- ウ. 鉄板の張り方については、当該敷地における台風の主風向を考慮して施工する。

(4) 建具工事

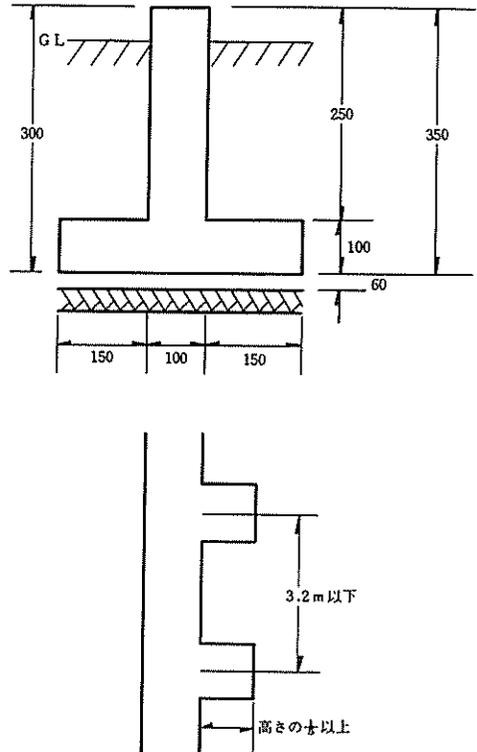
外まわり建具については、耐風圧性と飛散物による被害を防ぐため、下記について特に留意すること。

- ア. アルミ製建具の使用に当たっては、強度120kg/m²以上のものを使用する。
- イ. 雨戸は必ず設置するものとする。ただし、雨戸取付が適しない開口部については、防護板(コンクリートパネル等)の設置を行うものとする。
- ウ. コンクリート造りの建築物については、その強度に過度の依存をし、開口部に雨戸等の設置されていないものが多く見かけられるが、雨戸または、防護板等の設置を行うことが望ましい。
- エ. 雨戸については、その補強としてカンヌキ等の準備をする。

(5) 雑工事

補強コンクリートブロック造のへいは下記のとおり施工する。

項目	補強コンクリートブロック造(高さ1.2m以下のものは控壁、基礎の項を除く)	
高さ	3 m 以下	
壁の厚さ	15cm以上 (高さ2 m以下のものは10cm)	
控壁	間 隔	3.2 m 以下ごと
	突 出	高さの $\frac{1}{3}$ 以上
	鉄 筋	9 mm 以上
基礎	根 入 れ	30 cm 以上
	た け	35 cm 以上
	壁頂、基礎(横) 壁の端、隅(縦)	9 mm 以上
	壁内(縦、横)	9 mm以上 間隔80cm以下
	末 端、定 着	末端は、かぎ状に曲げ、縦筋は横筋に、横筋は縦筋にかぎかけ



6. 一般木造建築物以外の建築物

鉄骨造り、プレハブ等のものについては、特に耐風圧力性のある規格のものを使用する。

倉庫、工場等については、台風被災状況から見てその程度が極めて大きく、当該建築物の被害だけにとどまらず二次的災害として他の建築物に与える影響が頗る大きい。このことに十分配慮して施行する。

三、未利用建築物、その他の工作物、土地造成、竹木その他物件管理の在り方

台風等の災害は、当該建築物の災害にとどまることなく、飛散することによって、他の建築物等に被害を与えるなど、災害を拡大する傾向が強い。災害を未然に防止または災害を最少限にいとめることは、住民相互が協力し対応することによって、はじめて可能であると認められる。

従って建築物その他の工作物、土地または土石、竹木その他物件の所有者、管理者または占有者は、防災措置をとらなければならない。

あ と が き

昭和50年10月5日、八丈島を襲った台風13号により本島史上かつてない大災害を受け、町独自の力では応急対策すらも到底でき得なかったと思われませんが、東京都をはじめ各関係機関の惜しみないご協力と、全国からの暖かいご援助、更には町民各位の懸命な努力によって、復旧作業も順調に進んでおります。

この小冊子は、13号台風災害の救助対策あるいは復旧対策等当時の状況をつぶさに記録し、今後における防災対策の参考に資することを目的に刊行するものであります。

編集に際しては、災害規模等あまりにも広範囲で粗漏の面も多々あるかと思いますがお許しいただきたいと存じます

おわりに、貴重な資料を提供していただいた各関係機関並びにご協力下さった方々に対し、心から厚く御礼申し上げます。

〈表紙題字は峯元町長自筆〉

昭和 52 年 1 月 20 日 発行

八 丈 島
台 風 13 号 災 害 の 記 録

編 集	台風13号の記録編集委員会
発 行	八 丈 町 役 場 東京都八丈島八丈町大字大賀郷 電 話 04996 (2) 1 1 2 1
印 刷	岡 田 印 刷 株 式 会 社

